

雲海と富士山

中川 光郎

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて32年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

**ミルフォード・トラックと
マウントクック11日間 <関空発着>**
出発日 ●11/28 ●12/5 ●12/16 ●12/30
●1/6 ●1/16 ●1/30 ●2/9 ●2/20 ●3/3
¥498,000～¥620,000

**エベレスト・パノラマ・トレッキング
12日間 <関空発着>**
出発日 ●11/11 ●12/23 ●1/6 ●3/17
¥482,000～¥532,000

**ランタン・ヘリ・トレッキング 9日間
<関空発着>**
出発日 ●11/16 ●12/24 ●12/28 ●3/2
¥338,000～¥388,000

地の果ての大自然 パノラマ 5日間
出発日 ●11/22 ●12/20 ●1/3 ●2/7 ●3/7
¥752,000～¥777,000 <関空発着>

マレーシア最高峰 Mt.キナル登頂 5日間
出発日 ●11/22 ●1/12 ¥154,000 <関空発着>
—お申し込みはお早めに!—

**ルートバーン・トラックと
マウントクック10日間 <関空発着>**
出発日 ●11/17 ●11/24 ●12/1 ●12/10
●1/5 ●1/12 ●1/27 ●2/18 ●3/2 ●3/18
¥482,000～¥532,000

**アンナプルナ・ダウラギリ・ヒスターリ
トレッキング13日間 <関空発着>**
出発日 ●11/13 ●1/8 ●2/19 ●3/5 ●4/2
¥362,000～¥366,000

**キリマンジャロゆったり登頂とアフリカ
ゾウロ・ワカ15日間 <関空発着>**
出発日 ●12/23 元旦に登頂! ¥630,000

海外トレッキング<特設説明会>

- ◆初級・上級・トレッキング説明会 <10/25>
 - ◆ニュージーランド・トレッキング説明会 <11/8>
- 会場：大阪科学技術センター 入場無料
時間：18：30～20：30
(地下鉄西つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

初級・上級・トレッキング(年末年始 予約便運行) 12/21・12/24・12/28 発 9日間 関空発着

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業480号/〔社〕日本旅行業協会正会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区潮田町1-10-22 (※03階) 14階
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032
広島サービスステーション(大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

ご請求下さい!

アルパインツアー、総合
ツアーカタログ。
「世界の山旅・辺境の旅」
秋～冬号。海外・国内の
ハイキング・トレッキ
ング・登山コース満載!

シュミネスポーツ特別企画
**ニュージーランド
フラワー・ハイキング8日間**
12月2日(日)～12月9日(日)
旅行代金 ¥370,000 <関空発着>
【日程】①関空→シカゴ→②→③
④→⑤→⑥→⑦→⑧→⑨→⑩→⑪
⑫→⑬→⑭→⑮→⑯→⑰→⑱→⑲
国立公園(Hiking)→(トランス・アルプス鉄
道)→カリストマス⑳→マウントクック(Mount
Cook)→⑳→㉑→㉒→㉓→㉔→㉕
①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧→⑨→⑩→⑪→⑫→⑬→⑭→⑮→⑯→⑰→⑱→⑲→⑳→㉑→㉒→㉓→㉔→㉕



秋色（浄瑠璃寺）

陽光はしだいに透明度を増し
 空はぐんぐん碧を深める
 キューンという鹿の鳴き声が
 涼とした外気のもとで冴え渡る
 朱 ぐれない 緋色
 陽の光を透かした明るさを
 笠のように枝一杯に広げる
 明るい澄んだ空気の中になると
 幸福感に誘われたり
 自分を見つめ直したりする
 濃い茶色の幹から舞い散る
 朽ち葉は一枚の黄金の逆鱗
 息を呑むほど美しい黄葉は
 天をも長れぬ
 奢りの時代の終焉を諭している

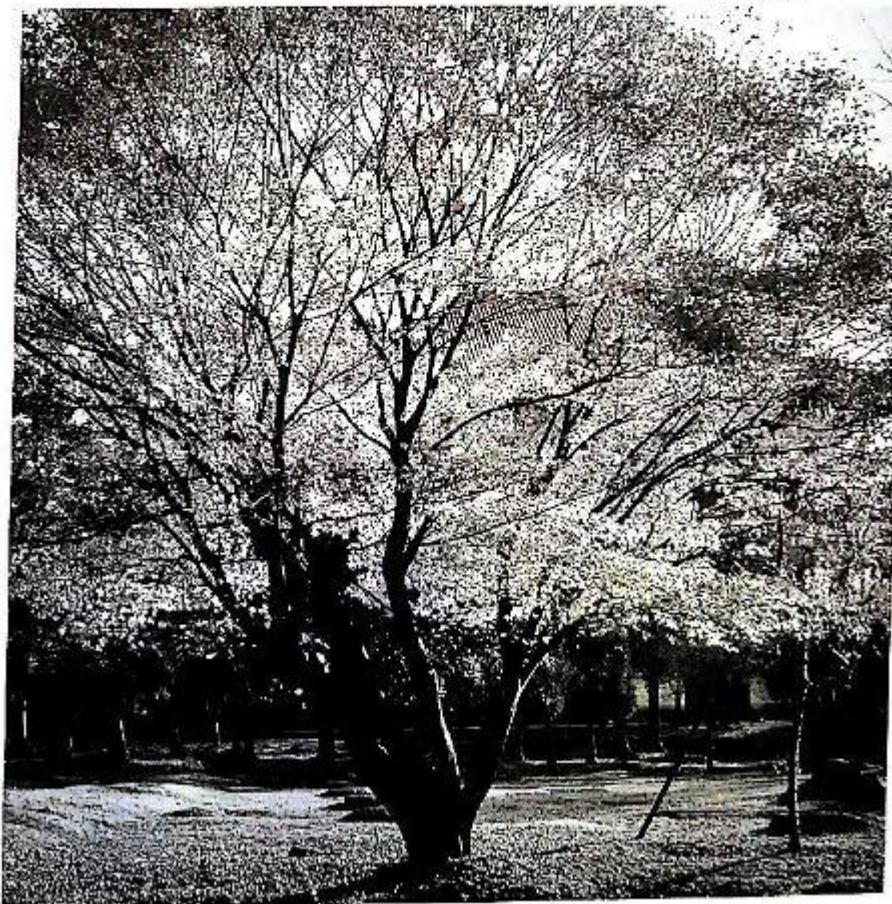


日だまり（小鹿）

Photo essay

秋の色

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収一
 文 松永 恵一



紅葉（東大寺・講堂前）

季節の

実景

晩秋

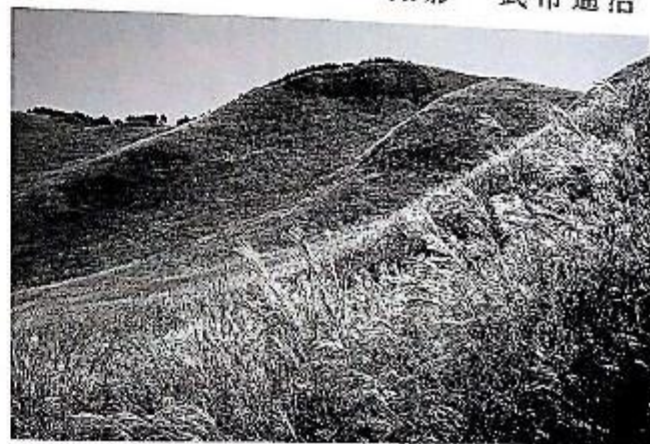
撮影 武市通治



朝顔



日景 (高の尾高原)



ススキ (曾爾高原)



コスモス (滋賀県愛東町)



紅葉 (香落溪)



初冬のイブネ (鈴鹿)

小林 実



辻堂山と筑紫 (台高)

三浦 弘幸



初冬のイブネ源流にて (鈴鹿)

小林 実



鉄塔のある風景 (大江山)

中川 光郎

晩秋の野麦(峠)にて

奥田 英一郎



落葉の白樺林



柿農家



乗鞍岳初雪

新小伴 別冊 関西の山
1981年11・12月 晩秋 第51号

●目次

表紙：松田敏男「秋深まる屏風山」(奥田英一郎)

●作者プロフィール●1949年、兵庫県生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳新聞、山岳部の編集多岐にわたる。『京都平安通』、『アムスバス秋小説』、『東京キャラリー百景』、『山岳新聞』等に著書あり。日本山岳会会員、一等山岳研究員

●グラビエ	秋の色……………撮影 由井 収	文 松永 康一	4 2
(口絵) 中川光郎 三浦弘幸 小林 実 奥田英一郎	随想(山のエッセイ)	武市 通治	
伊吹もくもく	山とインターネット	橋本 達雄	
紀行	塩見岳・間ノ岳・北岳(南アルプス)	生駒 賢峰	12 10
	塩見山と奥ヶ平山(余佳)	鷺見 守康	
	横尾山・大滝寺山・時張山・高崎山など(山登り)	木村 太郎	14
	種子島と霧毛山(南九州)	西原 壽一	22
	白濁山(谷川・北朝野)	内田 真弘	30
	運載 霧に包まれる山の紹介シリーズ △△△の山	多摩 賢雄	32
	北ノ嶺(奥谷山・山々岳・秋瀬ヶ岳)	生駒 賢峰	35
	運載 三峰池を訪ねて	松田 敏男	40
	夜叉ノ峽池を懐に抱くカナ山(湖北)	橋本 達雄	51
	●旅探り通信の研究⑩	柴田 昭彦	42
	奈良県内ルート	板井 久光	55
	●一等三角点(500以上) 548座完全の記録(第28回)	中村 敏文	58
	トカラ諸石島・中之島と北瀬(瀬戸内)	坂永 恵一	62
	●湖南アルプスの大神山・矢野ヶ岳(湖西)	西尾 寿一	66
	●文学歴史探訪ハイイク⑩「女人山」(生野寺を訪ねて)	長山 誠峰	68
	●(山のレポート) 続・山名の同定について(同名は購買か…)	清司 達之	72
	コース	山形 昭	74
	ガイド	金谷 純	76
	①三国岳・竜ヶ岳・大井戸山(北瀬)		
	②駒籠山(八幡山・北瀬)		
	③委細森山と半田峯(湖西)		
	④高原山から四寸岩山(火輪)		
	⑤浅谷山・サンヤリ・天狗堂(湖西)		
	沿線ハイキングガイド	バス時刻表(京都北山)	76
	サービスチェン	登山(5)号と(6)号	81
	せせらぎ	編集後記・1981年案内	81
	新ハイ関西山行計画と報告		97

巻頭言

「山の社会学」(文春新書・須地俊郎)によると、多くの山岳会では高齢化が進んでいるという。多数の会員を持つ「日本山岳会」の平均年齢は約58歳。わが「新ハイキング」でもほぼ同じ数字が上がっています。

山に囲まれた長野県では、最盛期全高校の7割、約60校あった「山岳部」が、いまや30校を割ったとあります。筆者は「苦しい」「活い」「危険」の3Kを上り、それを克服しようとする心構えが、中年に比べて若者は希薄では、と指摘しています。中年に登山の動機を尋ねたところ、「山や自然が好き」が約70%、次いで「健康にいい」「ストレス解消になる」が約20%、山小屋経営者は「時間的に余裕があるからだろう」と分析しています。

いまの若い人は、時間にあっても心の余裕がなさそうです。「省略」とば「省略」を駆使し、すぐに「むかつく」「きれる」では「山」は歩けそうにありません。若い人と隔絶してしまった感の山や自然ですが、若い人を「山」に取り戻し迎えるために、私たちは何を担うべきか一度考えてみましょう。

新ハイキング関西(代表) 村田 賢成



伊吹もぐさ

綱本 逸雄

山岳霊場だった滋賀・岐阜県境の伊吹山(1377m)は、薬草の山としても有名である。同山を紹介した本にその例証として、よく「小倉百人一首」(鎌倉前期)の「かくとだにえやは伊吹のさしも草 さしもしらじなもゆる思ひを」(藤原実方)が取り上げられる。

「さしも(指櫛)」は、艾の意で、蓬の別称である。薬用として古くから灸治に用いられた。この歌の現代語訳は、「これほど恋い慕っていますと云えないものですから、伊吹山のさしも草のように、こんなに燃える切ない思いも、あなたはよもや御存知ないでしょうね」(島津忠夫訳注「百人一首」角川文庫)、歌の出典は平安中期の「後拾遺集」

(巻二、六一)である。藤原実方は平安中期の官人で歌人、生年未詳、995年(長徳元)陸奥守として赴任、三年後任地で没した。

膳所藩士の寒川辰清編「近江奥地志略」は「伊吹山」の項で実方の歌を載せ、「角川日本地名大辞典25滋賀県」も「伊吹山」の項で、「古来伊吹艾の産出で知られ、また歌枕としても著名」とし、実方の歌を取り上げている。詩人・大岡信氏ら監修の「日本文学史大辞典」(地名解説編)、「蓬子館」、木村至宏編「近江の山」(京都書院)、その他ハイキングガイドブックなども同様に、伊吹山と結びつけてこの歌を紹介している。

ところが、実方の詠んだ伊吹山は、美濃・近江の境の伊吹山ではなく、下野国(栃木県)の伊吹山のことだという有力な説がある。

今の栃木市吹上町の城山の峰

(180m)を伊吹山といい、山というよりむしろ丘陵である。付近ではよもぎを産し、「伊吹のさしも草」として「後拾遺集」以外にも古歌に多く詠まれた。例えば平安中期の歌人、源順が編者とされる「古今六帖」に「なほざりにいぶきのやまのさしも草 さしも思はぬことにやあらねど」「あぢきなや伊吹の山のさしも草 己が思ひに身をこがしつづ」「下野やしめちが原(栃木市川原田町)のさしも草 己か思ひに身をや焼くむむ」などがある。

平安末、鎌倉初期の歌人で歌学者・頭昭が著した「袖中抄」は、実方の歌の「伊吹のさしも草」については「此いふきの山は美濃と近江の境なる山には非ず、下野國のいふきの山也」とすでに断じている。

明治時代の吉田東伍著「大日本地名辞書」も、「下野国都賀郡伊吹山」の項で、「古今六帖」

の「あぢきなや伊吹の山」や実方の歌を引用し、「伊吹山の事は、能因が坤元儀に「此山は美濃と近江との境なる山にはあらず、下野なり」と記したるよし、頭昭の袖中抄にみゆ」とある(能因は平安中期の歌僧)。

さらに吉田は、「近江国坂田郡伊吹山」の項で、「伊吹山は下野国にもあり、後拾遺集の「かくとだにえやは伊吹のさしも草」と云歌、又「下野やしめつか原のさしも草」ともよみて、皆下野なること、袖中抄にも其説明白なり」とする。

大槻文彦著「大言海」は「さしもぐさ 艾の異名、古ク、下野國ノ標地ガ原、伊吹山ノ産、名アリ(古今六帖)の歌を引用して、標地ガ原へ、都賀郡、栃木町ノ北方、郊野ノ名、伊吹山ハ、其地ノ吹上村ノ城山ナリト云フ、コレヲ近江國ノ伊吹山ノ艾トスル説ハ、非ナリ」とする。

それでは、どうして実方に詠

われた「伊吹のさしも草」が近江の伊吹艾を指すようになったのだろうか。

木村編「近江の山」は、「すでに、平安時代に書かれた『延喜式』に近江国が薬草の産地として記載されている」からだといい、竹下数馬編「文学道跡辞典詩歌編」(東京堂出版)も近江国が「すでに『延喜式』に国内第一の薬草の自生地と称された」のを根拠にしている。

しかし、「延喜式」(典拠)の「諸国進年料雑菜」に、近江国が七十二種の薬草を貢納したことが載るが、艾を指す熟艾は見当たらない。

近世に入ると、本草書「本朝食鑑」(1697年)に、「艾 凡そ灸は、当今、江州(近江国)伊吹山の艾を上とし、昔から歌人に詠まれていた」という文言が見られ、辞書「書言字考節用集」(1717年)にも「阿武、江州贈吹」をあげ、俳諧作法書

「毛吹草」(1645年)巻第四の諸国名物でも「近江、伊吹蓬艾」をあげる。

だが、これらにたいして江戸後期の「増補語林和訓集」の「増補語林」は「伊吹山艾草、永祿以前、耶穌の者共入来て、病人の資に薬草の地を乞ふ、信長公、江州伊吹山にて、五十町四方(約五十町)の地を玉ふ、彼本国の薬草二十余種を植たり、此時の種今に遺りて、艾草も其中の一種也」と指摘する。

つまり、近江の伊吹艾が知られるようになったのは、織田信長がポルトガルの宣教師を招いて薬草園を開き、薬草栽培させた以降である、とする。

もっとも、伊吹艾が有名になるのは江戸中期以降で、寛政年間(1789-1801)中山道柏原宿で艾販元業を営んでいた松浦七兵衛が、「亀屋佐京」の商号で江戸行商を始めて広まった。安藤広重の描いた柏原宿に

随想 (山のエッセイ)



随想 (山のエッセイ)

は、脱靴かきと暇わう「亀屋佐京」の店頭が大きく描かれていた。明治以降廃れたが、「伊吹堂」の店一軒が今も残っている(滋賀植物同好会編「近江植物図誌」に「京都新聞」)。

こうした経過から、実方の「さしも草」の歌が、後世、近江の伊吹山の名産とされた灸点のもぐさの原料である蓮と結びつけられたのである。小字館「古語大辞典」は指摘している。「角川古語大辞典」は「伊吹文」の項で、「伊吹山産の『もぐさ』。中山道の名物として、配井や柏原の宿で売った。古歌の『いぶきのさしもぐさ』と混同されるが、それは下野の伊吹山のものである」としている。

山とインターネット

生駒 啓盛

インターネットの普及はすさまじい。その情報量も膨大で、開いてみると目を見張るばかり。山に関係のあるホームページも大量で、目を通すだけでも大変である。

三角点に興味を持ち、山登りをしていくのだが、三角点の山は情報が少なく、情報を得るためにいつも国土地理院の「一点の記」を参考にしている。

この「一点の記」は、三角点の巨額のようなもので、その三角点に登るルート図等も示されていて、登山の時の参考になっている。

その「一点の記」は、地理院の測量部に請求して交付されるが、地方ごとに支部があり、登山の所属する測量部に出かける必要がある。

郵便で申請する必要がある。当然費用も必要で、一点ごとに350円程度の交付費を支払う。ところが、今は地理院のホームページで、即時に無料で手に入る。

「一点の記」だけでなく、成果表やGPS資料、2万5千分の1図まで無料で入手できる。そのほか、三角点や測量に関するいろいろの質問にも回答してくれる。もちろん今までと同じように直接交付を受ければ有料であるが、地理院もインターネット上で無料で公開するとは大変な進歩である。

一般の山に関してもたくさんホームページがあり、さまざまな情報が公開されている。「日本百名山」の山はもちろんのこと、「近畿百名山」を始め、三角点の山・アルプスの山など、近畿地方でも、兵庫の山・鈴鹿の山等々いっぱいである。

自分の登りたい山で検索すれば、登山記録が見つかり、登山

道や登山時間等の情報が得られる。ガイドブックはもう必要ないくらいである。

各地の山笠会や登山クラブのホームページもあり、会の内容や山行計画・会員募集等も行って、自分の好みの会にページ上で加入も可能である。

個人でホームページを開いている人もたくさんおり、自分の集めた資料や研究の成果を公開している。自分でホームページを開かなくても、投稿を記載してくれるページもたくさんあり、ページ上だけのクラブもあって、お互いに見知らぬ人とメールで山の会話が可能である。メールで知り合った山仲間と山行することもできるだろう。

さらに山に関する疑問を尋ねることも可能である。

今、新ハイキングで登られている「近畿百名山」にしても、百山全部の登山資料があり、コースやタイム等を知ることができ

る。その他の著名な山の資料ならほとんど得ることができるだろう。

また、登山資料だけでなく、山や花・動物等の写真、山に関する交通機関、天気予報、温泉、宿、さらに観光、おみやげ等の情報もある。宿等はメールで予約もできる。

天候不良で山に行けない一日、パソコンにかじりついていたり、時間が知らぬ間に過ぎてゆく。登ったことのない山はどこからどのくらいの時間で登れるのか、すでに登ったことのある山は、当時の印象を思い出して感慨深いものがある。

鈴鹿の山のページを開いていると、新ハイキング誌の鈴鹿の記事の紹介が出ていたりする。インターネットの情報は、私たちの知らない間にどんどん広がっているのを実感する。

情報通信の発達には目覚ましいものがあり、政府もIT革命を

うたっている。そのうち新ハイキング誌でも、インターネット上で会員募集や原稿の送受ができるようになるのではないだろうか。

国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/>
検索エンジンでは
YAHOO

<http://www.yan.oo.jp/>
GOO

<http://www.gon.ne.jp/>
その他は infoseek・excite
等いろいろなお使いが利用できる。

しおみだけ あいだけ きただけ 塩見岳・間ノ岳・北岳

鷲見守康

南アルプス

塩見岳と塩見小屋



バスの中で私は気が気でなかった。東名高速道小牧ジャンクション付近から始まった渋滞は中央自動車道に続き、土岐インターまで16kmとの表示であった。土岐インターまで一般道を走ったほうが良いと判断し、小牧東インターで下道に降りたものの、こんなことなら出発点のJR岐阜駅から直接土岐に向かったほうがどんなに効率的だったことか。このあたりの地理に明るい人間ならだれでもわかることである。そんな何とも口悔しい思いとともに、高速道の渋滞が土岐から先にもものびていたら、という不安にかられ、バスの前方を睨みつけていた。

「鳥倉林道のゲートは手前に2km後退

していて、30分以上余分にかかります」という情報を山小屋からもらったのは四日前。「いつ到着するつもりですか」という苦言までついていた。

朝9時ごろに岐阜を発ち、その日のうちに三伏峠に着くという計画が多少きついのにはわかっていて、夜行を避けるためとはいえ、全てが順調にゆくことを前提にしての計画は、やはりハナから無理なことだったのか。

暗くなつて三伏峠を目指すというわけにはいかないから、場合によっては、北岳までの縦走を断念するという大幅なコース変更が必要かもしれない。悲憤感にも似た感情に苛まれ、ひたすら時計の針と

バスの先に続く道路とを見据えていた。中央自動車道は土岐インターからは順調に流れていた。ここまでのロスタイムは1時間程。何とか結えるようで、ひとまずほっとする。松川インターで降り、約東通り携帯電話で山小屋へ電話した。「6時過ぎになってしまいますね」とは言われたものの、了解の返事。

バスは小淵ダム沿いの道をクネクネと

それでも快調に走る。運転手が気を遣い、いつもより飛ばしてくれているのがわかった。

ところが、鳥倉林道に入った途端、バスはウンウンと唸り出し、ノロノロとほとんど息絶え絶えに進む。ひょっとしたら、このままエンストでは?という予感に捕らわれたが、緊張のなか、何とかバ

スはマイカーで混雑する車止めゲートにたどり着いた。

早速ザックを背に出立。気がせいじいた私は、おそらく今回のサブリーダーの狩野さん並みのスピードで林道を歩いてしまったのだろう。ほぼ30分で登山口に到着。登山道に入ってから、少し早目のペースとなつてしまひ、後ろにいたO

さんらから注意され、やっと気がつく始末であった。

三伏峠への道は、古くからの塩川道と比べれば全体に緩やかな勾配であり、中高年者向けのルートといわれている。しかし、一定の標高まで車で一気に上がってしまふというところもあってか、バテる人もある。この日、体調の優れないメンバーもあり、リーダーのペース

配分のまずさも手伝って、パーティは大きくぼらけてしまった。

先頭の私が三伏峠小屋にたどり着いたのは18時10分前。夕食はすでに始まっていたが、四回目の夕食は18時30分から、若干の余裕を持てた。

夕食のメニューは、贈通りのカレーライス。おかわりができないと聞いていたが、「おかわりはできませんか?」「考えます」という数回のやりとりの後、小屋側はおかわりの要求に応じた。けっこう味の深いカレーだったので、私も二杯目を注文した。食べ切れないといけないので、一杯目の三分の一の量をお願いしたが、一杯目の注文には応じきれないのか、一杯目の量のままだった。残せばいいものを、食べ物を残すのは一番悪いことと教えられて育った私は無理して食べてしまった。

思えば、これが全ての始まりだったのかも知れない。未消化のまま胃袋一杯のカレーを抱え、予想だにできなかった南アルプスカレー街道を縦走することになったのである。

その夜、私はほとんど眠れなかった。もともと山小屋では寝付きが悪いうえに、





三峰岳から望む塩見岳

やけに高ぶった神経と胃もたれとに苦しめられ、ウトウトしかかると顔や腕を何者かにくすぐられたり、女性の悲鳴(寝言?)が聞こえたり、暗闇に突如として閃光が走ったりしたからだった。

翌日、早朝の空はすっきりと晴れていた。山小屋から兜のような山容を見せる塩見岳を望んだ。

して体が水分しか受けつけないので、ポカリスエットの粉末を溶いて飲んでみると、狩野さんが大きなザックから1ℓの紙パックの野菜ジュースを取り出し、すすめてくれた。何ということだ。狩野さんのザックの中には何でもあるのだ。「歩く冷蔵庫」とも「歩くレストラン」とも異名をとっている。昼食などの休憩時には、それとなく、しかし確実に狩野さんのそばに寄り添うべきである。

展望のきく小岩峰を越えようと、また樹林帯となり時々雨粒が落ちてきた。午後3時、道の行く手にやっと山小屋の屋根が見えた。熊ノ平小屋だ。小屋に着いたころから雨脚は強くなり、雨は夜半まで降り続いた。

熊ノ平小屋の夕食も当然(?)カレーライスであった。最近「海の日」前後の連休の夏山は最も混雑するようで、南アルプスの各山小屋の夕食メニューはその混雑を乗り切るため、横並びでカレーとなってしまうのかもしれない。「だとすれば明日も……」という不吉な予感が頭をかすめたが、だれもそのような話には耳にしにくくもなく、山小屋ごとにカレーを食べ分けて比較できる、こんな体験はめっ

予定通り5時半出立。道沿いを高峯の花たちが飾る。三伏山を越え、本谷山の山頂で休憩をとる。北にはお馴染みの仙丈ヶ岳・鍋岳・甲斐駒ヶ岳・北岳・間ノ岳を望み、烏帽子岳の左に富士山の頂が見えて、休憩中の登山者はにぎやかだ。その賑いのなかで、私は体調の変化を感じていた。腹部に違和感を覚え、吐き気と頭痛がする。

本谷山からもう一度樹林帯に入り、そこを抜けると塩見小屋である。塩見小屋は見ると小さな小屋で、宿泊者が溢れ返っているような状態だった。

いよいよ岩場混りの本格的な登りだ。次第にガスが広がってくる。本日の行程中一番の登りであるが、私は、登りのアルパイトのしんどさに喘ぎながらも、不思議な感覚に包まれていた。体調が回復してくるような感じなのだ。この感覚は、間ノ岳や北岳の登りでも経験した。急登になると調の運びがリズムを求めるようになり、そのリズムに身体がのってゆくのかも知れない。このことは、要するにマイペースということだから、パーティメンバーにとっては迷惑このうえない。事実、パーティはまた距離を置いて離れ

たにできるものじゃない、などとお互いに納得しようと努めたのだった。

ところで、この山行中に宿泊する各山小屋に、私たちのグループは「新ハイキング関西」と名乗っていた。「新ハイキング」という団体名は、予約の段階でもある種の波紋を呼んだのだが、この熊ノ平小屋でも思いがけない事態が待っていた。

夕食後、私たちが食堂のテーブル一つを借りて酒盛りをしていた時のこと。私たちのグループが「新ハイキング関西」だと知った主人が話しかけてきた。「新ハイキング」という団体に対しては、一部グループのこととは言えどもイヤな経験があり、二度と泊めるつもりはないと宣言する。主人の経験は、私たちも驚くような内容であったが、それだけに主人の批判は痛烈であった。私たちが身を小さくしていると「一部のグループのために新ハイキング全体が悪く見られている」と慰めてはくれたが、その言葉もやがてあっけなく吹き飛んでしまうこととなった。

翌朝、主人はペットボトルの水で濡れてしまった蒲団を発見。それが私たちが

離れになってしまった。

南アの主稜線だから道に迷うことはないし、メンバーの一人一人は歩き馴れた人ばかり。そのうえに最後尾を守るのは狩野さんなのだから、何の心配も要らない。先着隊は塩見岳の東峰で大休止し、メンバーが揃うのを待つことにした。

メンバーの皆さんが私の体調を気遣ってくれるのだが、やはり吐き気はひどく、食欲はほとんどなくなっていた。水分しか受けつけないので、Cさんからビールを少しいたいだいた。水結させた1ℓのペットボトルでビールを冷やしながら歩いていくのだ。Cさんに脱帽。

鍋岳への分岐点になる北俣岳を大きくくだると、道はやがて稜線から離れて低木帯を行くようになった。

比較的平坦なもの、熊ノ平への道は遠い。本山中、もっとも長い行程であり、三伏峰から休憩時間を含め10時間ほどの道のりだ。空には雲が出てきたが、どうせ見晴らしの不十分なコース、むしろ日差しに責められるよりはましだと思っ

た。避難小屋のある北荒川岳に到着。水場があるので、ここで昼食とする。依然と

ンパリの失敗であることが判明するや、激昂のあまりか「やっぱり新ハイだ!」と言いつ放った。混雑時に予備の蒲団のない状況で宿泊者を迎えるという実情を聞けば、申し訳ないことであると思うし、主人の苛立ちもわかる。私たちは黙し、さらに大きなトラブルに発展するのを避けた。幸い、私たちが小屋を発つ際には気分もやわらいだのか、人の好い笑顔で送り出してくれた。

そして、私たちの行く手には依然カレー街道が続くのだった。(改号へつづく)
(平成13年7月20日・21日歩)

▲参考タイム▼

〔7月20日(金)〕岐阜駅9:00(貸切バス)鳥倉林道車止地点14:40(登山口)15:10(三伏峰小屋)17:50(泊)
〔7月21日(土)〕三伏峰小屋5:20(本谷山)6:20(35)塩見小屋8:15(25)塩見岳9:35(10)北荒川岳避難小屋11:45(昼食)12:30(熊ノ平小屋)15:10(泊)

△地 図▽

昭文社「塩見・赤石・聖岳」
「甲斐駒・北岳」

鳥見山と貝ヶ平山

木村 太郎

奈良

大和高原の南麓を通る「泊瀬の道」は、初期大和王朝の発祥地に近く、古くから歩かれた道である。泊瀬古道は後に観音信仰の長谷詣での道、伊勢太街道と連なる伊勢参りの道として往来が途絶えなかった。泊瀬の道沿いに位置し、宿場町として栄えた初瀬と榛原の間に万葉集に詠まれた「住坂」や「吉隠」など歌枕の地が伝承されている。

何かと忙しく半月ぶりに休暇がとれて朝寝を決め込んでいたが、知人から届いた北海道利尻島の絵葉書を見て、急にどこかへ出歩きたくなった。

10時に家を出て榛原駅に着いたのは11時30分。「鳥見山中」(巻二時陸二十丁)



春日宮天皇妃陵

の石碑が立つ近鉄榛原駅前を東に出て、近鉄線のガードをくぐり北の方向へ坂道を歩く。大和富士の額井岳が姿を見せる榛原小学校前に万葉歌碑があり、道の先には「墨坂伝稱地」の史跡碑を見つかる。

神武紀に記されている「墨坂」、あるいは、万葉集に「住坂」と詠まれている地は、現在の西塚付近にあたるという。当地墨坂は神武東征伝説の地として知られる。この住坂に住ませた妻に逢うために、宮廷歌人の柿本人麻呂は都から山辺の道を越えて訪ね来ている。

君が家に我が住坂の家道をも

我は忘れじ命死なずは

時に挽歌を詠んでいる。都からほど遠い隠口の泊瀬の道をたどり、山間の空にかかる雲に亡き妻の面影を追求めた。

国道165号線をまたいで、改修された西塚旧村道を上る。鳥見山公園を指した案内板に導かれて林道に入る。道の辺には、ササユリ・ヤブカンゾウ・カワラナデシコなど色とりどりの夏の花がほほえみかけている。大きく湾曲する林道を見送り、直線にのびる山道に入る。薄暗い植林帯を少し歩いた左側に、春日宮天皇妃陵への道標を見つけた。

春日宮は万葉歌人としても知られ、天皇智天皇を父にいたたく志貴皇子が没した



墨坂万葉歌碑

君が家にいる時、私の住坂の家を訪ねる時も、私は貴方のことを忘れない、私の命のある限りは。と人麻呂の妻は詠った。

(巻四く五〇四)

こもくりの泊瀬の山の山の上に
いさよふ雲は妹にかもあらむ

(巻三く四一八)

人麻呂のほうは、愛する妻が世を去った

後に追贈された名である。興味を引かれつつ、展望の道と書かれた分岐道に折れる。手入れの行き届いた道を行くと、ほどなく数え切れない石段にかしずかれた、志貴皇子妃の椽姫吉隠陵に出会えた。静かな時間の流れのなかに、忘れ去れることもなく、吉隠陵は山上陵墓とは思えない典雅なたたずまいを見せていた。

椽林に包まれた石段に立ち、吉隠陵をふりあおいでいると、遠き昔に生きた万葉の女人像の、悲哀をたたえた表情さえ見える気がしてくる。そういえばこの吉隠の地は、天武天皇を父にもつ高市皇子妃であった但馬皇女の埋葬された所でもある。但馬皇女は異母兄の穂積皇子への愛の歌を残している。

秋の田の穂向きの寄れる片寄りに
君に寄りな言箱かりとも

(巻二く二四)

巻の詞書には「但馬皇女が高市皇子の宮に在す時に、穂積皇子を思ひて作らした」歌と伝えている。実りの穂が片寄るように、貴方に寄り添いたい、他人から咎められようとも、と恋心を吐露している。

降る雪はあはにな降りそ吉隠の

猪養の岡の寒からまくに

(巻二一〇三)

同じく巻の詞書に「但馬皇女の奥じて後に、穂積皇子が悲傷流涕して作らした」と伝える歌である。雪よ多く降らないでくれ、あの人の眠る古隠の猪養の岡が寒がるだろうから。最愛の人が葬られた岡を見上げて、まるで生きている恋人を思いうるような、切ない悲しみの情景が胸に迫ってくる。

いにしえに思いを馳せて道の分岐点に寄り着き、一踏目的の地へと急ぐ。東海自然歩道を横切り、以前紅葉の季節に妻を連れて来た懐かしい鳥見山公園に着く。

うかねらふ跡見山雪のいちしろく

恋ひば奴が名人知らむかも

(巻一〇三四六)

雪化粧した跡見山のように目立つ、人に噂もされる美しい人と恋をしてみたいものだ。と恋の憧れを鳥見山に託して詠んだ万葉歌碑が公園に立てられている。

その昔鳥見山近くに大伴氏の荘園があり、跡見の庄と呼ばれていた。また付近の丘陵地は跡見の岡と呼ばれており、いづれも万葉集に伝えられている故地である。

但馬皇女を失った穂積皇子が古隠を訪れた帰りに、跡見の庄に立ち寄ったことがあったのかもしれない。後になって穂積皇子は大伴一族の坂上郎女と結ばれた。まだ少女でしかなかった坂上郎女との出会いは、案外この跡見の庄だったのではなからうか。

古隠の猪養の山に伏す鹿の
妻呼ぶ声を聞くがともしさ
(巻八〇一五六一)

(巻八〇一五六一)

跡見の田庄で作られたという、鹿の妻問いを羨ましいと詠んだ坂上郎女の歌である。但馬皇女を思慕する穂積皇子を鹿に擬して、少女の背伸びした求愛の歌なのかもしれない。

射目立てて跡見の岡辺のなでしこの花
ふさ手折り我は行きなむ奈良人のため
(巻八〇一五四九)

(巻八〇一五四九)

狩りに来た若者がなでしこを求めて、都の恋人に持ち帰ったという歌である。道の途中で見てきたナデシコの可憐な風情は、時代を越えて人々の目を楽しませてくれている。

公園には鳥見社がまつられてあり、勾玉池が園地の点景になっている。池畔をひとめぐりすると、水面にスイレンが花

い花が登山道に涼感を与えている。驟雨もやんで気分よく鳥見山(734・6m)の頂を踏んだ。

ここから先は初体験の道、暗い雰囲気、杉林が少し不安な気持ちにさせる。明るい尾根筋に出て元気を取り戻し、どんどん進むと鳥見山と貝ヶ平山の鞍部に出る。雑木林の登り道を進みに進んで、香醉峠への分岐に至る。さらにひと登りで2等三角点の標石がある貝ヶ平山(822m)を踏んだ。

今では雑木が生い茂り、太古の時代に



月ヶ平山山頂

海底が隆起して出来た山とは想像すらできない。貝の化石が見つけられたことが、貝ヶ平山の山名の由来になったという。山頂に着いた時刻は14時20分。近くの木の枝に古びた温度計が吊るされていて、覗いてみると23℃を示していた。

香醉峠を経て貝ヶ平口へくだる道の途中から、吐山スラン自生地へ行くことができる。この日の帰路は今歩いてきた道を鞍部まで引き返し、玉立への下山道を選んだ。

玉立の集落にくだると、夏夏と見紛うばかりの陽光が降り注いでいた。ベトボトルのお茶も飲み尽くし喉の渇きを覚え始めた。田園の風景が、古き昔の狩猟地の景色に重なって見える。玉立の地名は鳥立の名称が転化したものという説がある。鳥立とは新村出の「広辞苑」によれば、狩猟の時に鳥類の集まるように池沢などを設けた所であるという。

万葉集には、「長皇子御路の池に遊びます時」に、柿本人麿の作った讃歌が載る。

大君は神にしませば真木の立つ
荒山中に海をなすかも

(巻三二二四二)

を開かせていた。よくみると所どころに、小さな白いヒツジグサの花も浮いている。未の刻(午後2時)に聞くことからその名があるが、私を待ち受けていたように1時前に聞き始めた。

木の階段道を上がり展望台に立てば、音羽山や竜門岳が目前に現れる。その手前に墨坂神社東方の輪牧から登路があり、神武伝説の伝わる伊那佐山や井足岳の小さな山並が見える。右手には大和三山方面が見え、左手の大峰方面は残念ながら影にしか見えない。それでも台高の降々は、かすかな輪郭を見せていた。

景観を楽しみながら弁当を広げていると、雨粒が落ちてきた。あわててザックを背負い鳥見山への道を登り出す。前に歩いた時は室生寺の五重塔を備めた程の強風の吹いた後で、おびただしい倒木のため歩行に難渋した。妻を展望台に待たせて、私だけが鳥見山をピストンした。その後二人でまほろば湖を通り、長谷寺へ抜けた日のことが思い出された。

鳥見山へは歩きにくい樹林帯の道だという記憶があったが、歩きやすい展望のよい道に整備されていた。林のなかに入ると、オカトラノオやホタルブクロの白

大君の行くところ山中であっても、鳥の集まる湖沼ができる。まさに鳥立であり、古代この地は祭祀と狩猟の文化圏を成していたのだらう。安騎大野も小野原も昔の狩猟地の呼び名であったが、いっしか地名として定着していった。

熱風の吹く時候とて、山中ではだれひとりとして出会えなかった。存分に考えごとをしながら歩け、ひととき不思議な時空に迷い込んでいたような気分だった。田園地を抜けて玉立橋に立つと、車が騒音を響かせ走っていて現実の世界に引き戻された。

玉立橋のバス停で時刻表を調べているところへタイムングよくバスが到着し、15時8分発に乗ることができた。あと少しの我慢で終点の榛原駅。もうすぐ冷たい飲み物が口にできそうだ。

(平成13年7月10日歩く)

▲コースタイム▼

近鉄榛原駅(45分) 春日宮天皇妃古隠陵(30分) 鳥見山公園(20分) 展望台(20分) 鳥見山(40分) 貝ヶ平山(45分) 玉立橋(バス10分) 榛原駅北口
△地形図V2万5千1初編

隠岐への山旅

横尾山・大満寺山・時張山・高崎山など

山陰

西尾 寿一

はじめに
隠岐は島根半島北部の日本海上約60km³にあつて、行政上島根県に属している。四島に分かれているが、島前が三島、島後が一島の二ブロックになっている。「隠岐島誌」には「隠岐は以前沖ノ島と呼ばれていたが島後と島前とに分けられた。このことから西ノ島・中ノ島・知夫里島の三島を島前とし、島後は一島のため固有名の消滅が生じた」と述べている。

歴史上大陸との貿易・交流史に深く関係しているが、流人の島としても有名となった。島の生成は火山によるもので、特に島

後には有力な山が集中しており興味はつきない。島の民俗行事や牛突儀礼などは観光客に見せるが、山中秘かに行なわれるものもあり、今でも地元だけの世界である。

隠岐の山としては大満寺山や焼火山が一部の篤志家に登られている程度で、他はあまり知られておらず、地元では登山そのものに関心をもっていないので情報入手はきわめて困難である。

スポーツ登山とは無縁な隠岐の山をじっくり味わってみたいと、趣雨前の一週間を当てたことにした。

もよい。

引き返して南を見ると、台形の大きな山が横たわっている。地図を見ると、大峯山(△508m)だ。公園の管理をする人に聞いてみると、「帯は放牧地になっていて車道があるという。五箇村との境界から左に登る道があり、登りきると三角点は先のピークにあった。展望は北方に優れている。」

分岐に戻り、西にある雲峠山(△322m)には林道からわずかのやぶ漕ぎで登れる。なぜこの山が興味深いかというと、少し先に黒曜石の採掘場があるからで、この石が大陸にまで運ばれていたというのである。現在は装飾品に加工され売られている。

五箇村の中心部にある水石酸神社はかなりの古社で立派なものだ。幕末の時期、この社の菅主が中心となり藩士を追い出して、独立国を形成したというのだから、この時代の気風は中央だけのものではなかったのがわかる。

五箇トンネルの手前は公園になっており、右に入る旧道を行くと旧道のトンネルに出るが、入口は閉塞されている。そのまま右の道を行くと横尾山(△577m)



大満寺山

米子からJRで境港に至り、3分でフェリーのりばである。単純明快なアクセスだから、予約無しで思いついたらすぐ出発できるのがうれしい。

1日目は隠岐の西郷港へ夕方着いてそのまま安いホテルで一泊。

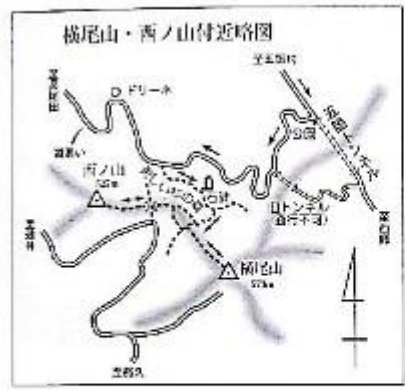
2日目に港の案内所でバイクを借りて

が山頂に電波塔をたくさん乗せて現れる。

嫌な風景だが、横尾山は隠岐でも重要な山なので登っておきたいのだ。車道からではなしに旧い登山道を探してみたいと思い、林道を30分ばかり行くと、山から遠ざかるので15分ばかり引き返す。南側に踏み跡を発見してこれを使って登り出す。

これはすばらしいルートだった。これ以上よいルートは考えられないほどのものだった。まず百年は経た巨木の杉の森のなかを気分よく行くと、円形劇場の底部のような平地に出る。ドリリーネかもしれない。ここに石碑が一基建っていた。文字は判読できなかったが、推測では木地師の村があったのではないかと思わせる雰囲気がある。

道は二分し、右をとると急登となり一時消滅するが、なお行くとやぶのなかに出柱があり巡視隊に出た。後は道なりに急登が続く。アンテナの林立する山頂に出る。三角点は小さな鳥状の草の盛土にはずかしそうに顔をのぞかせていた。展望はなく、すぐ西のピーク(△577m)へ踏み跡を伝って往復して元に戻る。



出発する(レンタル料金の高さは相当なものだが詳細は後述する)。
園分寺跡から隠岐酒造の前を通り、銚子川に沿って時張山の偵察をかねて中村へ抜ける。
時張山は登路が発見できず、後述にして白島海岸を見に行く。白島はシロシマでなくシラシマでなければならぬところが重要で、例証は九州北部に無数に分布する「白塚」との関連を思い起こさせるに十分である。
公園となって道が整備されているので、白い岩の美しい山の先まで行ってみるの



トカゲ岩

乳房杉

この日はほかに時張山の偵察をして西郷に戻り、バイクを返却して民宿「石塚」で泊まる。

3日目は早朝よりタクシーを呼んで大満寺山の登山口まで送ってもらおう。きょうは大満寺山から小敷原山(6000ft)までを縦走する予定である。トカゲ岩までの資料・情報はありますが、その先はだれに聞いても不明のままであった。行ってみて駄目なら引き返すしかない。

車止めから登り出すのが、雨の心配がないので助かる。単独行での雨は気分を萎縮させるのでいけない。

大満寺の小さい草地を過ぎ、急登わずかで尾根にのる。そこからわずかで展望のよい大満寺山の山頂である。608ftで一等三角点がある。この山は登山者が多いとみえ、よく踏み固められている。



縦走を開始するが尾根にルートはなく、いったん乳房杉(北側)へ下降し、林道を峠に登りなおすのである。乳房杉は立派な大杉で樹齢八百年だという。鳥居もある神宿る巨木である。

峠からよい道が鷲ヶ峯に付いている。岩尾根であるが、気をつければ登ってこられる。ここは多少岩の経験があったほうがよいだろう。

鷲ヶ峯から急下降で小広い草原に出て道は二分する。右はトカゲ岩の展望所と布施村へくだる道。左は遊歩道をトカゲ岩の頭へ行くものだ。右を少しくだると展望所があり、鷲ヶ峯のすごい昇風岩を背景にアッシュウ杉の原生林が真黒い森と成って広がっている。

杉の植林ばかり見てきたが、天然の杉林のすごさは格別で、隠岐は杉の国でもあったのだと思わされる。

駐車場におり、再びトカゲ岩の展望所からトカゲ岩の頭へ登りなおす。やがて岩壁を登るトカゲ岩をくくりの岩が見えてくる。不思議な形の岩で、布施村で盛んに観光宣伝しているのもわかる気がする。

10分ばかりで尾根に出て鷲ヶ峯から来

る縦走路に合す。右をとり、急登につぐ急登で岩積みのトカゲ岩山頂に着く。水準点があり、すぐ下がスバツと切れ落ちていて落ち着かない頂である。しかし、振り返ると鷲ヶ峯と大満寺山が深い緑のなかに浮かんでいた。

これから行く先はどうかと目をやると、すぐ近くに見えるものの、やぶ酒きはさけられないだろう。尾山(△598ft)が台形に見えている。

木の枝にすがりながら鞍部に到達すると尾根は広くなり、踏み跡もわかり一棧足でピークへ。三角点はさらに奥のピークだった。展望はなく、すぐ西南に張り出す尾根にのり、小敷原山(6000ft)へ向かう。

この尾根は広くて迷いやすが安全な道で、直接真奥谷へくだることも可能である。真奥谷は上元屋からかなり人が入っているようだ。鞍部まで40分費した。

鞍部は峠状となっていて、その先の尾根はやせてきて岩が出てくる。やや西側を通して山頂まで約25分であるが、地区上でもわかる通り、この先はすごい気配なので小敷原山に登るのはいくらも中村

へ行く。

中村への途中から小敷原山の北面が見えるが、まるで南西の世界である。大岩壁が北へ倒れそうになって直立し、樹木の衣を身につけている。恐い山である。とてもあんな所へ踏み込めるものではないと胸をなでおろした。

なお、上元屋では昔から真奥谷へはよく入っており、小敷原山へも登るといいう。小敷原とは鞍部一帯のことをいい、本来は山の名称ではないのだそうだ。

中村からバスにて西郷へ帰り、再び民宿「石塚」に泊まる。

4日目はバイクを借りて島の西部、特に都方村の大峯山(△474ft)付近と時張山(△522ft)に登ることにする。

西郷から加茂経由で都方村へ。都方へ来て驚いたことに大岩壁に囲まれた立派な山があり、地図を見ると高田山(315ft)とある。都方中野の高田神社へ行ってみると道があり、村民が登るといいう。道順を聞いて山頂まで40分登り、広大な展望をわがものにするのができた。こんな山は予定になかったが、バイクで走っていけばこそ目につく山である。

都方から那久へ。車も走らない道をさうらに行き、油井池を見ておく。この池は真円で噴火口のような形をしており、湿地となって美しく水色が茂っている。ゆっくりしたいが先の予定があるので引き返り、増鏡滝へ向かう。

那久川を遡ると道が二分し、右は滝で鳥居があり、駐車場が車止めになっている。うっそうと茂る杉の大木の下を行くと、15分で大滝があり洞がある。小広い空間は何やら神秘的な雰囲気が漂っている。

先の分岐を左の道に入り、増鏡滝の上を横断し大峯山へ向かう。このあたりは先に登った横尾山の西腹に相当する。その意味では横尾山はただの山ではないのである。

増鏡滝の上にも滝が連続していてもしるそう。道は車が走らないせいかわバイクで走りやすく、気分よく進んで行く。

やがて五差路に出て、前方に地図通りの大峯山が現れる。地図にはないが、歌木へ至る道(悪路)があり、少し行くと「佐山の牛突道」がある。こんな山中にドリーネ状の20×30ftの凹地が草の色も



歌木の大峯山

鮮かに存在し、しかもだれもいなくて「オキノウサギ」が走り廻っている。想像すらできないことだった。

この牛突は瓊鏡滝の神に奉納するもので、地元民だけの世界である。できれば小生も地元民の顔をしてそっと見に来たいものだ。

大峯山は歌木への道を少し行き、尾根に取りついて急登のやぶ漕ぎ約45分で狹い山頂に着く。展望はない。この登山で



歌木大峯山付近略図

の美しさに去り難いが、時張山が残っているのを先を急ぐ。吉市から地図にない新しい道路があり真杉の困道へ出られた。

真杉の村で情報を仕入れるが道は荒れているらしい。それは覚悟のうえなので林道を突へ進む。車止めから歩き出したが袖道は健在である。二俣で右へ入り、やぶがひどくなったので左の尾根に取りつく。と、あながい簡単に尾根に登り着いた。そこから時張山の頂上は一投足ながら、展望はなかった。

下山は南へ尾根を少し行き、谷へ急下りし、先に通った二俣に出ることができ

も「オキノウサギ」がしばらくの間先を行っていた。このウサギは飛びはねるのではなく、四足で歩いていて、牛突場

た。車止めから往復2時間半であった。西郷に戻るまでにバイクがガス欠になりそうだったが、何とか引きのぼしてスタンドへたどり着いた。離島ではスタンドが少ないので、タンク容量の少ないバイクではひと苦労だ。

5口目は島前へ移動し、まず中ノ島へ渡る。港の案内所で自転車借りて、藤枝神社から金光寺山・唯山(△2377m)・高峯(△2044m)などに登る。いずれも低い山で自転車でも十分だ。金光寺山から北方の展望は実にすばらしく、島後の山々のシルエットを背景として、白いフェリーの巨体が走るのも絵になっている。

この日は観光気分自転車を走らせて楽しんだのち、西ノ島の別府港へ帰り、「正木旅館」へ泊まる。この旅館に泊まった理由は、隣が教育委員会の分所で、山の情報が聞けると思ったからで、早速出かける。まず駐在所へ行ってみるが、4月に赴任したばかりで何も知らない。やはり教育委へ向う。これが大当たりで貴重な情報が入手できた。

小生がわらっている山は、1等三角点の高崎山(△4355m)で『黒根泉の山』

(山と深谷社)でも『1等三角点の山』(新ハイキング社)でも、マムシの巣であり、案内人が必要だと書かれている。本当だろうか、人は自分が登り損ねた山は過大に表現するものである。マムシも餌となる小動物がいてはじめて生きられるのであって、マムシばかりがたくさんいるわけではないのである。

教育委では、この高時山は昔は軍隊の物見のあった山で、別府の小学校の脇から尾根通しに道があったらしい。今は別府から船越へ通じる林道があるので、入口さえ見つければ道の跡くらいはわかる



かもしれないと言った。初めは、船越から破線路のある谷をつめ上がるか、耳耳浦から谷を登るか(このルートの記録は後で知ったがやぶがひどい)の二案を考えていたが、全く異なるルート(尾根)があることに驚き、それを試してみる気になった。

6日目、早朝にタクシーを呼んで船越への村道に行く。前日に聞いていたルートらしい踏み跡を見つけたが、タクシーの運転手は会社へ無縁を飛ばして、会社はまた教育委(休みの日に自若へ)を呼び出して聞いている。大事件になりそうなので、「自分で行くから帰ってくれ」と言ったが、教育委の方は「今から行くから待つように」と言うので待つことにして、タクシーには代金を払って帰ってもらった。

単なる親切なのか、物めずらしさでさわいでいるのか見分けがつかなかったが、後でよく考えたら、やはり度を過ぎた超親切なのであった。

やがて教育委が車でやってきて、こちらがきのうの札を述べているのにもかわらず、もうやぶのなかを探している。小

生が見つけたルートがやはり正しいだろう、と言ったことになって別れた。

最初は踏み跡も確かで、小さなテープもあったが、そのうち倒木やイバラの強烈きわるやぶに閉口した。地図のA点のピークまで右に左に倒木やひどいやぶをさけて40分近く費す。A点から尾根を北へ進むとやぶが薄くなり、踏み跡がしっかりする。B点は測量ポイントがあり、C点は伐採跡と思われ、草地の広い尾根となる。

ルートの読みがむづかしく、一歩誤ると深いやぶで身動きがとれない。

D点は岩場で見晴らしのよい小ピーク状である。ここには大阪の登山者の標識があり、E点は鞍部で古い倒木がやぶのなかにあって、乗越に骨が折れる所だ。鞍部を通ると尾根はやせて露岩が出てくる。かなり登ったころ、傾斜がゆるくなり突然足が岩を蹴った感じがして足元を見ると、そこに1等三角点埋まっていた。展望も休み場もない山である。近ごろ1等といえ目の色を覚える登山者が多いなかで、こんなに素朴な1等点はめずらしい。まずはそのことを喜びたい。

ベストシーズン到来!! ネパール・ニュージーランド & キリマンジャロ

ロτζジ泊で歩く ヒマラヤ大展望フーンヒル(3194m)トレッキング 9日間
8,000m 峰アンナプルナとダウラギリを大展望で制覇が出来る。ヒマラヤトレッキングでも1、2を誇る大人気コースです。全コースプライベートポーターが同行しての豪華なトレッキングが楽しめます。
出発日①11/13(水)②12/8(土)③12/25(水)④1/19(土)⑤2/12(水)⑥3/5(土)⑦3/12(水)
旅行代金 272,000円~349,000円

ホテル シャンボチェバ/ラマ泊 エベレスト展望トレック 9日間
トレッカーの憧れ、エベレスト周辺を歩きます。ホテルからは世界最高峰エベレストが望めます。
出発日①11/13(水)②12/8(土)③12/25(水)④1/19(土)⑤2/12(水)⑥3/5(土)⑦3/12(水)
旅行代金 288,000円~345,000円

初心者のためのヒマラヤハイキング エベレストビューホテル 9日間
誰もが憧れるヒマラヤの雄姿を近く、トレッキングを初心者でも安心の入山コースで歩きます。全コースプライベートポーター同行の安心プランで、手軽に歩いて頂けます。
期間:2002年1/15(水)~23(水) 旅行代金:378,000円

**ニュージーランド北島の名峰
登頂&ハイキング 8日間**
3つの活火山を有するトンガリロ国立公園は火山や湖、原生林などを巡る変化に富んだコースです。
期間12/5(水)~12(水) 代金358,000円

**ニュージーランド最高峰
マウントクックハイキング 6日間**
マウントクック村に2泊滞在してたっぷりハイキングと美しい景観と美味しい空気を堪能します。
出発日①12/5(水)②1/16(水)③2/13(水)④3/13(水) 代金 223,000円~243,000円

**ミルフォードトラックと
マウントクックハイキング 12日間**
世界一美しい景観とマウントクック山麓の2大ハイキング地を歩く事で堪能していただけます。
出発日①1/12(水)②1/16(水)③2/16(水)④3/9(水) 代金478,000円~488,000円

**ルートバートトラックと
マウントクックハイキング10日間**
ニュージーランド唯一の景観の中を歩きます。
期間①12/12(水)②12/23(水)③1/9(水)④2/6(水)⑤3/6(水) 代金375,000円~425,000円

新企画 キリマンジャロ登頂とケニヤ山 15日間
アフリカ大陸最高峰とキリマンジャロと第二位のケニヤ山を同じ日程で連続登頂する魅力あふれるプランです。
旅行期間2002年1/20(日)~2/3(日) 旅行代金540,000円

北回り直行便で行く ゆったりキリマンジャロ登頂とサファリ 11日間
出来るだけ確実に高い登頂率を確保する為高気圧帯を避けて、ゆったりとアフリカ最高峰を目指します。
出発日①12/31(月)②12/24(月)③2002/2/8(金) 旅行代金545,000円~598,000円

~~~~日帰りから海外までの総合カタログがあります。ご請求下さい。(送料無料)~~~~  
お問い合わせ・お申し込みは……国土交通大臣登録旅行業第1166号(特)日本旅行業協会 ボンド保証会員

**アミューストラベル(株)** 電話 06-6456-3366  
〒530-0001 大阪市北区御田1-1-3 大阪駅前第3ビル7F FAX 06-6456-3377

**新企画 マウントクック ハイキング  
& フィヨルドランド 8日間**  
ニュージーランド最高峰、マウントクックの雄姿を眺めるような美しいフィヨルドランドでのハイキングです。  
出発日①11/28(水)②12/5(水)③1/16(水)④2/13(水) 代金308,000円~328,000円

**ミルフォードトラックを歩く 9日間**  
世界一美しい景観とと言われるトレッキングコースを3泊4日かけて歩きます。  
出発日①12/11(土)②12/22(土)③1/12(土)④1/16(水)⑤2/16(水)⑥3/9(水) 代金433,000円~483,000円

**新企画 ニュージーランド南島  
三大国立公園トレッキング 10日間**  
三大国立公園でハイキングを堪能する。滝沢プランです。現地日本人ガイド・小川明氏が同行します。  
期間2002/3/6(水)~15(金) 代金398,000円

**新企画 初心者のニュージーランド  
花のサザナルズハイキング10日間**  
現地日本人ガイド、小川明氏と歩くシリーズ。花ノベストシーズンに2つの国立公園を歩きます。海外ハイキングが初めての方でも安心です。  
期間12/5(水)~14(金) 代金398,000円

焼火山は、島後の大満寺山と同じく人気の山で、ガイド書もあるので記述は割愛する。別府から内航船が浦郷や知夫里島の来居港にも通じていて便利である。波止からすぐ登り出して約1時間で登れる。山頂から北へ少しで展望台に出るが、下山は40分である。波止は港というよりは船着き場にすぎない。

午前中に高崎山が終わったので、午後には焼火山を登って知夫里島で泊まることにする。  
高崎山の様子を報告し、「道跡が残っているので僕も木やぶを払えば学生の遠征に復活できますよ」と礼を述べた。彼は島の状況なども話してくれた。UターンならぬUターン事業をしていて、都会の50歳以上の人も島では受け入れていっている。

山頂で休めなかった先ので先の岩場に尻り一服つける。  
登り1時間40分、下り1時間20分であった。林道を別府に向かって歩き出した途端、車が一台登ってきて、それが教育委員だった。3時間経ったので様子を見にきたと事もなげに言う彼の目には苦意があられてる。  
高崎山の様子を報告し、「道跡が残っているので僕も木やぶを払えば学生の遠征に復活できますよ」と礼を述べた。彼は島の状況なども話してくれた。UターンならぬUターン事業をしていて、都会の50歳以上の人も島では受け入れていっている。

- △問い合わせ先▽
- 隠岐汽船 08512 (2) 11222
- 島前組合船(内航船) 08514 (7) 8901
- 隠岐一畑交通(バス) 08512 (2) 1281
- 鎌谷タクシー(西ノ島) 08514 (7) 8321
- くしがレンタカー(西ノ島)

7日目は最後の日である。早朝にアカハゲ山に登る。小さな島なので尾根に登れば、島全体が見えてしまう。  
牧場になっており、牛がたくさん放牧されている。山頂は1等展望台がある。帰りは北東の尾根へ走り込んで来居港へ出ることにしたが、やぶっばいなのでルートを取るおそれもある。自信のない人はやめたほうがよいだろう。2時間半程であった。  
朝の清々しい散歩だった。予定のフェリーに乗り一踏境港へ。船中は寝て一週間の疲労をとることにした。いい山旅だった。大きい山とはまた別の満足が得られた思いがしている。  
(平成11年6月1日~7日歩く)

- 隠岐観光協会 08514 (7) 8088
- 隠岐ポートプラザ 08512 (2) 0787
- 隠岐観光協会 08512 (2) 1577
- 隠岐温泉GO KA 08512 (5) 3200

\* 宿泊は前記ポートプラザ及び各島の観光案内所へ聞けば教えてくれる。  
\* レンタカーは各島にあるが、バイクは西郷港のポートプラザのみである。  
\* バイクの料金設定が割高なのと、朝は8時から、午後8時までに返却が必要があり、連泊は認められないので不便である。町役場が経営しているようなので改善を申し入れたが受け入れられず、不満なら借りてもらわなくてもよいとまで言うのでどうしようもない。車よりバイクのほうが高いのはどういいうわけなのか理解に苦しむ。

# 津和野の市街を見下ろす

## 青野山

「まだ、黄昏どきの頃だった。青野山に陽のかけが残り、民家の屋根から白い煙が風に吹かれるでもなしに揺れて立ちのぼっているのが印象的であった」(作家・津和野) 奈良本辰也著と、青野山の陰にあって夕闇迫る津和野の様子が描かれている。



津和野町と青野山

このあたりがスキー場跡のようだ。トラバース道が終わった地点に巧みかけた小屋とトイレがあり、ここから山頂まで「1400m」と道標がある。



青野山付近略図

### 山と高原地図シリーズ

定価 各780円(税込)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ・1 野原・白・河原・河原   | ・35 白馬岳          |
| ・2 ニセコ・羊蹄山      | ・36 鹿島槍・御前岳      |
| ・3 大雪山・十勝岳・阿蘇岳  | ・37 妙・立山         |
| ・4 十和田湖・八甲田山    | ・38 上高地・槍・穂高     |
| ・5 八幡平・妙・立山     | ・39 奥軽高原         |
| ・6 霧峰・早池谷       | 40 碓氷山           |
| ・7 霧王 霧王・妙・立山   | 41 中央・南アルプス総図    |
| 8 奥山            | 42 木曾駒・空木岳       |
| 9 朝日・妙羽三山       | 43 甲斐駒・北岳        |
| ・10 新山          | 44 奥山・赤石・飯岳      |
| ・11 飯綱・吾妻・奥日光   | 45 白山            |
| ・12 日光・奥日光      | 46 奥山・伊吹・飯岳      |
| 13 日光 奥日光 奥日光   | 47 奥山・飯岳         |
| ・14 奥山          | 48 比良山系          |
| 15 越後三山 奥山・妙・立山 | 49 奥山・妙・立山 1     |
| ・16 谷川原 奥山・妙・立山 | 50 奥山・妙・立山 2     |
| ・17 志賀高原・奥山     | 51 奥山・妙・立山       |
| 18 妙高・戸隠        | 52 北阿の山々         |
| 19 軽井沢・奥山       | 53 八甲・摩耶・吾妻      |
| ・20 赤城・奥山・奥山    | 54 吾妻高原・二上山      |
| ・21 西上州・妙高      | 55 奥山・妙・立山       |
| 22 奥山・妙高        | 56 奥山・妙・立山       |
| ・23 奥山          | ・57 大野山群         |
| 24 大富隆連嶺        | ・58 大野山群 奥山・妙・立山 |
| 25 奥山 1 奥山・妙・立山 | 59 奥山・奥山         |
| 26 奥山 2 奥山・妙・立山 | ・60 奥山・妙・立山      |
| ・27 奥山・妙高       | 61 大山・妙・立山       |
| 28 奥山           | 62 奥山・妙・立山       |
| ・29 奥山          | 63 奥山・妙・立山       |
| ・30 奥山          | ・64 奥山・妙・立山      |
| ・31 奥山・妙高       | 65 奥山・妙・立山       |
| ・32 奥山・妙高       | 66 奥山・妙・立山       |
| ・33 奥山・妙高       | 67 奥山・妙・立山       |
| ・34 北アルプス総図     | 68 奥山・妙・立山       |

(★印は新装版の地図です)

※昭文社の「山と高原地図」は年復版として毎年書籍発行します。この山行の時はなるべく最新版をご使用下さいませすようお願ひ申し上げます。  
 ※2000年版は「大雪山」「甲斐駒」「奥山」「赤石・奥山」「阿蘇・九重」を全面改訂し、新刊として「奥山・奥山」を刊行しました。



株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区有明3-1  
 電話03(3555)8111(代) 千102-8238  
 支社 大崎市宮川区西中島6-11-23  
 電話06(6303)5721(代) 千532-0011

(インターネットで情報発信中)  
<http://www.mappe.co.jp/>

### 内田嘉弘

### 西中国

その青野山は、コンサイス山名辞典に、「白山火山帯に属する典型的な鐘状火山。石英斑岩基盤を貫く角閃石安山岩からなる。北麓の青野原はキャンプ場。雄大な山容は谷文晁の『日本名山図会』に記載されている。」と紹介されていた。そこで、『日本名山図会』を捲ってみたが、ない。もう一度一ページずつ捲ってみると、「先山」の項に在談路津和野とある。この津和野とは兵庫原談路島の津和で、それを津和野と間違えたのであろう。残念ながら、谷文晁の『日本名山図会』では中国・山陰地区の山は紹介されていない。  
 JR小郡駅から山口線を下ると、津和

杉林の直登から右へ左へとジグザグを切って登り、左へトラバースして支尾根に出る。ここから足元の霜柱をザクザクと踏みしめての急な登りが続く。アカメガンワ・ウツギ・スルデ・コハウチワカエアの林のなかに、「くじけるな あと800m」「ファイト一発」と元気づける札が目につく。おそらく津和野小学校の集団登山の折に学童たちが付けたのであろう。  
 津和野市街地展望台の「ファイトあと400m」からは緩い登りとなり、台地状になる。

やがて、祠のある青野山(907.6m)の山頂に着いた。  
 2等三角点とその先にある。東に安蔵寺山、西には高岳山が望め、「笹山登山口1・3K」と道標があった。  
 (平成13年1月3日歩く)

▲コースタイム▼  
 青野鎮駐車場登山口(1時間10分) 青野山(50分) 青野鎮駐車場登山口  
 ▲地形図▼5万 津和野  
 2万5千 津和野

野駅の次は青野山駅。駅の近くの地名は「龍耕」や「直地」があるのに、山名が駅名になっているのはめずらしい。



青野山山頂

前回は、福賀から国道9号線を津和野へ。国道に跨る稲成神社の大鳥居の手前で右折し、南谷川沿いの道を上がって行くと、谷が開けて元笹山の集落が近づいてきた。その手前の左に林道がある。この林道に入り、北側へ廻り込んだ所から右上へと上がって行くと、終点が青野鎮駐車場で、「青野山登山口 自然観察路」と道標があった。  
 いきなりスキのなかの直登だが、すぐに左へトラバース道になる。足元にはフユイチゴが見られ、ゆるい登りが続く。



1等三角点と名所

種子島と馬毛島へ

多摩雪雄

南九州



以上が明治期の記録(△点ノ記)であり、標高は71・14材である。以後現在まで地理院の測量記録はない。点名馬毛島。この東側の△24・7の点名は高坊。北の△21・8の点名は葉山。

馬毛島  
鹿兒島ヨリ汽船ニテ北種子島ノ西之表ニ到リ夫レヨリ和船ヲ雇ヒ海路凡四里馬毛島ノ東端小湾内葉山浦ト云フニ入船夫レヨリ約七八丁許島ノ西南方ニ当ル小高邱ヲ指シ平野ヲ往ケハ本点ニ達ス本島ハ牧場ニシテ野牛多ク飼養シ居レリ  
本島ニハ立木更ニ無ク西之表ニテ準備ノ上大藁、柱、杭材及薪科ヲモ携帶スルヲ要ス

備人ハ北種子村ニテ召集渡島ヲ要ス給料金四拾銭食料ハ北種子村ニテ使ス飲料水ハ測点附近溪間ノ溜水ヲ飲用スル外ナシ島内ノ運搬ハ総テ人肩ニ據ル外ナシ四月以後八月頃迄ノ間海上濃気甚シク測量ニ

不可ナリ

観測ニ簡易懸柱方錐形標板黒色。標高ナハ柱石上ニ面ヨリ心柱頂マテ五米九六。観標ノ敷地九坪。明治四十二年八月八日構造。

標石ニ小豆島産花崗石ヲ以テ製シ光礫施ノ直下ニ埋定ス幅員二等点ニ全シ。下方盤石ハ埋定セス。磐石上柱石ノ高ナ〇米七九二。明治四十三年八月六日埋定。明治三十九年八月廿二日埋定者 陸地測量所 古田 盛作

観測ニ大正元年十一月十一日始業 十二月十九日完成ス 陸地測量所 齊藤壽吉

れ、あちこちに廢車が放置されている。平成10年6月4日、最後の島民であるひとりの女性が島主により強制退去させられた。

葉山漁港にある地図上二軒の家屋記号の北側は、コンクリート造の倉庫として今も使用され、南の住居共に島主の仮泊に要している。ここには4WD車を含めて10数台の廢車と、数多くのオートバイが残置してあるが、それぞれ一、三台は使用可能である。

島の中央部に一軒の家屋記号と墓記号があるのも島主のものと思われる。

戦中の食料難を緩和するために植えられた蘇鉄は、奄美諸島でも大群落を見ているが、ここのは文化二年(1802)以降、種子島全島が飢饉の際、たびたびこの蘇鉄によって命をつないだと言われている。葉山地区には2メートル以上の群落が広範囲に自生している。

西之表漁港に近い宿に渡船を依頼し、ちょうど30分で馬毛島に着き、小雨のなかを南の△高坊への丈標車道をたどる。

松林を抜け、学校跡を過ぎて道の東側を注意して見たが、明治期埋定の標石は発



種子島・馬毛島付近略図

人瀬西から西微北への実線に入ると、大干松の大樹並木と広大な牧野を行くようになり、正面の黒木の小丘上に橋が見え、惟ノ木港への道と分かれて逆にたどると、目前の高みに監視望楼がある。

1等三角点標石は15材角で欠落あり、磁北は340度、1材角に打設されたコンクリート敷で保護されてトーチカ様の望楼の前面にある。ということは、近年埋理院によって測量が行われた証である。先年、奄美群島全島探査の折にも、測量旗・標式・ポール等により測量実施を確認したが、九州地方測量部では一点ノ記を作成せず、よって建設省国土埋理院には明治期の記録以外には存在しない。

点名馬毛島1等三角点周辺は大干松が群生し、望楼上に鉄骨の展望台が新設されたが、この微雨のなかでは、いずこも同じ風景である。10時、無風、微雨、18℃。葉山港からさらさら歩いて1時間10分。

種子島の名所と三角点



# 山・旅・友―私が歩んだ道

石村揚正 著

A5判・二二〇〇円

著者の半世紀を越える山歴の中から、印象に残る登攀や、南米・ヒマラヤ・アルプス等の外国の山旅の記録。そしてかけがえのない山友達への思いを綴る。

# 北摂の山(上) 東部編

慶佐次盛一 著

四六判・二〇〇〇円

昔から日帰り、家族連れで親しまれてきた北摂の山々を写真・地図と共に案内。道標の有無や交通機関を示し、寺社や史跡等も紹介したハイキングガイド。

★表示の価格は消費税を含みます

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2  
☎075-751-1211 〒606-8316

となることだろう。

先の建国の文にもある通り、白頭山は朝鮮民族発祥の地で、故郷の山と思はれる聖地である。そのため朝鮮の人たちは、一度は訪れたい願望を持っているという。

戦中派の私の時代には、朝鮮と満洲国の国境を流れる鴨緑江・豆満江の発する山と教えられ、昔から知名度のある山でもあった。

かねがね一度登ってみたいと思っていたが、南北に分断されている現在、北朝鮮には自由に行くことができない。私たちが登れる朝鮮半島の山は南の韓国の山に限られる。朝鮮半島全体で見ると、白頭山(2774m)を筆頭に、2000mを超す山は全て北朝鮮側に存在する。

韓国の最高峰は済州島の漢拏山(1950m)で、2000mを下回る。二番目は智異山(1915m)、三番目は雪岳山(1708m)となる。

ちなみに北朝鮮では、  
1位 白頭山(2774m) 長白山脈  
2位 冠帽峰(2541m) 咸鏡山脈  
3位 北水白山(2522m) 咸鏡山脈  
で、2000mを超す山が36山数えられる。

南の最高峰の漢拏山は、朝鮮半島全体では37番の高さになり、北部の方に高山が多いことを示している。

北朝鮮側からの白頭山に登ることは難しいが、中国側からの白頭山は入山が比較的容易で、数は少ないがツアーも出ている。今回その一つに参加して白頭山に

て暮われているかがわかる。

同行の人たちは韓国系の人たちばかりだが、なかには北朝鮮に親戚があり、彼らの住む北朝鮮を一目見たいというだけだった。私は単なる山好きというだけだから、その目的は大きく違っていた。もっとも二世三世の人たちは、言われなければ日本人と変わりがないので、気爽に旅行は楽しめた。

関西空港から中国の飛行機で2時間余り、瀋陽に到着する。何という早さだ。地図を見ると、大阪から韓国、北朝鮮と一直線に飛んでいた。今までの北京廻り

より数倍早くなっている。さらに国内線を乗り継ぎ、1時間程で延吉市に到着する。若い朝鮮の女性ガイドが待っていた。

ここは中国のはずだが町にはハンゲルの文字がいっぱい。中国語と半々、いやハンゲルのほうが多いだろう。韓国の町と全く変わりが無い。何でも朝鮮民族自治州としてハンゲルの併記が義務付けられているらしい。ここは60%の住民が朝鮮民族で、位置の関係からも北朝鮮の人が多いことである。

白頭山は延吉市から250kmの距離にある。本来山麓のホテルに宿泊して登るのだが、現地のホテルの数が少なく、大半の旅行者は延吉市から往復するという。道路の半分は未舗装で、片道4時間半、往復で9時間が必要である。

早期3時に起こされ、簡単な朝食のボックスをもらってマツダの中型バンに乗り込む。

延吉市の緯度は青森くらい、すでに空は明るい。われわれ9人と総行程同行の中国人ガイド、それに現地ガイドの総勢11人出発する。

町はずれると穏やかな農村風景が広がる。一部未完成の高速道路を走り、龍井市を過ぎると舗装が切れた。水田とトウモロコシ畑が広がり、農家が点在する。屋根の端が反り上がり、壁尾のあるのは朝鮮民族の家とのことだが、まだまだ粗末な葺き葺きの家もたくさんあり、電線は引かれていないもの、韓国ではすでに全く見られなくなった古い家屋が多く見受けられる。周囲の山々は緑が多く、一昔前の日本の農村そのもので郷愁を感じる。

畑が終われば森が現れる。所どころにドライプインの小屋掛けがあり、ジュースや果物、豆等を売っている。トイレ・ストップ(まともなトイレはない)すると、野生の朝鮮人蔘だと売りにつけてくる者もいる。長白山観光のルートになっているので、けっこう観光客が通るようだ。



白頭山(長白山)付近地図



公園入口ゲート

林道でも通行料が必要なり所もあり、長白山近くでは20分ばかり有料道路があった。

やがて長白山自然保護区

に到着する。森のなかにゲートと料金所、数軒のみやげ物屋が並ぶ。どこから集まってきたのか観光客が賑やかだ。入園料を支払い30分ばかり走ると、長白瀑布と山頂との分岐点になる。ホテルや駐車場があり、ここが山頂に登る四輪駆動車の出発点で、さらに20分で長白山温泉に到着する。

二、三軒のホテルとおみやげ物屋が建つ。新しい大きなホテルで差し昼食をとる。ここは北朝鮮系の在日の財閥が建てたホテルで、夏のシーズンとて、群馬県在住だというオーナーが娘を連れて来ていた。娘さんは久しぶりで日本語が話せたと楽しそうであった。

折から猛烈なスコールがやってきた。しばし雨宿りするもやみそうもないので、

時間のこともあり、傘をさして近くの小天池を見に行く。林のなかの直径50メートルの池で、小川が流れ込んでいるが、出て行く川はない。火山噴出帯で水は地下に浸透してしまい、増水しないそうである。長白山の天池にならって小天池と名わっている。

まだまだ雨は降りやまない。折から登って来る車で道は大渋滞。この道は長白瀑布見物の車だが、ホテルの窓からも見える滝までの間に千台くらいの車がひしめく。滝自体は落差60メートルで、日本ではそれほどめずらしくもないが、中国では有名な滝らしい。

車の所有率は日本より少ないはずだが、いったいどこから湧いてきたのかと思われるくらい車が上り下りする。滝に駐車場がないこともあり、道路脇に駐車するので車の行き交いができない。日本に比べて交通マナーもよくないから、見ていらいらした。交通の不便な中国僻地のこの地が、中国人の間でも有名であることを知った。

雨も上がり山頂に向かう車に分乗する。トヨタのランドクルーザーが何台か走っているが、多くの人で車の奪い合いだ。

類のメニューがあったが、種はサツマ芋の粉がたくさん入った腹の強い薄黒い類で、味はまずまずであった。

ホテルの夕食のショーは全て朝鮮の太鼓や歌で、大勢の客の中に日本人の姿は見られず、みな韓国からの観光客であった。やはりここは朝鮮民族自治州の町であり、長白山は彼らの憧れの山である。中国でありながら、韓国の町に來ているようであった。

次の日、1時間ほど走り、国境の町、図們市に行く。幅100メートルの図們江に架けられた橋の中央が国境で、その手前までは自由に行くことができる。北朝鮮側を見渡せば、低い山並みが広がり、人工的な物は全く見当たらず、静かに眠っていた。時々中国の乗用車が来たり、2〜3人の人が歩いて来るが、中国側も北朝鮮側も兵士一人の姿も見えず、国境の緊張感は全くない。下流の鉄道橋にも列車の影はなかった。

中国側は賑やかで、農業公園では国境の川に遊覧ボートが浮かび、輪投げやゲンゴロウ虫を使った賭け事の店が開いていた。これも観光名所で、次々に観光バスがやってくる。日本人はあまり関心を

山頂まで舗装され、乗用車でも通行可能だが、中型バスは通れない。ジグザグの道を車は駆け上って行く。毎日走っているドライバーは慣れたもので、一刻も早く客を運んで稼ごうとカーブを猛烈に飛ばすが、こちらは車内で悲鳴をあげる。車道を歩いて登る人もたくさん見た。20分程で山頂に到着する。下は何とか晴れているが、山頂は霧がたちこめ冷たい風が吹き抜けて、深い火口はいくら眺めても見えなかった。

「天池」の石標で記念写真を撮るのが精いっぱい、韓国の人たちは火山礫を記念に拾っていた。長白山の火口は国境でもあり、三分の二は北朝鮮。最高点も北側になる。天池が見えないのは残念だったが、Tシャツ姿では寒くて、早々に下山した。

天池の水が流れ出て長白瀑布となり、中国の松花江の源流となる。また北朝鮮との国境の川、図們江(豆満江)の源流でもある。

その後バスに乗り換え、また4時間半走って、午後9時延吉市のホテルに帰る。翌日、延吉市の旧都の龍井市で、抗日

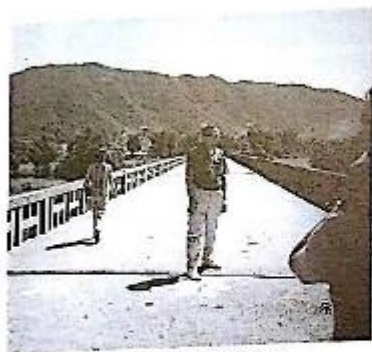
示さないが、南北に分断された朝鮮の人たちには、行くことのできない北朝鮮をかいま見る唯一の場所である。

図們市は交通の要衝で、延吉市よりこちらのほうが鉄道が発達している。鉄道員の宿舎や診療所が多く建っていた。

午後、延吉市の博物館を見学する。昔の朝鮮民族の生活用品等が展示されていたが、たまたま現地写真家の長白山の写真展が開かれていて、悪天候で見られなかった頂上の四季の姿を見ることができた。

市内の市場では、海産物には全部北朝鮮産と書かれていた。国交もない日本からは未知の国の北朝鮮も、ここでは故郷でもあり身近な国である。今回は中国旅行だが、全く韓国旅行の感があり、早く南北の統一が行われ、北朝鮮側の白頭山に、韓国の人々と共に行くことを願わずにはおられない。

先日ある旅行社からのパンフレットに、北朝鮮から白頭山に行くツアーが催行される、とあった。しかし、未だ費用も高く、コースも制約があり、北朝鮮が旅行に開放されるのはまだまだ先のことだろう。(平成11年8月行く)



図們橋、対岸は北朝鮮

の烈士伊東社の学校と生家を見に行く。また、中国最大の熊の飼育場も見学する。ここでは540頭もの熊が飼育され、漢方薬がつくられていたが、今は熊を殺すことなく熊膽の一部を取り再生させる。また、野生でない効果がないとのこと。昔年湖は山に放してから流れ帰るそうだが、今通れなくなったばかりという熊たちの一群は、檻の中で人間に牙をむいていた。当然観光客には本物間違いないと売られていたが、2週間くらいは薬酒が2万円だった。

延吉市で北朝鮮の本場の「平壤冷麺」をリクエストする。店では何種類もの冷

新ハイ関西61号

標高△△61mの山

北ノ俣岳 (2661m)・北アルプス)  
 奥谷山 (861m)・奥美濃)  
 仙ヶ岳 (961m)・鈴鹿)  
 釈迦ヶ岳 (1061m)・比良)

北ノ俣岳

栗師岳と黒部五郎岳という人気のある山に挟まれている。この山を主目的とする山行はあまりしないと思うが、私は1999年の8月に神岡新道から北ノ俣岳をめざそうと試みた。

登山口の飛越トンネル前でテント泊をした翌朝、数人の登山者がたぐさんの酒を持って登る話声で起こされた。その話の内容から推して、私たちが予定していた10人程度がやっと泊まれるほどの北ノ俣避難小屋に泊まるようで、私たちが3人

は挫けてしまい、手前の寺垣山日帰り登山に変更したのだった。

その同じ年の夏、黒部源流の美しい谷、赤水沢を遊行する計画が立てられ、沢登りの初心者である私も参加した。

その噂えようのない谷の美しさは、私にはとても文にはできない。有名な沢なのでかなり踏み跡がはっきりと付いていて、それがかえって徒らとなって大滝手前で大捲きをしてしまった。しかしやぶ漕ぎに疲れて、「振り返れば水晶岳」というゴージャスな眺めに私は満足した。

稜線が上がったあと、その日の泊まり場の太郎平小屋に向かう時に通過した山

新人1人を含む6人のメンバーで京都駅前を7時に出発し、9時過ぎに外津波に着く。



奥谷山登山道にて

が、北ノ俣岳である。

(平成11年8月6日(8日歩く))

△コースタイム▽

折立(5時間30分) 栗師沢小屋(6時間30分) 北ノ俣岳(1時間30分) 太郎平小屋(2時間30分) 折立(熟練者向)

△地形図▽

2万5千(栗師岳・三俣蓮華岳)

奥谷山

4月の山行計画を立てる集会で、時高さんが第四日曜日(奥谷山)を計画した。この名前、どこにもありそうな響きだが、頭のなかの山名辞典箱をひっくり返してみても見当たらない。

「どこからそんな山を仕入れたんや」と尋ねると、彼は涼しい顔で「新人でも行ける簡単な山」と答えて煙に巻いてしまった。

谷汲と横山の地形図を広げてくっつけると、その中央南の隅に△860・861mがあつて、北東の外津波から登山道が上がっている。明瞭な尾根の一本道だ。尾根上には下からずっと広葉樹のマークが記されている。これはよきそうさだ。

登山口近くに車を置き、踏み跡を登る。すぐに山奥に入ったような、ほんとうに名前の通りのよい尾根だった。新緑の広葉樹林に日が差し込んで爽やかだった。落ち葉を敷きつめた地面の間からイワウチワがつつくと伸びあがって美しかった。

久瀬村と春日村との境に出て、少し左に登った所が明るくて広い山頂だった。(平成9年4月27日歩く)

△コースタイム▽

外津波(3時間) 奥谷山(2時間) 外津波(一般的だが道標なし)

△地形図▽2万5千(谷汲・横山)

仙ヶ岳

鈴鹿山脈は水沢岳を最南峰にしてその南には1000mを越える山はないが、双耳峰の仙ヶ岳は1000m以上に満たないものの重畳感があり、山の姿が実に堂々としていて風格のある山である。

夏の暑い日、大山さんの車に乗せてもらって仙ヶ岳の南東の坂本に向かった。坂本から北へ登って行けば、まず野登寺が山頂直下にある野登山である。野登寺

までは車道も通じていて、汗をかいて登ったあとの車道歩きは少し異ざめだったが、野登山の三角点を往復したのち、仙ヶ岳へと向かう。

頂上付近の大きな花崗岩が印象的だった。下りは双耳峰のたわんだ所より南西に流れ出ている白谷をおりる。花崗岩の明るい沢で水が清らかだった。石を拾って流れを渡り返しながらくだった道がコースのハイライトだった。林道においてから茶畑を横切って坂本に戻った。

(平成2年7月15日歩く)

△コースタイム▽

坂本(2時間) 野登山(1時間30分) 仙ヶ岳(3時間) 坂本(往脚向)

△地形図▽昭文社(御在所・鎌ヶ岳)

釈迦ヶ岳

比良山脈のなかで人気の高い山の一つ。一般コースばかりを歩いて、10回程山頂を踏んでいる。山頂の樹林の下は格好の憩いの場だ。

△地形図▽昭文社(比良山系)

連載 旗振り通信の研究 ⑤

奈良県内ルート

柴田昭彦

【旗振り通信のはじまり】

★南方熊楠「旗振通信の初まり」(昭和4年。全集第四巻、昭和47年)によると、宝永3年(1706)7月の『熊谷女編笠』一の二、「商いは千里を一目に見透かした遠目鏡」には、大坂から闇がり峠まで走って来て、目標の松に立ちをい、左右の手を動かして合図する人夫(赤頭巾に赤布の小手を差していた)を雇い、それを郡山の問屋の二階から遠眼鏡で見、相場の上下をいち早く知り、見通し与三次と呼ばれたという話があり、これは挙手信号である。ある日、人夫が酒を飲まされて、でたらめな信号をしたため、与三次は大相をしたという。

★貞享3年(1686)の『好色一代女』三の三、「調製船」に、「今一人は北浜のはた商いする人」とあり、南方熊楠は「貞享のころ旗振相場はありしにや」と書き残している(全集第四巻)。堂島へ米市場が移る(元禄10年、1697)以前に旗振り通信があったかどうかは不明である。「はた商い」とは相場における空売りのことで、「旗」と書くこともあるが、利益を植え付ける「畑」、年貢をはかる「畑」という洒落によるものらしい(佐古慶三、近松の「はたした衆」考、『土方三十六号、昭和8年12月])。

と旗振で相場を知らずことがあり、この戯曲は、解題に寛保三年(1743)版とその名題が見えるという(全集第四巻)。

★「熊谷女編笠」の角屋与三次の話は、三田村高魚「大阪町人の相場通信」(『太閤』第三十三巻第十二号、昭和二年十月号、博文館、2021(205頁))にある。全集第六巻(中央公論社、昭和50年)および高魚江戸文庫18「札差」(中央文庫、19



相場取山(550m)の山頂から国見山(中央)を見る

98年)に「大阪町人の相場通信」と題して収録されている。

★近藤論文(石橋氏談)によると、延享2年(1745)頃、大和国平群郡若井村(草野町若井)の住人源助なるものが、その配下を大坂にやり、本庄の森(本庄の塚、北区本庄・豊崎)より信号によって堂島の米相場の高値を表示せしめて、これを自ら十三峠より望遠鏡で眺めたのが、起源であるという。最初は煙、次は大傘、後に旗を用いるようになったという。後には大坂駅近辺の墓地が信号場所となった。

★南方・近藤両論文から、旗振り通信の始まったのは、1706年より後と考えられ、1743年ごろには旗振りが行なわれた形跡があるが、1745年でも煙が用いられており、旗を用いる方法が盛んになるのは、禁止のお触れの出た1775(安永4)年ごろのことである。

★松永定一「北浜盛衰記」(東洋経済新報社、昭和34年)およびその新版「新北浜盛衰記」(同社、昭和52年)には、米相場を織その他の合図で伝えることを禁止するお触れが出たのは宝永三年(1706)とあるが、他の文献では裏付けがとれない

い(中巻①にあるが、松永の本によったものらしい)。元禄年間に江戸で紀伊国屋文左衛門が色紙で相場を伝えたという話が残っているという(近藤論文)。元禄期(1688-1704)の大坂に旗振り通信があったかどうかは証拠がなく、不明である。

【奈良県内ルート】

●天照山(生駒山)中継所を経て、大阪の相場を奈良へ通信したという。近藤論文「大阪の旗振り通信」に、経路は「暗り峠・奈良」とある。天照山は暗峠のすぐ北のピークで、山頂の散石群は昭和38年の滝川政次郎他の調査によって、ノロシ山(高見峰)の遺構と推定されている(高安城を採る会編『夢みくらむ幻の高安城』第二集、38頁)。

★「きんてつニース」第299号(昭和47年1月1日)の「かくれ古寺・慈光寺」の記事に、次のように記されている(上本町の近鉄劇場別館地階にある近鉄資料室で閲覧・複写できる。郷土資料が充実している)。「慈光寺の谷向いの山は奈良朝時代にノロンをあげた場所と推定されている。小字名も天照山という。」「大きな山のうねりの間に小さいうねりになっているのが、

この天照山である。」「慈光寺のある髪切の里におもしろい古老の口伝がある。このノロン場は江戸末期から明治のはじめまで「旗振り場」の異名があった。その日の米相場を知らせる旗信号を送ったというのである。」

この記事は「大阪の情報文化」(毎日放送、昭和48年)に紹介されている。

★「津市史第一巻」(昭和35年)には、「堂島の相場をくらがり峠にてうつつ夫より大和伊賀の山々へ取りつまり本郡長谷山にて行ふ」とあるので、天照山を経て、奈良経由で三重県の長谷山に通信されたものと思われる。

●十三峠(八尾市・平群町境)からは、山城国天王山、山城国大原野、奈良取引所、神於山、紀州今畑など、各方面に送信されたという(近藤論文)。京都方面への中継は明治初めごろ廃止された。奈良取引所は明治37年ごろ廃止されたので、旗振りも中止となった。

★滝川政次郎「高安城と日唐戦争(下)」(史迹と美術、529号、昭和57年11月)には、「十三峠は堂島の米相場を大和の三輪の米市場へ通報する旗振りがいた所として有名であった」とある(津田末則「飛

鳥地名紀行」ファラオ企画、1990年、74頁参照。十三峠からは、奈良、三輪、大和郡田への送信が伝わる（池田末則「地名伝承論」平成2年、『奈良県史』第12巻、民俗（上）、昭和61年）というが、奈良市内へは直達、送信できない立地であり、高田への送信も方向から考えると、どうも不自然に思われる。

★「日本地名ルーツ辞典」（創拓社、1992年）の十三塚（646頁）の解説に「頂上の十三塚付近は大正十年ごろまで、大坂堂島の米相場を大和三輪町に送信する手続信号の中継所であった。この十三塚はトプロビ（烽火）トトビトトミミト十三塚になったもの」とある。「地名伝承論」（215頁）にも同様の解説がある。ただし、旗振り通信は、遅くまで残った場合でも大正6、7年頃までであり、大正10年には完全消滅していたのではないだろうか。池田末則氏は「地名伝承論」等で十三塚を烽火塚・烽火台と推測している。中葉博文「北陸地名伝承の研究」（五月書房、1998年）では、「ひみ」の原点を「十三塚」と考え、「のろし」と関連づけている。

★『菅原町史』（前掲和紙）の九五七頁に

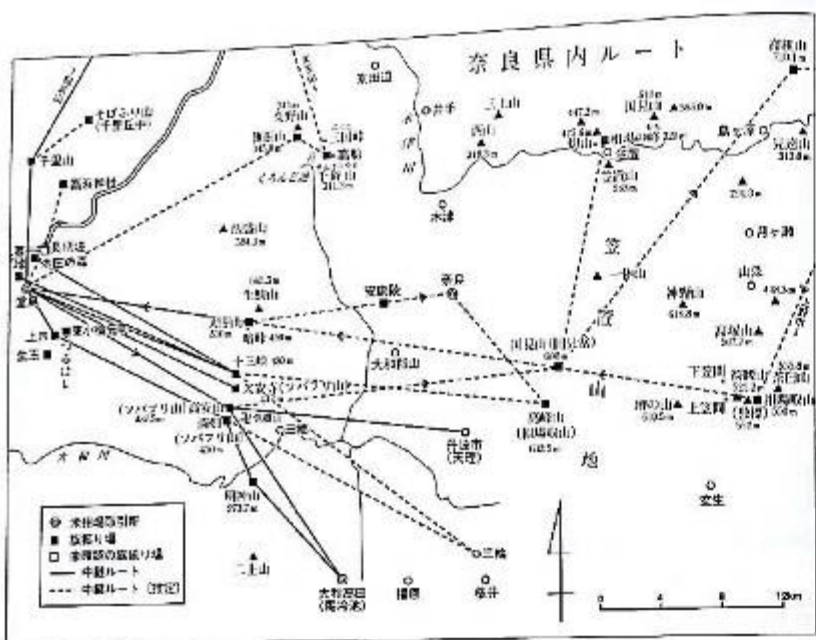
は、岸田定雄氏（奈良東大寺学園教諭）による圖書に次のような旗振りの話が見られる。

「つい三十年も前になるが、十三峠で幼い日その振る旗を見ていた七十余の老嫗からもその話を教えられたことがあ

る。」

昭和20年頃の聞き取りとすれば、その60年ほど前とは、明治20年頃ということになる。

●ツバフリ山（平群町久安寺）は、十三峠の南方1.5kmにある446・5m峰で、旗振りが行われたという証言が久安寺の人から得られている（『夢ふくらむ高安城』第六集、42頁、第7集、37頁）。西は大坂平野、東は平群谷から松尾山方面が一望できる展望台である。関西新空港の関連として航空保安施設が建設されることになり、平群町教育委員会が試掘調査を実施し、その結果、土代の塔に結び付く遺構・遺物が見つからず、江戸後期の食器・銅器が出たことから、その時期の連絡中継所としての利用が考えられることがわかったという（『平群町久安寺地区試掘調査報告書、1988・7』）。この地点からどちらの方向に通信されたのかは不明である。



各地で望遠鏡が用いられたことが確認されているが、高安山では大正3年には双眼鏡が用いられたよう

だ。

★白尾元理「双眼鏡クラブ」（『誠文堂新光社、1987年』）によれば、双眼鏡は1893年にカール・ツァイス社が製作・販売したのが実用品の最初で、日本では日露戦争時に輸入品が軍用で用いられ、1908年（明治41）年には日本光学（現在のニコン）が24種のボロ型双眼鏡を発売したという。従って、大正3年に双眼鏡が利用された可能性はある。

★『菅原町史』昭和54

●高安山山頂（487・5m）は、ノロシ跡（高安峰）と確認されている（池田「地名伝承論」）。信貴山城の出城があって、「相馬旗振り山」（ツバフリ山）とも呼ばれ、八尾市郡川の田畑庄太郎氏が少年のころ、旗振りを目撃しており（『夢ふくらむ高安城』第五集、169頁）、大和高田へ知らせていたという（同第一集、39頁）。

★権畑雲湖（『江戸時代の交通文化』昭和6年）によれば、昭和二年頃、菅原良言文学博士から次のような教示を受けたという。

「十年ばかり前に河内と大和の境上、高安山頂（もと塔のあった所）へ上りて堂島の米相場を丹波市其他へ旗振りにて通信して居るのを見ました。二人が、りりり双眼鏡を一人が持ち、一人が旗を振ってゐるのです。電話や電信より費用もかゝらず（其内一人は当六十歳とか七十歳とか）早くてもやめる訳には行かぬと申し居りました。」

丹波市は現在、天理市域である。「菅原良言著作集14六十年の回顧・日誌」（平凡社、昭和57年）によると、大正3年5月22〜23日に生駒・高安・信貴山を歩いた時の目撃談に該当する。旗振り通信では

年）には、『民族と歴史』第七巻第一号（大正11年1月）に掲載された、数年前（安永は大正3年）の踏査（生駒山から志貴山へ）の時に出会った「高安城址の旗振り」の話がある。「頂上に櫓を組んで、西風の吹きすさぶ寒い中を人間が二人、一人は双眼鏡を手にし、一人は絶えず合図の旗を振っている。いわゆる信号旗なるものだ。」彼らは大坂の堂島に立つ米相場を、大和のどこかの仲間と旗信号で取り次ぎしているのだという。

★沢井浩三「八尾の史跡」（初版、昭和43年。改訂版、昭和45年。榊原利光編、新装、昭和62年。改訂版、平成11年）の「高安山」の項目に、「大正の初め頃には、この頂上に櫓をくんで、その上から一人が双眼鏡で大阪からの信号を見て、一人がそれを手旗を振って、大阪の米相場を大和の方にとりついでいたことがあった」とある。

★三郷町出身の石井庄司博士は、大正初めに、高安山の頂上から、堂島の相場を高田に報告している男の人と出会ったことを記している（『奈良県史』昭和61年4月10日、『地名伝承論』53頁、268頁参照）。

★「北九州瀬戸内の古代山城」(名著出版、昭和58年)の331頁、「鹿嶋散歩24コース」(山川出版社、2000年)の88、89頁、角川地名大辞典(奈良県)等には、「高安山」のソバフリ山において、堂島の米相場を大和・伊勢方面へ旗で通知した等の記述がある。

★なお、長らく不明であった、大和朝廷の高安城の石垣の一部が発見されている(平成11年8月20日付、読売新聞記事。「飛鳥・藤原京の謎を解る」文芸堂、2000年、155頁参照)。

●ソバフリ山(三郷町南畑)は信貴山朝護孫子寺の西方1・4kmにある標高430mの山で、大阪は見えないので、高安山頂からの指令を見て、奈良原側に伝えたのではと推定されている(『夢ふくらむ高安城』第六集、138頁。第五集、169頁)。しかし、実際は地形上、ソバフリ山から大阪堂島方面は逃がれていない。

★『三郷町史』(昭和51年)に「南畑の西部一帯が、俗に『ソバフリ山』ともいい、近年まで大阪堂島より大和・伊勢地方に向い、旗をもって米相場の異動を通知する信号地点であった」とある。池田末則『奈良県史』(第14巻 地名、昭和60年)の

「信貴山―相場振山」と、「地名風土記」(東洋書院、平成4年)の「鶴梨山」で旗振りが紹介されている。

★『三郷路を歩く』(三郷町教育委員会、平成元年)には南畑の「ソバ振り山」の項目があり、「江戸中期から大正初期まで、大阪堂島の米相場を見通しのよい山頂で縦2m、横1・2mの白旗を上下左右に振り、王寺の春日山を経て、大和高田に速報する中継所となっていた」とある。

★「新訂王寺町史」本文編(平成12年11月)の752頁には「信貴山南畑の『相場振山』を経て、高田(池ノ端、三輪・奈良)などに送信した」とある。『改訂大和高田市史後編』(昭和62年)によると、明治27年に馬冷池(本郷町、現在は公園)の西畔に米穀取引所ができていた(明治37年まで継続した)ので、池ノ端は地名ではなく、池畔のことであろう。

★近藤論文には中継ルートとして、「上本町六丁目辺・信貴山・高田」とある。信貴山での旗振りというのは、おそらく南畑のソバフリ山を指すものであろう。

★大阪読売新聞社編『百年の大阪2明治時代』(長瀬社、昭和42年)に、「広吉は明治中ごろに、郡里の奈良県桜井市から堂

島にやってきて旗振り屋になり、大和高田市付近で生駒山からの信号を中継していたとか」とある。ここにいような生駒山とは、高安山か、南畑のソバフリ山のことであろうか。

●明神山(王寺町高田)中継所は、『奈良県史』第14巻と『三郷路を歩く』、「地名伝承論」の南畑の項目に「春日山」となっていて迷うが、『王寺町史』民俗編(昭和44年)には「明神山頂(二七五米)は展望がよく、大和と大阪との中間連絡地点として手旗信号を行なう場所を利用したこともあったと伝えている」とある。

直接、堂島からは受信できない立地であり、南畑のソバフリ山で中継したことがわかる(三郷路を歩く)。奈良の飛火野方面が見通せる立地にある。『新訂王寺町史』本文編によると、明神山(別名、日和山)には中世に送迎山城があり、このヒルメ山は俗称「火振見山」の転訛語という。池田末則「日本の原風土を伝える地名」(地理学がわかる)アエラムック1999年4月、朝日新聞社、94、97頁)にも、簡単な紹介がある。

★「宮崎町史」には、岸田定雄氏が、竹内の仲田藤太郎翁(明治12年生まれ)から、



国見山(680m)の山頂の展望台

昭和49年夏(当時95歳)に聞き取った次のような話が載せられている。

「翁の祖父は、大阪の堂島に立つ日々の米相場場を知り、それで米穀商をしていたが、この商いに失敗したという。『大阪から旗によってリレーされてくる値を、王寺町の明神山で受け、これをまた次へ知らせる。高田にもその中継所があったが、明神山の分を高田で直接受けたものか、あるいはその中間に中継所があったかは知らない』とある。

●安藤天皇陵(奈良市宝来町古城)が旗振り中継所であったという伝説があるという(地名伝承論、53頁)。池田末則氏に問い合わせたところ、文献によるものでなく、地元で聞いた伝承であるという。立ち入りが自由であった江戸時代のことであろう。なお、『日本の

古墳と天皇陵』(同成社、2000年)によると、安藤陵は1863年に陵墓に決定されているが、1998年の調査では古墳にかかわる遺物は検出できず、中世の宝来城跡と考えられるという。

●「奈良(近畿鉄奈良駅北側)を経て、旧五ヶ谷村の高峰(相場取山、転じてスモウトリ山)に至り、笠間を経由して伊賀方面にも連絡」(『新訂王寺町史』本文編、池田末則氏執筆)とある。奈良取引所は明治37年ごろ廃止されたので、旗振りも中止となったという。

●高峰山(天理市・奈良市米谷谷)谷村)中継所は頂上を「ソバトリ山」といい、標高632・5mである。転じて「相場取り山」の俗称も伝わる。山頂から堺市の海が見え、のろし台があったと伝わり(鉄塔の約500m以西に、「トビアナ」の俗名が残る、飛ぶ火穴の転訛語という)、「ノロン山」とも呼ばれる。伊賀方面への旗振り中継地点であったという(『五ヶ谷村史』平成8年、池田末則氏執筆)。「新訂王寺町史」本文編。池田末則「地名風土記」(144頁)にも紹介されている。しかし、室生村上空間の相場取山方面は塚の山が遮っており、伊賀方面(伊賀上野、





空間岬の北東ポイントから見える相場取山(560m)と高原の村

高旗山)への通信もできない。十三塚から直接奈良へ送信できないので、その中継地点の役割をした可能性がある。

●国見山(国見岳)(奈良市・天理市場)も旗振り場であった。「五ヶ谷村史」によると、池田末則氏は奈良市中畑町の奥田穀氏からの聞き取りで、中畑の「北方に国見山があり、北嶺尾領には十八国が見える所がある」とい、大坂堂島の米相場

の中継をしていた」ことを確認している。中畑集落の北で、北嶺尾領に属し、見晴らしの良い山と言え、城山(奈良市北嶺尾町字城山)(528.7m)であろうか。筆者は、奥田氏に問い合わせたところ、旗振り場は城山でなく、中畑町の北東の国見岳(国見山、680m)であり、年代は明治初期頃で、三重県方面から受けた信号を生駒山へ送ったという重要な証言が得られた(平成12年11月)。旗振り人の出身や名前は不明である。三重県方面というのは、高旗山とも考えられ、立地上は通信可能である。次に述べる相場取山からも受信でき、生駒山地の旗振り場(鹿安山をさむ)とも通信できることから、重要な中継地点であった可能性が高い。国見山(国見岳)については、筆者が、本誌51号で奈良市・天理市の最高峰として紹介したことがある。

●相場取山(奈良県生村上笠間)については、「山辺郡史」(大正5年)に「相場取山 袴腰山ノ東方ニ聳エ第二二位スル高峯ニシテ海拔五五二米アリ往昔奈良上野間ノ相場信号取次ヲナシタル所ナリト云フ」とある。生村教育委員会の勝山好弘氏に問い合わせたところ、上笠間の

い」という結果であったという。

独標の南方の谷(作業道があるが倒木で歩みにくい)をつめて北東方向へ斜面をよじ登り、尾根伝いに山頂に達することもできたが、おすすめでできない。

山頂の東の「高原の村 青葉」の中の急な車道を上がり、終点で右寄りのやぶに突入すると平坦な道があり、すぐ小さな峠に出る。そこから左(南西)の山道を上がる。明瞭な道なので相場通信をした峠集落の人が利用した道と想像する。谷に出ると昔の道はやぶに消えてしまう(谷を強引に進めば通れないこともないが)ので、右か左の尾根筋を登って頂上に出るとよい。最高地点付近は樹林に囲まれているが、西方に国見山が見え、北北東には伊賀上野方面が見える場所がある。なお、笠間峠の北の高原の村からは相場取山がよく見え、峠の集落からは、552mの独標と相場取山の山容が確認でき

★勝井氏は「中継点は山添村の神野山か都祁村小倉の塚の山か、どちらかであろうと思います」というが、福田氏による山添村と都祁村の古老たちへの聞き取り調査(平成12年11月12日)によると、どちらの山でも「そんな話は聞いたことがな

隣井堂文氏が「祖母や福田勝次氏から、相場取山で、火を振って相場を送った」とを聞いている」とのことであった。

★上笠間の福田勝次氏は筆者からの問い合わせに対して、父から聞いた話の記憶を基に、大字上笠間小字峠(7戸余り)の人々に聞き取り(平成12年10月)を行なったところ、3人程知っておられて、その一人に教えてもらった相場取山は、袴腰山(521.2m)の東方900mに位置する552mの独標(昭和43年測量の2万5千分の1地形図「名張」に初めて記載されている)の更に東南東250mに位置するピーク(標高約550m)であり、東には伊賀盆地が広がり、上野市付近や青山高原が見渡せる立地という。福田氏は、「山辺郡史」にある記述と完全には一致していない(相場取山は552m)のを気にしておられたが、明治期の5万分の1地形図には552mの独標の記載はなく、約550mの山が「山辺郡史」にいう相場取山と考えて矛盾しないと思う(標高は実際には552mかもしれないが確認できていない)。

★筆者は平成13年4月22日と5月20日に相場取山の实地踏査を行った。552m

★福田氏は、父が話を聞いた家の主人は亡くなっているのですが、その妹さんに尋ねたところ、「私が小さい時、お正月には、鏡餅を神棚の神様と、『めがねさん』に二組お供えしておられました。それは、この『めがねさん』のおかげで、相場取り山の『のろし(合図)』をはっきり見ることが出来、お金をたくさんもうけさせてもらった大切な宝物だから、お供えして、おまつりしているのだ、と教えてくれたことを覚えています。しかし、どんな物が見せてもらったことはないし、見たこともありません。多分、望遠鏡のようなものだったのでなかろうか」ということを話してくれたが、それ以外のことはわからないとのことであった(以上、福田氏からの平成12年12月14日付、返信による)。

★中西政一郎編「近畿の山」(山と渓谷社昭和43年版)の「神野山」の項に「昔、大阪の米の相場を通報するためにあげた生駒山での狼火をこの山頂でキャッチし、名張や伊賀方面へ伝えたという」(神西氏執筆)とある。「山添村史」(上)(平成5年)にも、「豊原村史」(昭和35年)にも、

神野山(618.8m)での相場通信の伝承の記述はなく、山添村教育委員会の井久保氏によると、地元での言い伝え等もないようだという。中西氏が何によって記述したのか不明である。なお、「山添村史」(上)によれば、江戸時代から明治末年まで神野山頂では雨乞いの火振りが行なわれていたという。

★小野秀雄編「新聞資料明治話題事典」(東京堂出版、昭和43年、新装版、平成7年)の明治一三年の項目に「狼火」があり、解説に「大阪堂島の米相場を伊勢桑名の米市場に知らせるため、つきつきにのろしをあげて合図した時代もある」とあり、同様の記述が、高橋善七『日本史小百科23通信』(近藤出版社、昭和61年)の17頁にある。その「のろし合図」が、生駒山等に設けられたのであろうか。

★筆者は、池田末則氏の記述から、生駒山系や奈良からの信号を受けて、高峰山から室生村の相場取山経由で伊賀上野に送信したのであろうかと思っていた。ところが、相場取山の位置が判明するに伴い、地形上、高峰山と相場取山の相互の連絡は、塚の山が遮っていて不可能であることがわかり、別の通信ルートを考える必

要が生じた。そして、国見山は、三重県方面から生駒山への中継地点であるという証言から考えると、榮名から発信して、垂坂山、上野西山、お経塚(関町)を経て、伊賀上野、相場取山(室生村)、国見山、生駒山(天照山)、大阪と伝達されたと考えようになった(ただし、筆者独自の推定であり、証言で裏付けできたものではない)。高峰山は全く別のルートなのかもしれないが、資料に乏しく、明確にできない。

★信貴・生駒山系は、大阪から大和・伊賀方面への伝達に欠かせない中継地であるために、多くの旗振り場が設置されたが、系統が複雑でどの方面への中継に用いられたかを知るのは困難である。ただ、複数の証言と立地条件から妥当なルートの再現は可能である。筆者が独自に再現した、大阪から大和・伊賀方面に送信されたルートは次の通りである(参考までに、榮名からのルートも加えた)。

- ①大阪、生駒山(天照山)、奈良
- ②大阪、十三峠、高峰山、奈良
- ③大阪、十三峠、三輪
- ④大阪、久安寺(ツバフリ山)
- ⑤大阪、高安山、丹波市

- ⑩大阪、高安山、大和高田
- ⑪大阪、上本町六丁目(上六)、南畑、三輪
- ⑫大阪、上六、南畑、明神山、大和高田
- ⑬大阪、信貴山(高安山)、国見山、高旗山、塔の峯、旗山、布引山地(摺鉢山?)、長谷山、津・千歳山(善谷山)、松坂
- ⑭榮名、垂坂山、上野西山、お経塚(関町)、伊賀上野、相場取山(室生村)、国見山、生駒山(天照山)、大阪
- ★1842年の本に「大阪、信貴山、笠置山、伊賀布引山、勢州善谷山、津、松坂」という通信ルートがあったことは三重県中部ルートで紹介した。⑩によって、このルートに近い通信ができることがわかる。ただ、国見山と高旗山の区間距離はやや長くなる。また、国見山を笠置山としなければ辻褄が合わない。国見山は笠置山地(二十万分の一地形図にあるように、笠置山から一休山を経て南に続く山地)に属しており、それほどはずれとは言えない。高安山(ツバフリ山)は、奈良・三重(大和・伊勢)方面への信号地点(角川地名大辞典「奈良篇」高安山)、「聖鳩散步24コース」99頁とあることも見逃せない。(つづく)

(平成13年5月21日成稿、7月25日補訂)

連載

三角点を訪ねて ⑬

夜叉ノ妹池を懐に抱くカナ山へ

湖北

磯部 純

「駐車場は会社の北側の通りにありまして」と言われていたが、いい加減に聞いていたのか場所がわからぬ。何回か彼の会社の周囲を巡ったあげくに場所がわからず、家まで行って奥様に場所を確かめ、やっと待ち合わせ場所の駐車場に着いたのは五分遅れの6時35分。朝からこじょうなことが起こるもの。出発する前から嫌な予感に襲われたのだった。

山科でもう一人を乗せ、山行メンバーはJ・A・Cの3人。一路、近江高山へと向かう。この日、登ろうとする山はカナ山。金養岳から天吉寺山へと続く尾根上にある三角点峰で、人があまり訪れない山で

ある。この山の山頂近くの稜線に、静かに眠る神秘的な池、夜叉ノ妹池があることを聞き、ぜひ見たいと思ひ実現した山行だった。福井・岐阜県境北西端には有名な夜叉ヶ池があるが、夜叉ノ妹池という名からすると、二つの池には何か関係があるのかもしれない。

ルートは山科の彼に一任していたが、私は、おそらく「近江百山」に載っている2万5千分の一地形図の破線をもとで登るものと予想していた。高山キャンブ場(右に曲がり、上の新しい林道を走る。しばらく走り、ここだと思つて停まった谷に林道が付けられていた。歩く前にもう一度地形図を確認してみると、これ

静寂の夜叉ノ妹池



は一つ手前の谷だとかわり、次の谷へと車を走らせる。その谷は林道の曲がり具合から破線の谷に間違いないと思つたが、橋の名が一箱谷橋。「近江湖北の山」と「近江百山」を熟読してきた2人は、取りつきの谷は橋谷と書いてあったから、ここから登るのではないと言つてきかない。本を持ってきていないので確認する術がなく、言われるままにその先へ車を

KOBEの登山専門店

平成12年度「グッドデザインひょうご」の選定商品に選ばれました

◎ドルフィ II



ハイキング用の小容量バック、トップとフロントに小物入れポケット、サイドはボトルポケット、ストックホルダーポケット、ウエストベルトにファスナーポケットを装備、背中にクッションを設けた一本締りの多機能バック

- カラー
- 容量
- 重量
- 素材
- 価格

22ℓ  
730g  
コーデュロイ  
¥5,000

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

神戸こーいキック山遊くらぶー  
○11月11日 兵庫県  
篠原町栗原「藤原山」1139m  
詳細はお問い合わせ下さい。



神戸ザック

〒653-0030 神戸市東灘区日寺町3-1-30  
TEL (078) 621-5851  
FAX 621-3528



走らせ、橋谷橋と書かれた橋を探すが、そんな橋はどこにもなかった。

時間はほとんど経ってゆく。いつまでも迷っていても仕方ないので、高山キャンプ場までいったん戻り、3人で地形図の谷を確認しながら林道をやっくり車を走らせた。最終的に、箱谷橋と書かれた橋のある谷が地形図の破線路の谷だと確認し、その谷を登ることにした。橋谷にこだわる2人はそれでも納得しかねている様子。

9時、左岸から谷へ入る。堰堤二つを左下に見て山腹をトラバースし、谷分岐へ着く。谷の様相から、地形図の破線路のある谷に間違いないことを納得してもらって、左の谷へと踏み込む。谷は狭いうえに岩は滑りやすく、夏ならともかく秋に歩くにはあまり気持ちのよい谷ではない。

登るを左を箱谷

ない。この谷が登山道になっていて多くの人が通っているのなら、テープが付けられているか、人の通った痕跡が何かしら残っているものだが、この谷には全く人が歩いた形跡が残っていなかった。やがて、三つ目の堰堤が現れ、それを乗り越すと、何のためのものか用水路があり、右方向の斜面からしゃかりした道が来ていた。おそらく一つ西の谷にあった林道から来たのだろう。しかし、それから先、谷の上流には道はのびていなかった。

さらに谷を進ると、眼前に5層もの流が行く手を遮る。破線路をたどるとすれば、この流を越え、その上流で分岐する左の谷をつめなければならぬ。滑りやすい谷を歩くのに、早くも嫌気がさしていたので、これを機に左の斜面を登り屋根を歩くことに決定する。

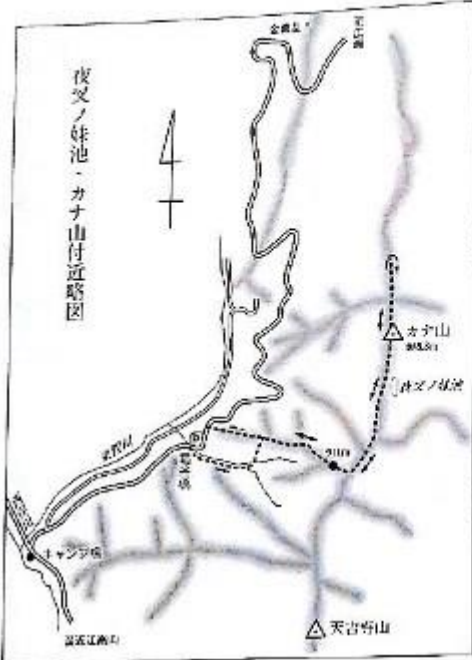
やぶの多い自然林の斜面は急すぎるほど急で、木や草をつかんでは一歩一歩身体を持ち上げねばならない。足下から転げ落ちた石や岩がはるか下の方まで転がっていく音が聞こえ、肝を冷やす。登り始めてあまり時間が経っていないのに、た

ちまち汗が吹き出す。強い2人はどうにも上の方へ行ってしまう、姿は見えなくなってしまう。1人で後を追い登って行くのと、やがて楡林になるものの、相変わらず斜面は急で、やぶも途切れることはなかった。

35分間の悪戦苦闘のすえ、飛び出した所は緩やかな斜面。南が楡の樹林帯で、北は自然林の屋根。標高6000位の地点だったろうか、二つの林の中間に踏み跡が残っている屋根だった。その踏み跡を上へと登るが、やがて、その踏み跡は右手の斜面へと消えてしまい、そこからやぶ漕ぎが始まる。緩やかな屋根も登るにつれ斜面の角度を増してくる。そして、壁で紅や黄色に彩られていた木々はここではすでに葉を落としていて、冬が近いことを告げているようだった。枯れた立木の間から、カナ山のどっしりとした姿が見えてきて、その左手に小朝の頭、その後ろに金葉寺、白倉ノ頭がぼんやりと霞んでいた。

9111峰の細橋を過ぎ、あえぎながら急斜面を登り切ると、ピークの下を滑っている縦走路へと出た。その縦走路を北へ向かう。次の鞍部で縦走路は消えてしまっ

たので、Ca(約)9700mへ登り返す。山頂は広い台地で、雪が多いのかほとんどの細い木は寝てしまっている。ピークから北へくたると、凹地があちこちに現れるが、池らしいものはどこにもない。「夜叉ノ妹池」と名付けられる程の池であれば、夜叉ヶ池よりは小さくとも、又夕陽に毛の生えたような池ではないはず。池はカナ山手前の鞍部にあるものと考え、先へ進んだ。気がつくとも林には行き先を示すように赤いテープが行けられている。



どうやら縦走路を不すテープらしい。テープに導かれて9111峰の西を捲くと、そこは二重山腹になっていて、池が右手に姿を現す。東西10m、南北30m程の、雑木に囲まれた静かな神秘的な池であった。水面は落ち葉におおわれて秋の風情が漂っていたが、春ともなれば水面に木々が映え、また別の趣があるにちがいない。

池の表情をカメラに収め、カナ山へと向かう。急斜面を登り左へと進路をとる。テープが無ければ迷ってしまう。そうなるべくして広いブナ林の屋根だった。地図で見ると、カナ山の三角点はピークにはなく、尾根の出っばりにある。普通なら、三角点へ導いてくれる標識やテープがあるのだが、ここにはそれらしいも

のは全くない。位置的に見てこのあたりにあるものと、目を皿のようにして木々の間から地面をうかがったが、見つかることができなかった。「おかしい、おかしい」と言いながらも、赤いテープに導かれ探しながら先へと進むと、やがて、尾根が狭くなり下りにかかる所まで来てしまった。ここに来てやっと北へ行き過ぎてしまったことに気がついた。「近江百山」を読み、夜叉ノ妹池からカナ山三角点まで1時間はかかると信じていた彼は、先へ進むことを主張したが、どう見ても地形図を見る限り、急坂を少し上がった所に三角点があると読め、とにかく先程の急坂まで引き返すことにした。もう一度3人で手分けして探していると、「あったー」この声。

縦走路の踏み跡から5分程東に入ったブナの林のなかに三角点は立っていた。15・5m四方の大きなきれいな楡石。もし、今の時期でなく、葉の生い茂っている時に来たのだったら、果たして見つかることができたかどうか。地形図で見ても、ピークでも何でもない尾根の斜面で、何の目印もない林のなかに三角点は立っていた。行き過ぎることがなければ、「夜



カナ山三角点

又ノ峽池」からほんの10分程の距離だったのである。

山科の彼が持ってきた鯖寿司をいただき、三角点を廻りこんでの昼食。ふと見上げると、下ばかり見えていて気がつかなかったが、木の上にトンボがくくり付けられているではないか。上にあるトンボに気がつけば、20分も探し廻ることはなかったろうに。どうしても木の間を覗き込ん

で標石を探すので、上の方など見る余裕がなかったのだ。

12時40分、下山とする。わずか30分の昼食休憩だった。一度通ったルートの下りは早く、支尾根の分岐地点まで35分で戻ってしまった。いつもなら登りに使った同じ尾根をくだることはほとんどしないのだが、この時はやはり別の尾根をくだることなど、全く思いつかなかったのだから不思議だ。残りの2人も同じだった。ヒイヒイ言いながら登った急な尾根も、下りは早い。

くだりながら尾根の南斜面に地形図の破線路があるかどうか注意を怠らなかつたが、それらしい踏み跡は全く見つけることができなかった。登る時、そのまま谷をつめていたらどうなっていたことか。今さらながら『近江百山』の本を信用せず、地形図の破線路をたどることに見切りをつけて、早めに尾根を登ることに決定してよかったですと痛感した。

谷から尾根へ登り着いた地点を過ぎ、そのまま尾根をくだることにする。再び降りやすいあの谷へはくだる気がしなかつたからである。

右手の自然林の尾根が杉の林に変わる

と、尾根は広く斜面も急になり、さらに、やぶもいっぱい多くなる。かまわず、やぶをかき分けとんどん急斜面をくだって行くと、左手の尾根が高くなる。左手の尾根にのろうと歩きかけ、斜面の下を見ると、林道が見えているではないか。

これではわざわざ尾根にのる必要はない。そのまま小さな谷をくだると道筋へと飛び出した。その地点以外は道筋から切り立っていて、とうてい道筋にはおぼろげそうもない。幸運としか言いようがなかった地点だった。

箱谷橋横着、14時25分。

朝の予感が不幸にも的中。朝は集合場所の駐車場探しに、取付点では車で往復し、三角点では行き過ぎてしまい、結局三回もウロウロした山行になってしまったのである。(平成11年11月23日歩く)

#### ▲コースタイム▼

箱谷橋(20分) 谷分岐(35分) 支尾根(1時間) 縦走路(35分) 夜叉ノ妹池(30分) カナ山三角点(35分) 支尾根下り口(1時間5分) 林道(5分) 箱谷橋(地形図▼)  
2万5千1近江川合・荒御前山

## 連載

# 1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第28回) トカラ悪石島・中之島と北海道へ

坂井久光

平成5年3月7日、18時発のサンフラワ1号で大阪南港を出発。

8日、9時40分志布志港上陸。JRで串間駅へ行き、山形氏と2人で市役所に行く。隊長から電話で高畑山の航空自衛隊の入場許可をとってもらい、タクシード高畑山へ。ゲートまで隊員が出迎えてくれた。山頂の1等三角点へ登る。私は十年程前の昭和57年12月30日に単独登頂して、今回で二度目である。点名は「原山(ニギハヤヒ)」。

山形氏はこの山で九州本島の1等三角点を完登したとか。2人で万歳三喝。林のなかで展望はよくないが、東に東峰のドーム状ピークが見え、周囲はシイ・カ

中之島先割岳の1等三角点にて



車道を歩いて下山。港から1kmの湯泊温泉につかって汗を流す。コーヒーを飲み、昼食後奥の砂蒸温泉へ散歩した。ここで東京立正大の学生4人がキャンプをしていた。この島は、8月16日に秋田県男鹿のナマヘグのようなホゼ神の仮装行列があることで有名である。一度見たいものである。悪石島は全島火山で、ほとんどが竹林と常緑樹林で、一部が牧場に利用

シ・ヤツデ(ヘウゴキ科)等の常緑樹林であった。写真を撮ってから下山した。志布志駅からバスに乗り換えて垂水港へ行き、フェリーで鴨池港へ。バスで天文館の温泉へ行き、山形氏の九州本島の完登を祝して乾杯し、薩摩料理を賞味した。その後、新設の棧橋から十島丸に乗船し、22時出港。

9日、9時37分に悪石島に上陸。編装林道を歩いていると、石留建設の車が来て御岳の山頂近くの無線塔まで送ってくれた。そこから琉球竹のやぶのなかの踏み跡をたどって山頂1等三角点(584m)へ。周囲は竹林で展望なし。標石は15°角であった。天候は曇り。ゆっくり

されている。耕地はほとんどない。  
14時30分慈悲石島を出発、17時50分に中之島へ着いた。久しぶりに中之島民館に泊まり、日高貞則氏と会う。山形氏は昨年間違えて民宿「日高」に泊まったが、そこはすぐ下の家で、従弟がやっているとか。

10日、支所長を退職した日高氏の弟の車で7時30分出発。中央開拓地車道を走って池原から林道に入り、先割岳とコテイ山の峠で下車。先割岳が間近に見える。直線距離で約600m。標高524mの小山だが、前回登らなかつたのはこの林道が開通していなかったのと、金山琉球竹で登路がないということだったから。山形氏と2人で、鉈や鋸で切り開いてでも登る決心で来た。竹やおのなかに細道が上部にのびているので、それをたどると稜線に出た。ビニール袋の標識があり、小広い峠から奥へ向かったが1000m付近で踏み跡もなくなり、見通しも全然ない。峠に戻って、少しくだつてその先の道をたどってみた。めずらしく一本の木の下から竹林越しに山頂の一部が見えた。そこからビニール紐をのびして竹林に飛び込んだ。高みへ階段をたどって邪魔な竹

ハタエンジュ、マキ科のコウヤマキ、ツツジ科のミツバツツジ、マルバサツキが花を咲かせていた。ラン科のツルラン・エビネ・ナゴランなどもあると聞いた。民館近くのお宮の森には、マキやアコウの大木が茂り、昼でも薄暗い所だ。谷川も流れていたが、御岳の他の谷は濁谷ばかりであった。それから天泊温泉へ行ったが、栓が抜いてあった。栓をしてから湯がいっぱいになるまで入浴できなかった。17時20分、十島丸が入港し乗船した。

13日、鹿兒島港から鹿兒島駅へ出て、西鹿兒島駅からJRで門司港へ行った。名門フェリー20時発に乗船し、14日、大阪南港には8時に入港して山形氏と別れた。

同年4月8日、敦賀港からフェリーで北海道へ出発。山崎大造氏と同行で、10日朝小樽港に上陸した。高速度を通り、旭川から国道39号線に入った。北見峠からチトカニウシ山を目標予定だった。ところが、早朝上陸して寝不足のためか、上川の分岐で右折して275号線に入るのを、間違っ

て切り払いながら稜線に出て山頂を目指した。やがて先割岳山頂に着いたらしい。足が石に当たったので落ち葉をかき分けると、15度角の小型の一等三角点が現れた。今まで登山者は皆嫌であろう。山形氏と2人で万歳三唱。周囲は竹林で展望なし。少し切り広げて写真を撮り、小鮎後紐を伝って下山。途中、野生の羊の親子が飛び出してきた。高尾集落は現在数軒ある。御岳火山の中央旧火口が戦後開拓されたが、一時は4人位の時もあったとか。他にはトカラ馬牧場や耕地があり、民俗博物館・開発センター・公園・運動場になっている。一部は竹林だった昔の姿になっている。噴煙を上げる御岳(979m)を眺めて民宿に着いた。近くの西温泉(無料)に行つて汗を流した。

11日、東海岸を散歩した。寄木集落を経て山手へ行き、廃道の車道をくぐって学校の横にある東温泉で入浴した。宿に帰ってからはテレビを見たりしてのんびり過ごした。

12日は朝から弟さんの車で御岳の車道を登り、無線塔の立つ終点の少し手前の登山口に行き山頂へ。昭和60年2月に登っているのが8年ぶりであった。草原に出た。層雲峡を経て石北峠に着いた。それでも間違いに気づかず、スキーとアイゼンで積雪50m位の登高に向かった。雪が深くてやわらかいので、私の歩行が遅い。山崎氏が見かねてエゾ松の枝を切って針金と紐で即製のワカンをつくってくれた。無線反射板のビークに達したが、前途はまだ遠い。

友人の深川市山岳連盟会長長田中利一氏が、スキーで1時間少々で登れたと言ったので、その言葉を信じて先に進んだ。やっと銀嶺のビークが見えた。ゆるい斜面を登りたて立する山頂直下に16時ごろ着いた。急坂をジグザグに登ったが、すでに遅く16時45分に引き返した。下山途中に日が暮れ、ヘッドランプで下山したが、私の電池が切れ、山崎氏のランプ一つを頼りに下山の始末。二、三回休んだが、ビークは逃げられて、ようやく23時ころ駐車場に着いた。後で登山口を間違え、武華山へ登っていたことに気づいたが、お粗末なことであった。マイナス17℃の一夜を車中のシュラフで過ごした。

11日、川上にくんだり、倉屋で朝食をとって北見峠に行った。きょうは快晴で、約1時間30分でチトカニウシ山(1446

と間もなく露石の山頂だった。新しくできた国土地理院の刻字のある一等三角点を2人であれて万歳三唱。風が強いものの快晴で展望は360度。先割岳やチン岳の無線塔、そして口の島・中島・諏訪之瀬島がよく見えた。

登路を下山して一周林道との分岐で昼食休憩後、私は山形氏と別れ、御岳の裏側への林道を歩き池原から高尾を経て帰ろうと出発した。下山途中で野生の羊が飛び出したりした。イタチも一匹出てきた。後から小学校の先生の長崎克則氏の車が来たので、古里地区の舗装工事現場まで乗せてもらった。バードウォッチングでめずらしいシシガシラという小鳥を見て写真に撮ったりした。彼と別れてから、底無池(日噴火口)近くのタチバナ遺跡(縄文時代)を通って高尾に出て帰宿した。

宿の裏側は常緑樹林で、ハイビスカスやバナナが植えてあったり、ハマヒサカキ、アコウやガジュマル等の気根のある木や、クスノキ科のタブノキ・ヤブニッケイ・カゴノキ、ブナ科のシイ・カシ、バラ科のシャリンバイ、サトイモ科のクワズイモ、トベラ科のトベラ、マメ科の(村)に13時30分登頂した。下山後、瀬戸瀬温泉に行き一泊。良い宿の温泉で山崎氏も満足してくれた。

12日、遠征から生田原を通り、北見に行った。山崎氏の得意先の店やスキー場を廻り、藻琴山に登ったが時間がかかった。軽装を運んで峠の海別保養センターに行き宿泊。

13日、斜里町役場や竹林等を訪れ、遠音別岳の詳図をコピーしてもらい、北のアルプ美術館を訪れたりして休養した。14日早朝出発。海別岳(1419m)へ向かった。車道の峠で駐車。積雪の深いカラマツ林を経て219mの三角点を見て、シマトカリ川左岸の林のなかの緩斜面を登った。583mの独標に出て、そこから頂上へ突き上げる支線線を出て、そこから頂上へ突き上げる支線線を出て、そこから登り、11時過ぎに標柱の出ている山頂に登頂した。2人で万歳三唱。展望広大で斜里岳や遠音別岳・羅臼岳・武利岳が見え、オホーツク海の流水も望まれた。これで516番目である。14時44分下山し、斜里町へ買い出しに出かけた。

(次号へつづく)  
(文中の太字は本回登った一等三角点の山を指す。)

## 大津市南部田上山地

たなかみ

# 湖南アルプスの太神山・矢筈ヶ岳

コースタイム JR石山駅(バス25分)→湖南アルプス登山口(35分)→不動(35分)→不動橋(25分)→泣不動(40分)→太神山不動寺(60分)→矢筈ヶ岳(1時間30分)→アルプス登山口(バス25分) 石山駅(徒歩12分)

## 中村敏文

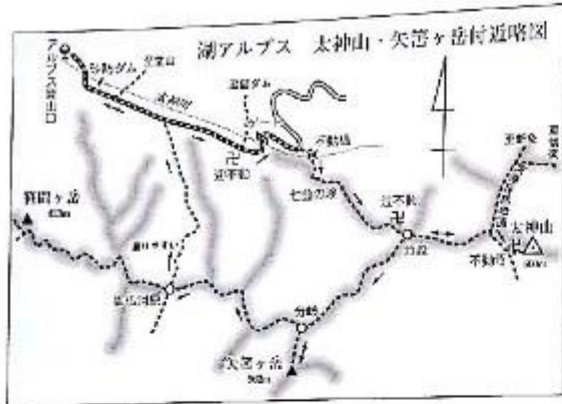
湖南アルプス(大津市田上山地の総称)湖南アルプスは田上山地の主峰である太神山を中心とする、ハイキングコースを総称する。山頂の不動寺に参詣したり、堂山や鏡ダムへのコースや、笹間ヶ岳・矢筈ヶ岳・猪背山へのハイキングコースなどがある。

田上山は花崗岩の多い山地で、木材と鉱物資源に恵まれた。紫香楽宮や石山寺造営にも材木が利用され、谷筋に鉱滓の分布も見られる。田上枝町の田上鉱物博物館には各地の鉱産物が展示してあった。

タナカミの名称は太神山頂の岩座に太陽神(太神)が降座したという由緒で、



太神山不動寺本堂



山の水を司る神、農耕の田の神としても信仰され、田神山から転じて田上・太神と当て字を読み下した地名であろう。

① 不動寺表参詣道(大津市田上森町) JR石山駅8時40分発の常陸湖南バスは25分でアルプス登山口へ着く。瀬田川支流の天神川筋を登山口バス停から少し行くと砂防ダムの堰堤が見え、湖南アルプス有料駐車場・食堂・トイレなどがある。

ダムによって出来た広い砂地河原に大津市の教育キャンプ場が整備してある。ダムや砂防工事で、舗装道路となった不動寺表参詣道を10分も行くと、矢筈ヶ岳と

先で天神川を渡ると、地藏と車両通行止のゲートがある。

急な坂道のカーブを曲がると川向かいや下方の展望が開け、不動寺道がある。ここで三道と別れ、平坦な不動寺道を行くと、不動橋を渡って七曲がり道となる。花崗岩が風化しているので滑りやすく急坂も湿るので、少し上っては休み、ひと休みを繰り返して登りつめると泣不動へ着く。自然石に浮彫りの不動さんはお堂に収まっている。

② 太神山不動寺(大津市田上森町) 右へ矢筈ヶ岳への標識が見え、木立ちのなかを行くと二尊門がある。不動寺の境内に入ると杉の古木が林立し、参道に十数体の地蔵が並ぶ。その横へ信楽方面からの東海自然歩道が入っている。この道は大鳥居バス停までもきもあるが、小型車なら入れる。

境内参道の左側に庫裡兼事務所があり右側に参詣者休憩所がある。広い境内には鐘楼・地藏堂・俱利伽藍堂が往時の寺額を残している。巨段ほどの石段を上がると、巨岩の斜面に重文指定の本堂がある。三間四方の寄棟造檜皮葺の建物は建

### 泣 不 動



笹間ヶ岳へ上がる山道が右手へ分岐する。

天神川も上流になるにつれて岩石が露出し、溪谷美を堪能させてくれる。ダムから2km(約30分)で泣不動に迎えられ、湖南アルプス案内図とトイレがある。

左へ分岐して天神川を渡って北へ続くのは鏡ダムへの道で、堂山へも行ける。太神山へはまっすぐ行き、泣不動の少し

久四年(1193)の再建説もあるが、後世本堂前に舞台造の礼堂と側面に唐破風の本堂出入口を付けている。昭和八、九年の修繕で建築様式や部分材料などから、南北朝から室町後期の再建とも推定されている。本堂近くの二基の五輪塔は本堂再建時代の建立とされる。

本堂上手の巨岩滑りをして少し上がるのと等三角点のある太神山頂上で、海拔600弱弱とはいえず、見晴らしは悪く、木立の間に琵琶湖と比叡山が覗けるだけ。

太神山は古代より巨石の岩座を神体とする原始信仰の山で、「太神山不動明王略縁起」には清和天皇の御代に天台寺門宗園城寺の円珍が当寺を開いたという説話がある。寺伝では伽藍を建立し不動明王を収めたのが貞観元年(859)とある。その後も園城寺と関連を保ちつつ不動信仰の盛場として山伏や近郷近在の信仰を集め、近世も膳所藩の保護を得て法灯を保持し、不動寺大仏式も伝えてきた。

③ 矢筈ヶ岳(大津市田上森町) 太神山の西方4kmには白山権現をまつ

## 新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/B6判 250頁/定価1800円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 **花の山に行く** 松本雪枝 著  
3刷発売中/上製本/B6判 356頁/定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著  
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1835円 山岳画家足立真一郎の珠玉の画文集
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著  
3刷発売中/上製本/B6判 308頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を取った
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著  
3刷発売中/B6判 336頁/定価1632円 一等三角点100度の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著  
改訂2版発売中/B6判 300頁/定価1680円 山梨県の山と峰を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/B6判 360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と思想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著  
9刷発売中/A5判 320頁/定価1880円 新ハイキングの精髄を伝える実地踏査のガイド
- 第16巻 **日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著  
9刷発売中/A5判 320頁/定価1880円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著  
2刷B6判 354頁/定価1680円 歴史を語る城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著  
2刷A5判 340頁/定価1600円 一等三角点の山100度の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編  
B6判 320頁/定価1680円 山の雑誌集。55名の執筆の宝物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高橋生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著  
A5判 310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80山の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著  
A5判 206頁/定価1680円 あり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判 397頁/定価1800円 深田久弥のすべてを念頭に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社**

●価格は消費税込み ●振替での注文は送料当社負担

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13  
電話/Fax 03-3915-8110  
振替 00130-9-148915



矢筈ヶ岳 (登山道より)

る雨乞い山である4333級の笹間ヶ岳、西南1・3kmにはヒメコマツの天然林を残している562級の矢筈ヶ岳がある。アルプス登山口から笹間ヶ岳は1km余りの半時間コースだが、矢筈ヶ岳へは急坂混じりの4kmコースである。不動寺から参道を戻り、泣不動上手の矢筈ヶ岳への指標に従い、南(左)へ入る。岩場もあり、雑木におおわれた幅1

前後の尾根道は踏み固められ、要所の指標と所どころの立木のテープを目印に歩き続ける。ゆるい起伏の尾根道を半時間で御仏河原からの南北道と交差し、西への急坂を登り切ると矢筈ヶ岳の山頂へ着く。赤松黒松などに囲まれた山頂は見晴らしは良くないが、西南方向が開け、鷲峯山や山城南部の山々と三重・奈良県境の連山が見渡される。山頂付近は平地が少ないが露出した大小の花崗岩に魅力を感じる。

御仏河原まで1km余りの下りはややきついが歩きやすい。しかし天神川までの沢下りの2km弱は歩きづらく、つまずき滑るので予定より多く時間をくった。

④ 湖南アルプス登山口(田上里町)  
天神河原で時間を合わせ、16時8分発もみじが丘経由のバスは25分で石山駅へ着く。15時55分発の太子経由のバスだと16時20分に石山駅へ着く。

私達におまかせ下さい。お待ちしております!



●詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店

**とスキーのヨシメ**

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.dl.dion.ne.jp/~hyushimi>

JR天王寺駅北出口  
より東へ徒歩5分

# 『女人高野』室生寺を訪ねて

松永恵一

室生寺金堂



室生寺

大和をとり囲む曹植の東方、奥深い山に囲まれた室生の山里。室生火山帯の中心部に当たる一帯は、山容険しい山々が重なり、溪谷の浸食で奇形、深淵がいたる所に姿を現す。溪流は山峽の水を集めて木津川に注ぎ、平城・平安の都に水の恵みをもたらした。水の源の地として、古くから靈地としてあつかわれてきた。室生はムロと読まされるが、ムロとはミムロ、神の坐す山のことである。

宝亀八年(777)、この霊場で山部皇太子(後の桓武天皇)のこの病氣豆瘡の祈禱が、興福寺の学僧賢暉ら僧五人によって行われ、優れた効果があったことから、のち桓武天皇の命で堂宇が創建された。

また天武天皇の勅諭により天武九年(680)、役行者が開創し、のち空海が再興したという異説もあるが、もともとは室生の水源への素朴な水神信仰から始まり、そこに雨を自在にあやつる中国の龍信仰が結びつき、一山は靈地となったといわれる。

創建事業は賢暉の弟子、修門らの手ですすめられたらしい。興福寺の法相宗を始め、天台・真言・律宗などの高僧を連れ、山林で修行するかたわら各宗を勉強する道場として、多彩な教学と信仰が開いた。

こうした経緯を経て、室生寺は格式高い真言密教の道場として信仰を集めた。当時、真言密教の木山である高野山が厳

しく女人を禁制したのに対し、広く女性の参詣を許された室生寺は『女人高野』と親しまれた。古くから祈雨や止雨の神といわれた龍穴神の龍穴神社とともに、多くの参詣者を集めた。

山号は「一山」。これは室生の略である。江戸前期、その旨をめぐり興福寺と真言宗が争い、新義真言宗豊山派の本寺として独立した。先の大戦後、真言宗室生寺派の大本山となった。

龍穴神社

室生寺東方、室生川を約1kmの所に龍穴神社が鎮座する。その名は延喜式の神名帳に連ねる。清冽で豊かな水、水の源に対する畏敬から発した信仰。室生は水の精の宿る神聖な里として都人に知られていた。大杉のうっそうたる森殿な龍穴神社は、室生寺よりも古く、雨乞いの靈驗あらたかな神としてまつられている。秋祭りには室生寺から神社までの「お祭り」がある。

龍穴神社の真後ろ、清冽な流れに面して岩窟が口を開けている。これが雨や雲を支配する龍神が棲むといわれている。「吉祥龍穴」である。龍穴に籠る龍神は、遊女道土の名がある。伝えられる龍神は「衣冠束帯」の男であったり、またある時は「即身成仏を願う」美女の姿となって現れる。龍神はこの龍穴に住む以前は奈良の菟沢池にいたという。昔、奈良の帝に恋着した遊女が、ただ一度のお召しに終わって、その後、二度とお召しにならなかったのを嘆いて池に身を投げた。不浄を嫌う龍神は春日山に移るが、そこにも屍を捨てにくる者があったので、再び移って室生へ来たといえる。

大野の慶座仏

古来室生寺への道は、大野寺を経て室生川を遡って行く「西の大門」からの道と、榛原から高井を経て「南の大門」といわれる仏隆寺からの山伝いの道とがあった。

電車・バス・車で訪れることの多くなった現在、大野寺は室生への唯一の道になった。春には境内の樹齢二百年ともいわれるしだれ桜が咲き乱れ、室生への前奏曲を静かに奏でる。

対岸に日本で一番美しいとして有名な慶隆仏がある。室生火山がつくり出した屏風岩と称せられる大岩壁に、光背の輪郭に彫りくぼめて内部を平らにし、その平滑な面に鑿彫りで弥勒の像を彫りつけてある。流麗なその線は幾百年の風雪に耐えてなお美しい。像高10・6m、光背13・8mの弥勒如来の立像が清流の上にそそり立つ。お顔はやや傾いて右下を見下ろし、衣紋の流れもきれいで、蓮座は一つではなく、両足それぞれの踏割り式になっている。像とともに刻み込まれた尊勝曼陀羅は、信仰の結晶のように見える。直径2・2mの円形のなかに八つの梵字が刻まれている。中央の大きな字は

金剛会大日如来の種子「バン」である。

この石仏は、鎌倉時代初期の承元元年(1207)秋、興福寺の雅縁大僧正の発願により、いまは焼損した笠置寺の天豆石仏を、9ヶ月がかりで写したものだ。『興福寺別当次第』によると、石仏をつくった理由は、木像や画像だと相好破壊であっていつかは朽ちてしまうが、石像なら龍王三会の期、すなわち五十六億七千万年後の弥勒出世の代に至るまで滅びないからだ、というものであった。

承元三年3月、後鳥羽上皇が石仏の眼供養に臨幸された。一行は上皇の妃、修明門院をはじめ公卿、殿上人、女房ら六十余人であった。

大正五年(1916)8月、奈良歴史蹟調査会がこの慶隆仏の胸と腹にある10cm程度の嵌石を外して、中を調査したところ、胸の穴からは朽ちてホロボロになった小童子が出てきたが、開いてみるとはできなかった。伝えられている後鳥羽上皇が落慶法要の時に納められたものかどうか、知る由もない。

石仏は刻んだのは、東大寺の再建に当たって渡来した、伊行末の一派であろうとされている。





室生寺五重塔

コース概観

大和と伊賀の国境、重畳たる山並のなかにひっそりとたたずむ山里、室生の里。高野入山を禁制された女人たちが、困難を越えて参り詣でた聖地、女人高野室生寺。初夏は「修験道の花」石楠花、晩秋は紅葉、冬は雪景色がたいそう美しい。春夏秋冬はげしく移り変わる山里のなかに、今なお生きて静かに息づいていく祖先の心を尋ね、詣でてみた。



どっしりと安定した体つき、十字の手相、リズムカルで美しい衣の装は、渓谷の清流を思わせる。  
金堂の西、数十段の石段を登ると滝頂堂（本堂）が姿を見せる。石段を登るごとに建物の陰や木々の間から次の建物がひっそりと姿を現す。鎌倉時代の、棟の非常に高い禪宗の唐球を取り入れた檜皮葺の建物。真言密教の最も大切な法儀である灌頂がこの堂で行われた。日本三如意輪の一つと称される如意輪観音座像は、極やかな作風の輪の一本造り。右膝を立てた足の裏を右足で踏み、六臂の構成は

近鉄大阪線室生口大野駅下車。駅前から血原橋行きもしくは室生寺前行のバスに乗る。すぐに大野寺。室生川の清流に臨む寺は室生寺への表玄関。春のしだけ桜、秋の紅葉と四季とりどりに彩られる。バスは室生溪谷沿いに、尾根と谷をぬうこと14分で室生寺前に着く。奇岩奇峰に富む室生溪谷は、秋の深まりとともに緑から紅・黄に変わり、朱を流す。渓流の清冽さに心が洗い清められるような思いがする。

門前に橋本屋旅館がある。室生の里を愛した写真家・土門拳氏はここに泊まって写真を撮り続けた。「室生寺はいつも変わらぬ姿で迎えてくれる。それが室生寺の魅力だ」と土門は記した。朱塗りの太鼓橋にたたずめば、夏は山峡の涼風が頬を撫で、秋は満山の紅葉が目に映じる。橋のたもとに「女人高野室生山」と刻まれた石標が立つ。高野山が女人禁制だった封建時代に、女性の参拝を許した役割は大きかったであろう。

橋を渡り重層増皮の楼門の仁王門をくぐる。白壁が杉の緑に映える。しばらく進むと右手にばん字池。左手に自然石を積み上げた階段が現れる。道の札を感

のびやかだ。お顔が柔直でいい。河内の観心寺像の妖艶華麗、甲山神咒寺像の媚々たる清動の間に位置する像である。

滝頂堂から五重塔へは、五輪塔や石仏の並ぶ石段を登る。北国親房・織田信雄・桂昌院・護持院隆光らの石塔や願がある。杉木立、石楠花、紅葉が石段を囲み音楽を奏でている。一歩一歩踏みしめて登っていくと、「弘法大師一夜づくりの塔」とも呼ばれる、優しく立つ塔が上からだんだん塔身を見せてくる。桜を前景にこの五重塔を石段の下から仰ぎ撮った土門の写真を思い出す。

平成10年9月22日、奈良地方を襲った台風7号の強風は、室生寺最古の建造物であるこの塔に大きな損傷を与えた。全壊は免れたが、室生寺のシンボルともいえるべき塔の傷ついた姿は、多くの人々に心傷を与えた。平成19年9月、修復工事が完了し、杉木立のなかに新しい檜皮に葺かれた五重塔の優美な姿が蘇った。  
法隆寺についてわが国二番目に古いという塔は、16・8層という小ささと、塔身の細さと、勾配がゆるく軒の出の深い檜皮葺の屋根によってたいそう清らかに感じられる。九輪の上に水煙でなく、天

したようなので鐘板と呼ばれる。石楠花のころ紅葉に彩られるころは庄巻である。登るにつれて柿、舞の金堂が道り出すように姿を現してくる。のびやかな屋根の線と石垣上に張り出した礼堂の棟が調和している。木漏れ日が石段に映え、刻一刻表情を変え心を導く。平安時代前期に建てられた当初は、入母屋造りの建物であったが、江戸時代に正面一間巾の懸屋の舞台造りの礼堂が取り付けられた。本尊の釈迦如来像を中心に、向かって右に薬師如来・地藏菩薩像、左に文殊菩薩・十一面観音像の五尊が並び、その前面を十二神持像が取り囲む。本尊の背後の板壁には、帝釈天曼荼羅が美しい。

金堂の左手に栴檀三間四方の弥勒堂がある。興隆寺の北円堂近くにあった伝法院を受け継いだと伝える鎌倉時代前期の建築。修理の時に天井裏から、糊塔がたたくさん発見された。糊一粒を真言陀羅尼を刷った紙に包んで納めた小さな宝篋印塔には、庶民の農作祈願・招福祈願が込められている。赤粉菩薩立像は、像高97cmの白檀の一本造り。唇に朱をさし、目に墨を入れている。釈迦如来坐像はみごとな貞観彫刻の翻装式衣紋がみられる。

蓋に飾られた宝瓶を載せ宝鏢を吊りめぐらしている。

五重塔は寂った。常に最高の状態を保ち、いつまでも清らかで美しい。塔は仰ぐ者の老いを知らぬように、慈とした少女のように屹立している。

五重塔から山上の奥の院へ至る石段の道も風情がある。石楠花と羊歯の群落。室生山麓地性羊歯群落として天然記念物に指定されている。杉の巨木、地藏尊、小石を積み重ねた塚が無数にある養の河原。臨突き急な石段は三百数十段続く。岩山の頂上に舞台造り位牌堂と弘法大師をまつる御影堂が相対して建てられている。

- △コースタイム▽
- 近鉄室生口大野駅（バス14分）室生寺（15分）龍穴神社（15分）室生寺前（バス14分）大野寺（5分）近鉄室生口大野駅
- △地形図▽2万5千1大和
- △費用▽
- 近鉄上本町駅→室生口大野駅 860円
- 室生口大野駅→室生寺前 400円
- △問い合わせ▽
- 室生村観光協会

0745(92)2315

〈山のレポート〉  
**続・山名の同定について**  
**同名は同質か**

西尾 寿一

「一を知れば十を知る」という言葉は、こと地名に関する限り間違いない。つまり同名の山でも由来が同じとは限らないからである。

地名学者であれ専門家であれ、一所懸命に特定の難解な地名を解説したとしよう。これで他の同名の地名も類型として処理できると考え、手抜きをしてみいがちだ。ところがこれが落とし穴で、著名な学者の「地名辞典」にもこれが少なからずみられる。

例えば「愛宕山」などは全国に数え切れないほど存在するが、本山である京都の愛宕山と他の愛宕山の由来は当然のことながら異なるはずなのに、これを無視したりする。

「コンサイス日本山名辞典」では、同じ火伏の神を祭祀する秋葉山に対して木の無い山を見つけてきて、毛無山は木無山同様、すべて木の無い禿山であると一方的に片付けてしまう。

しかし毛無山は本来は「毛成山」であり、木のよく茂る山なのであった。少なくとも古い時代はそうだった。ところが時代が下ると次第に毛成山が音表現で毛無山と変化し、さらに漢字表現をそのまま直訳した形となって、それ以後に命名された「毛無山」は直訳通りの木の無い禿山を表現したのだと思われる。

その証拠として禿山の毛無山は歴史としては新しい部類に属する山が多いのである。

草津の毛無山などは火山性で権右におおわれており、木が生えず文字通りの毛無山である。従って毛無山は新山の毛無山が混在しているときみているが、地名論者たちはどちらか一方で全てを説明しようとしてゆずらないのである。

「洞」も同様である。洞地名は特定地方に集中している。東海・中部に多いが東北地方の一部にもかなり多い。これはどうやら嶺山との関連で調べる必要があるのだが、これにも有力二派が対立して

「他の地域のものもこの神社を勧請したもの」とする見解である。つまり地方の人々が秋葉神の防火に対する霊験あらたかなのを聞いて近郊の山に秋葉神を勧請したことだから、この名があると認めているのに、愛宕山の場合には、山名由来をアイヌ語やレブチャ語に求めたり、山頂に愛宕神社があるからとするなど一貫性に乏しいのである。

愛宕山は明らかに秋葉同様、京都西北に坐す愛宕山が本山であり、京都文化の拡張と共に地方へ勧請されていったのである。また愛宕信仰の伝導師のような（熊野の御師のような）山伏たちが、各地方へ渡り愛宕信仰を広めたことは想像に難くない。

京都の本山がどのような経緯で「愛宕山」となったかの問題は、それこそ愛宕信仰と歴史を詳かにすることと同義である。秋葉山も同様であるが、そのような（信仰の）歴史をもつ本山の由来と、各地方の勧請された愛宕もしくは秋葉の歴史は全く違うのは当然のことなのだ。なぜこんな簡単なことが見逃されているのか全く解せないのである。

愛宕神社が山頂に存在するから愛宕山

いる。

つまり、開拓用語と溪谷用語である。洞はホル（窟）とみて開拓地にある地名であるとする派に対し、登山者たちは谷名として理解している。美濃には有名な川浦谷があり、その支流群に〇〇洞が多く「谷または沢」の代替名のように使われている。

しかし冷静にみれば、その〇〇洞の地名はだれが好んで付けたのか、洞の形状を身近なものとして理解する人々がその谷の自然地形を洞と見立てたのである。それは洞穴であり嶺山であった可能性が有力である。そしてその職業的集団が移動する所、〇〇洞の地名が先住者の沢や谷とは異なる地形名として差別的に付されたといったのではなからうか。

現在その職業集団が何者であるか特定できないが、昔から「歩き筋」といわれる一群の漂泊的職業者とおぼろげに理解するのみである。従って「洞」が紋等と共にどう変化してゆくかは、かなり幅をもって考えておく必要があると思うのである。

と呼ぶのは地方の愛宕山の場合のみであって、本山のものは、なぜ愛宕神社が山頂に設けられたのかという説明が必要なのである。それが地名調査の本質なのである。

愛宕や秋葉だけの問題でなく、他にもよく似た例がたくさんみられる。

例えば、立山の美女平・京都の美女山・会津の美女峠などを地形説で解くか、伝説・伝承説で解くかで意見が分かれる。分かれることは別にかまわないのだが、どちらか一方が三例とも「美女」は同一理由によるものと決めつけてしまうことである。おそらく三者とも個別の由来があるはずで、それを調べてからでもおそくないのに労を惜んで類型論で片付けてしまうのである。

また、全国に「毛無山」がたくさんある。これも漢字表記のまま「木の無い山」であると実にあっさり認めて終わりにしている。

実際に毛無山は木のある山と無い山とに分かれて、理解し難い状況にある。しかし木の無い説を主張する勢力は特定の

**印象深い山**

村田 智俊

**安芸冠山から寂地山縦走**

盆休みに登った西中国（広島・山口県境）の「安芸冠山」「寂地山」がとてつもなくよかった。

登山口は吉和村の潮原温泉。林道に入って約30分で橋を渡り、溪谷に沿うゆるやかな登山道を行く。クルソソ岩を迂回して安芸冠山へ。1等三角点があり、北側の断崖の上は好勝岩だ。寂地山への縦走コースは、松ノ木峠からの道を下り、分岐を右にとって寂地山へ。もうこのあたりで大きなブナが現れる。道中は広い尾根上で、感嘆の音が連続して上がるほどに緑いっばいのブナの原生林が続く。安芸冠山から1時間で寂地山。寂地山への下山は二コースあるが、2時間30分もあれば十分である（全行程約6時間）。

登山基地の潮原温泉は最近新築されて清潔。大浴場があり料理もおいしくて料金も手頃。おすすめのお宿だ。紅葉、春のカタクリも最高だとか。

### 加美町周辺の山々

## 三國岳・竜ヶ岳・大井戸山

一般コース(★)  
篠山 誠峰

北播磨地方といわれる兵庫県多可郡加美町一帯は、自然が色濃く残され、楽しい登山が味わえる山域である。阪神間からそう遠くなく、登山後の温泉を組み合わせ、晩秋の一日を楽しむことができるだろう。

### 三國岳 (855.7m)

三國岳と呼ばれるからには、その山域が三國にまたがることが多い。この山の場合には多可郡加美町・朝来郡生野町・水上郡青垣町に三分されたようになっている。旧国名の播磨・但馬・丹波にあたり、雄大な山容である。

国道17号線を北上し、西脇市から

427号線に入り、さらに北上する。加美町の道の駅を右手に見て青玉神社を左折する。沢沿いの林道を1km程走ると左側に駐車スペースがあるので、車を置き登山開始とする。

少し林道をたどると小さな標識があり、右へ杉の植林を登って行く。谷が深まってきた所で右の尾根に出て、ナナの山道を行き交った交通の要衝も今は訪れる人も少なくひっそりとたたずんでいて、日陰には先日の雪が残っていた。右の林のなかを進むと但馬側に切り開きがあり、展望を楽しんだ後山頂に着く。

3等三角点のある静かな山頂だが、ガスってきて寒いので、早々に下山にかかるとにした。

(平成11年12月11日歩く)

### 竜ヶ岳 (816.7m)

前述の加美町を北上し、千ヶ峰山麓の丹治、市原を過ぎ、雲門寺の標識が見えたらそこを右折する。道なりに登って行くくと未舗装になり、やがて林道終点の駐車スペースに着く。

ここに車を置き、ピンクの目印が連続

れて登山道はよく整備されている。約1時間の破線歩で山頂に着く。

「ふるさと兵庫の五十山」に選定されて以来、展望のない山は切り開かれていくことが多い。ここも杉原川を望む斜面が切り開かれている。あちこちにツツジのピンクが鮮やかだ。連休だということにだれもいない山頂でお昼にしてくつろぎ、次の大井戸山に登るため、片に戻る。

### 大井戸山 (794.2m)

清水坂には石仏と炭焼き窯の跡があり、交通の盛んな往時をしのばせている。



三國岳・竜ヶ岳・大井戸山付近地図

大井戸山には南へ向かい、正面の雑木林のなかの道を登って行く。道はしっかりと踏まれていて迷うようなことはない。が、竜ヶ岳への道のように明るく尾根道周辺まで刈り込まれてはおらず、大峰の行者道岳あたりとよく似ている。小さな岩場を越えたり捲いたりして、なかなか楽しい道が続いている。

標高が見え隠れしている。1等三角点のある山のわりには登頂意欲がわかないのは、車道や無線塔が見えているからかもしれない。

やがて大井戸山に着いた。山頂が驚くほど狭く小さいところだが、とんがったピークを持つこの山らしい。真新しい4等三角点が見え隠れしている。

道を少し行くと、岩場が突き出しており、眼下に杉原川流域の集落が手に取るように見える。展望を十分に楽しんだら、来た道を駐車地点ま

竜ヶ岳山頂



した植林のなかを時の清水坂を目指す。途中の林床にマムシ草が花を咲かせている。たいていは単独で生えているようだ。この岸の生えてゆく知恵なのか蛇柄の不気味な茎は折られることもない。

電光型の山道は中間までは沢沿いなので、水には困らないありがたいルートである。

石仏のある時を北上する。下地が刈らで戻ろう。

時間のある時には、丹治にある春蘭荘の温泉で山行の疲れを流すことになっている。設置主体は加美町だが、加美町社会福祉協議会に運営を委託している。

427号線に出て少しくだると、案内が出ており、道は一本道で明瞭である。ラドンを含むという湯は神経痛・リュウマチ・自律神経失調症にも効きがあるそうなので、何といっても3000円の入湯料で入れるのがうれしい。

連休の1日、この二山を楽しむことで、浩然の気を養うことができた。

(平成13年5月5日歩く)

### コースタイム

三國岳 駐車地点(1時間30分) 山頂

竜ヶ岳 駐車地点(20分) 峰(1時間) 山頂

大井戸山 峰(50分) 山頂

△地形図▽2万5千1大分草・丹波和田

△交通▽バス路線は便も少なく、林道もあるのでマイカー利用の入山が便利

△問い合わせ先▽ 春蘭荘 0795(36)2381

(里山シリーズ) 近江八幡

城跡から琵琶湖展望

鶴翼山(八幡山)北尾根

一般コース(★)

長宗 清司

JR近江八幡駅前から西国三十三ヶ寺札所の長命寺に向かうバスに乗る。やがて正面に小高い山が見えてくる。この山は鶴翼山とも呼ばれている八幡山で、戦国時代、羽柴秀吉の甥の秀次が山上に八幡城を築いた山だ。現在はロープウェイのほかハイキングコースがあり、容易に山頂へ登れる。

地図で見ると、山歩きにもってこいの尾根が北側にあるのに気づく。今回は、この尾根を北側から八幡山に向かって縦走する。

バスは「渡合」で下車。長命寺川にかかる橋を渡ると、橋のたもとに「老津島 守る神やいさむらむ 浪も騒がぬ

責への洞」と、沖島を詠んだ紫式部の歌碑がある。

目の前の山裾にある百々神社の小さな拝殿から真山のピークに向かう。尾根に出ると周囲は常緑樹が多く、琵琶湖から吹きつけを西風はない。落ち葉の積もる里山歩きは、足にやさしくあたたかい。葉が落ちて見通しのよくなった裸木帯をかき分けながら進むと、杉の袖林帯に入る。地割確認の標石をたどりながら、次の丸い山塊を右へ移動しながら登る(地元では丸山向山と呼んでいる)。このまま標石を追いすぎず、西側が見えるあたりで地図とコンパスで南を確認して、移行する。このコース内ではほとんど不明瞭な地点なので充分注意する。里近いやぶ山は、山仕事以外の人は入らないだけに、地図とコンパスと動が頼りになる。だが、自分たちだけできょう一日借り切ったと言ってもよく、珠玉の山歩きとなり楽しい。

278坪のピークからは、びっしり茂るウラジロのなかに道が一筋はっきりついている。南斜面を急下降する途中で、正面の鞍部越しに八幡山山上に建つ村屋御所の屋根が、紅葉のなかに浮かんで見

きる里山の醍醐味が味わえる。

午後は、やや登り気味の尾根道を忠実にたどる(はっきりした踏み跡あり)。やがて、鶴翼山(八幡山)の三角点標直下、城跡の石垣に行き当たる。石垣をよじのぼって八幡山△271・9坪(3等)の展望台地に立つ。

眺めはずばらしい。西北に琵琶湖が広がり、目の前には長命寺と津田山道山。足下には先程まで歩いてきた山塊がどっしりとある。右側にはクワンと小さく、湖岸に荒神山が望める。視線を右へ移すと、安土・懷徳寺山が、さらにその奥に



鶴翼山(八幡山)北尾根付近略図

は箕作山・太郎坊山がワイドに広がる。

山頂には、城跡に悲運の武將、豊臣秀次の菩提を弔う瑞竜寺(村雲御所)がある。城を築き、近江八幡の街並をつくった秀次の偉業は、ここから眺める甚盤目状の美しい近江八幡の市街地が証明している。

遠く、雁洲山・岩倉山とその背後に安吉山と雪野山(左の帝王山)が一塊に見える。中に蒲生野を抱くように右の帝王山とも呼ばれている鶴山が望めた。

瑞竜寺下の石垣を廻り込むと西の丸跡に出る。形のよい松を前景にして遠く円錐形の美しい三上山

近江富士山があり、近くに弓なりの琵琶湖岸には欽枕で有名な「水菜の園」四山がぼつんと土饅頭のように見える。

下山は、西の丸から奥道化したウラジロの生い茂る斜面を一気に南下した。直徑20cmはある赤宗竹の杖を突き切って船木町の集落に

八幡城西ノ丸展望台から西方の琵琶湖岸四山を望む



える。このあたりでは、左右に視野が広がる。次の「北の正山」は、マツタケ山である。毎年下草が刈り込まれるので真夏以外は歩きやすい。

この山域には小花が少なく、小鳥のさえずりも聞こえない。それだけ静寂の世界にひたれる。木の葉がないのか小動物の糞も見当たらなかったが、自然と対峙で

出る(地図に破線路が記してあるが、完全に自然に違っている。方向さえ左へとついでればバス道に出られ、迷うことはない)。

街道を20分ばかり歩くと、右の高みに八幡公園がある。園内には豊臣秀次の銅像があり、おもしろい形の面影がしのべる。山裾のケーブルのりばを通過して、日傘礼八幡宮・瓦ミュージアム・八幡堀と楽しめる。

最後は、新町通りに出れば古い街並の中ほどに資料館もあり、ぜひ見学されるとよい。バスは、小幡町から乗る。

(平成11年11月28日歩く)  
(平成12年4月2日歩く)

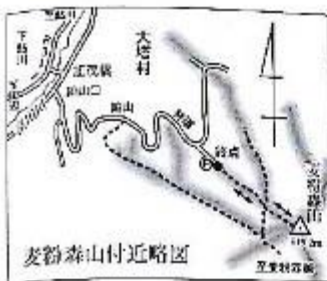
▲コースタイム▼

JR近江八幡駅(バス20分) 渡合(百々神社)(15分) 丸山向山(45分) 278坪(40分) 北の正山(1時間) 鶴翼山(八幡山) 三角点展望台(15分) 西の丸跡(30分) 船木町(20分) 八幡公園(15分) 日傘礼八幡宮(10分) 資料館(5分) 小幡町バス停(バス8分) 近江八幡駅(八幡宮) 2万5千円 近江八幡 近江鉄道バス 0749(22) 3306

2等三角点のある山

麦粉森山と半田峯

山形 蔵之



麦粉森山村近略図

麦粉森山(点名・峠川)

一般コース(★)

変わった名の山である。以前から気になっていたが、辞典を調べると「山麓で小麦が栽培されたところから名が付けた」とある。もっともこの名を見れば辞典を引くまでもなく、だれでもが想像できる単純なことであった。

山は熊野詣での中辺路のある大塔村に所属し、同じ村内には半田峯や関西百名山の半作嶺がある。ちなみに奈良県にも同名の大塔村があるので、間違えないようにしよう。

国道42号線を南下し、田辺市を過ぎ国道311号線に入る。この国道は中辺路町を巡って熊野本宮に向かう。富田川沿いに進み、峠川温泉の手前で加茂橋を渡る。渡った所で右折して少し戻り、峠山の集落に登って行く。後はそのまま集落を抜けて林道となる。山腹に登り着くと、ヘアピンカーブで道が分岐する。行き過ぎると道は下りになってしまふ。さらに少し走ると「さくら公園」の表示があり、左側で工事が行われていた。

舗装の林道の終点が登山口になる。林道はその先地道となり「浅草林道起点」と示されている。古い登頂記念の板と、古びた簡易トイレが一つ。駐車場はないが、道端に二、三台は置ける。

登山道は昔の街道とかで、比較的幅も広く植林のなかを登って行く。やがて道は山腹を巻き「麦粉森越」へと向かうが、稜線を直上する登山道に入る。林のなかをひと登りで、広葉樹に囲まれた山頂

(619.2m)に達する。

無傷の三角点と古びた登頂板が一つ。登山者の訪れた形跡は少ない。特異な名前前のわりには、特徴のない山であった。

登山口の公園が完成したら、駐車場やトイレ等が整備されるだろう。



半田峯山頂



麦粉森山三角点

(平成13年3月29日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(50分) 麦粉森山

▲地形図▼20万1田辺 5万1栗栖川

2万5千1合川

半田峯(点名・峠川)

一般コース(★)

峠川新橋を渡り後場の前を通過する。

(平成13年3月29日歩く)

▲コースタイム▼

林道駐車地(10分) 半田峯

▲地形図▼20万1田辺 5万1栗栖川

2万5千1合川

深谷トンネルを抜けて日置川に出ると、上流の合川貯水池を目指す。合川ダムからさらに国道371号線を通り、向山の集落を抜け橋を渡ると、西大谷の林道が分岐する。入口に立つ「乳大師」の道標が目印になる。地図では半田峯のはるか北方で、大きくカーブして山に向かっていく。「点の記」の登路の七、八倍の遠回りになっている。

高度を上げ乳大師を過ぎると、視界が広がり、半作嶺からのびる山脈にいくつものピークが現れる。どれが目的の半田峯か定かでないし、道標らしいものは一つもない。

やがて一台の廃車のある広場を過ぎると、道は荒れて下りになった。どうやら行き過ぎたようで、鹿車の所に戻って道



を探すと、逆方向に山頂に向かう林道が分岐していた。この道は稜線の鞍部で広い木出し場になっており、東斜面が一面伐採されていた。

車を降り、さらに山頂に向かう荒れた林道をつめる。稜線の林に入ると、鹿よけのネットが張られていた。最後に小さい岩を登くと山頂(663.5m)に出た。

新設の標石と小型のTVアンテナが立ち、植林のなかで展望はない。東側の伐採地は草が植えられつつあったが、斜面はひどく荒れていて山が哀れであった。

地形図に山名があっても、林道が山頂近くまでのび、もう登山の山ではなく、訪れる人もない忘れられた山であった。

下山時に「乳大師」を覗いてみる。小さい洞窟に鍾乳石が一つぶら下がっていたが、これが乳房に見立てられているようである。

国道371号線を北上する。日置川沿いの道は車の対向もできない狭い道で、国道とは名ばかり。下川下の宮ノ平には乙女の湯という温泉があり(水曜定休)、汗を流すのによい。またさらに日置川を渡ると、安川渓谷が観賞できる。

▲コースタイム▼  
林道登山口(35分) 大森山  
▲地形図▼5万1江住 2万5千1下露  
▲問い合わせ先▼  
北海道大学和歌山演習林事務所  
0735(77)0321

### 大峰前衛の静かな山

## 高原山から四寸岩山

中級コース(★★★)

金谷 昭

高原山(1087・3割)は大峰連峰の四寸岩山(1235・6割)より派生する奥平根の「突起」ともいえるピークである。里に近いだけにすでに畑の山となってしまうが、高原山から四寸岩山へたどる尾根には、静寂とかつての大峰らしさが一部残っている。

近鉄大和上市駅・八木駅発のバスに乗る。「杉の湯」までは比較的便数が多く、マイカーに頼らなくても日帰りが可能である。

登山口の高原集落へは「杉の湯」より林道洞川・高原線をたどり、途中で同林道と分かれて、高原の最上部にある福源寺に向かう。「杉の湯」から約4・1キロ、

舗装された林道を歩くこととなる。出合う林道分岐には寺への道標があり、寺で終点となる。マイカーの場合、林道終点には四、五台のスペースがある。駐車の際には寺の了解を得ておこう。福源寺は、木地師の祖と言われる惟喬親王の岡室御所であった所で、大峰山とはつながりが深く、役行者と役行者母子像がまつられている。

登山口は寺裏の墓地の山側にある受電設備のフェンス右側に関西独歩会の「四寸岩山へ」の木札が掛っている。

ここからの山道をたどっても行けるが、林道終点の手前200メートル地点に、右側山腹への作業道の階段がある。これを登っても上部で合流する。共に山に取りついて右(東北)方向に登って行き、高原山の東麓の支尾根を登ることになる。

作業道との合流点からは急登となる。すぐに間伐地に出て、左上方(西南方向)に向かって高原側の山腹を捲いて行く。間伐地を過ぎると右に折れ、今度は山腹の右上方(真北方向)にゆるやかに捲いて行く。途中、左に稜線上に直登する踏み跡を見送って、なおも右に捲いて行く。登り始めてから約五分で、小さな支

尾根の稜線に出る。反対側は迫り方向からの踏み跡が登ってきている。



四寸岩山山頂

これより左に折れ、稜線に付けられた踏み跡を登る。下生えのない杉林のなかだが、そのうち檜の幼木が出てきた所で右に折れる。このあたりはゆるやかな広い尾根で、間伐材が放置されていて踏み跡がわかりにくい。稜線を思案に、所どころのテープをたどって行けばよい。

寺から約1時間で迫からの尾根が合流する。ここで左に折れ、高原側は檜の幼木、迫側は杉の巨木の稜線境界の踏み跡をたどる。下生えのなかつた斜面に低いササが出てくれば、高原山に近い。

登り着いた山頂は、迫側は檜の幼木、高原側は杉林に囲まれて展望は皆無。小広場の中央に二等三角点(点名・深山)の標石がひっそりとたたずんでいる。

これより四寸岩山への縦走は稜線を出たにたどればよい。いったん緩やかに

だり、登り返すと右(迫)側は雑木林、左(高原)側は檜林となるので、その境界稜線の踏み跡を行く。しばらく行くと、少し明るく開けた山腹の木の多い所に出て、初めて前方に四寸岩山方面が望める。それも少し行くと踏み跡がはっきりしなくなるが、ともかく稜線を西に向かって忠実にたどればよい。所どころに出てくる境界杭も目安になる。

11255峰は口頂で、踏み跡がなく



高原山・四寸岩山付道略図

なると、岩と原生林の混った大峰らしい尾根歩きとなる。ここがいちばん迷いやすい所で、テープと磁石を頼りに西方向を指す。

いったんくたって登り返した11177峰の稜線右側には明るいカヤトが広がる。振り返ると、たどってきた高原山と速くにそれとわかる高見山が望める。

11177峰を過ぎると、三ツ槍植林の稜線となる。踏み跡はないが、下生えもなく歩きやすく、最後は急登となって四寸岩山の頂上に飛び出す。

頂上は二等三角点(点名・心身の峠)を中心とした小広場で、雑木に囲まれている。大峰古道が西側を通過している。数年前までは昔の修験道の雰囲気を感じ出していたが、西斜面は大伐採されてしまった。しかしそのぶん、南から西方にかけて、大天井ヶ岳・屋形山・柏原山などの展望はよくなっている。

四寸岩山からの下山は、高原に戻るならば、大峰古道を五番関に向かって縦走し、百丁茶屋跡より下山するのをおすすめする。途中の巨漕宿跡付近は約15分で、大峰古道の風情が今なお存続している。一度は味わっていただきたい。

足指宿跡から約30分も行くと、西側から舗装された林道吉野・大峰線が合流し、すぐ百丁茶屋跡となる。地図に記載の高原川への点線路は廃道となっているので、合流した林道を行く。稜線を東側に越えて少し行くと、高原側より廃道となった林道が登ってきている。歩くぶんには問題なく、先の林道よりすいぶん近道で高原に戻れる。途中の高原川の渓谷美を楽しみながらくればよい。

なお、四寸岩山から往路に戻るのには、尾根分岐が多く迷いやすいので、登りにテープを付けておくべきである。

また、吉野へ出るには大峰修験道をたどればよく、約3時間程かかる。遅くなくても近鉄が利用できる。(平成9年9月21日歩く)(平成13年6月30日歩く)

#### △コースタイム△

- バス停杉の湯(1時間) 福源寺(1時間10分) 高原山(1時間30分) 四寸岩山(15分) 足指宿跡(30分) 百丁茶屋跡(45分) 高原川文田谷出合(40分) 高原(45分) 杉の湯

△地形図▽2万5千1:1洞川

続・近江側から登る鈴鹿の山々②  
長大な尾根縦走

滝谷山・サンヤリ・天狗堂

中級コース(★☆☆)  
磯部 純

御池岳西端、茶野の北にある桜峠に端を発した尾根は、御池川に沿って南下し日本コバへとつながる。この長大な尾根を横切る道であるミノガ峠と宮坂峠の間にそびえる、滝谷山・サンヤリ・天狗堂の山頂を越えての尾根縦走は、以前は交通の便も悪く、簡単に歩くことができなかった。しかし、御池林道が整備された昨今、車を利用すれば、容易にこの尾根を縦走できるようになった。平成12年5月、岩野さんの例会が始まってから、初めて歩いたこのルートを紹介する。

永源寺ダムの奥、中畑から政所・姪谷を経て御池川林道を通り、君ヶ畑バス停広場へ置き車をして、ミノガ峠へ向かう。

ピークが見えてくる。

サンヤリ、別名「仏供さん」とも呼ばれ、山頂には2等三角点が埋められている。点名は萱原村で、標高958・2mである。この北東斜面一帯は伐採地で、すぐ目の前に御池岳が迫ってきている。このサンヤリの三角点を踏むだけだったら、御池川林道から瀬川谷林道へ入り、瀬川谷を越ればサンヤリの東尾根下へ出る。尾根の取付き地点はわかりにくいのが、このルートの詳細は新ハイ32号48ページに載っているのを参照されたい。

サンヤリから天狗堂までは、約1時間の尾根縦走だ。サンヤリ三角点から30分ほど西へ戻り、尾根が曲がっているあたりから南へくだり、尾根にのる。もちろん、踏み跡すらない急斜面だ。やぶが多く歩



滝谷山・サンヤリ・天狗堂付近地図

ただし、平日はバスが来るので、別の場所

に車を置かなくてはならない。昔は情緒あつたミノガ峠も、今では四つの林道の交差する明るい広場と変わってしまった。時に車を置いて林道を歩き、南に見える送電線鉄塔へと向かう。

林道終点から鉄塔へ登ると、すぐ右に谷へくだる巡視路がある。それをくぐり谷におり立つと、巡視路は谷に沿って付けられている。道はすぐ二手に分かれるが、左の道をとって、急斜面を登ると送電線の鉄塔。あたりはシャクナゲの林で、季節を見きわめて歩けば、花が楽しめるだろう。道はすぐ下りになり、急斜面の鉄梯子をおおると谷。先程の道分岐を右に進むとここに出るのだ。再び、向かいの細い急斜面の尾根を登ると、趣ある樹林帯の尾根となる。右手には、木々の間からこれから登る滝谷山が姿を覗かせている。

尾根を歩き、右に曲がって登ると滝谷山。点名は滝谷、標高877mである。山頂の北、東斜面は伐採されていて、大見晴から茶野・鈴ヶ岳・御池岳の姿を目の当たりにすることができる。

ミノガ峠からこの滝谷山までのルート

きにくいとはいえず、尾根にのってしまえば、所どころ踏み跡を見ることが出来る。植林帯、二次林の林と二つのピークを越え登りにかかり、岩の間を登ると天狗堂山頂である。

山頂には大岩が鎮座し、その大岩の上は、3〜4人が坐ればいっぱいになってしまいそうな広さしかない。その岩の上に立つと展望は抜群で、御池岳に始まり、藤原岳・鎌子岳・静ヶ岳・竜ヶ岳が連なり、その右手に釈迦ヶ岳・御在所岳と、鈴鹿中央部の山々が一望できる。

天狗堂には三角点はない。標高988mの山である。山名の由来ははっきりしないが、天狗の住むような鋭峰であるところから、木地師の間で呼ばれるようになったと言われている。別に、木地師の親、惟禰親王がこの山を君ヶ畑の守り神

天狗堂大僧都権現として、麓の金蔵寺に勧請し折鉢したという伝承が残る。大岩から南へ踏み跡を歩く。斜面が急になる手前の岩の下

は、岩野さんが新ハイ35号42ページに紹介しているが、最近では「京阪神から行ける遊覧の山」



（朝日新聞大津支局）にも紹介されている。しかし、ミノガ峠から正確に尾根を歩くのであれば、峠から西へのびる林道を少し歩き、830m付近の西から尾根に取り付けば、滝谷山まで30分余りで登ることができる。

これから先、天狗堂へ向けての尾根縦走が始まる。先程登ってきた尾根まで戻り、送電線巡視路を南に向かう。地図で見ると以上に、小さなアップダウンが続く尾根である。やがて、送電線を二本くぐり、次のピークで巡視路と分かれると、尾根にはかすかな踏み跡しか残っていない。広くなったりやせ尾根になったり、思わぬ所でシャクナゲの群落に行く手を阻まれる。踏み跡もないいくつものピークを登り、歩きやすい広い尾根を抜けると、細尾根の向こうにサンヤリの平坦な

から左の斜面の踏み跡をくだれば、支尾根から岩尾谷を経て、赤崎橋北の林道へくだることが出来るが、君ヶ畑へはそのまままっすぐ南の踏み跡をくだる。

途中の大岩を右に捲いて急斜面をくだると、二次林の心地よい疎林だ。方向をゆるく西に向け、ピークを一つ越え、尾根が右に通り込む所が712mのピーク。ここから尾根を南にくだれば、君ヶ畑にある惟禰親王をまつた大岩器地祖神社に出るが、宮坂峠へは、さらに尾根をたどり西南へと向かう。

宮坂峠は君ヶ畑から坂ヶ谷へ越える峠だが、今では登山者は大岩器地祖神社からの道を歩いている。宮坂峠にはしっかりと残った道が残っているものの、徐々に忘れ去られようとしている。その古道を左へくだると、君ヶ畑集落の南の杉林におり立つ。（平成12年5月3日歩く）

- ▲コースタイム▽  
ミノガ峠（1時間）滝谷山（2時間）サンヤリ（1時間）天狗堂（1時間40分）君ヶ畑
- ▲地形図▽2万5千1151・竜ヶ岳







報告してから、植物園で話してみたがわからなかった。5月下旬の爽やかな日曜日のことであった。

キンリョウソウ。漢字では「銀葉草」と書く。新聞の記事によると、写真は北山の下流川原で撮ったものあり、銀の葉が流を昇る姿に似ていることが各館の由来らしい。日陰が全くない森林の良質な腐葉土のみに自生する。葉緑素をもたず、光合成ができないためこのような葉になるらしい。自生する場所がごく限られていて、6月初旬の二週間しか姿を現わさないで、林業従事者でも見たものは少ないという。

私が見たものとは、花卉のあたりが少し違っていたが、ほかは全く同じで、たぶん、新聞の写真のものより時期が少し早かったからではないかと思ふ。

白倉岳は、ある目的があって数回訪れた山であるが、もう一度行ってみたいという気になった。銀の葉というよりも、白衣を着たゲゲの鬼太郎の目玉オヤジが踊っているように見えるユーモラスな新聞の写真を見ながら、私はひとり語っていた。

後日、書店の図鑑で調べてみた。私の想像は当たっていた。新聞の写真の目玉のようなものは花卉が結実したものだった。図鑑を見たキンリョウソウのスケッチは、私が白倉岳の登山道で見たものと同じ形をしていた。イチヤクソウ科、ニウレイタケという別名があるが、キノコではない。腐生植物の仲間である。(高橋市 西村善治)

7月の十曜日、一人で長野県下伊那郡の大川入山に登った。いつもは治部坂峠からだが、今回はあららぎ原からの道を選んだ。歩く人もいなくて、頂上で会った人は治部坂から来たバーティだけで静かな山歩きだった。

下山時、樹林帯で休んでいると野鳥が次々とすぐそばまでやってきた。ルリビタキ、コシユウカラ、コガラ、ヒガラ、コマリなど。鳥の集まる場所なのか、鳥のお散歩コースにたまたま居合わせただけかもしれないけれど……。

里道では自然と出合えるからよい。とりとり納得して歩いていたら、きれいな白樺林に出合った。うーん、きれいだなと感心していると、10月鹿先でガサガサ。真っ

黒い大きなぬいぐるみのようなものが跳ねるように逃げていく。ネー、嫌、恐しくなってそれから口笛を吹いて駐車場まで短スビードで帰った。

熊と遭遇したことを自慢して妻に話すと、「ふーん、タヌキではなかったの」と一言。

7月初旬の梅雨時、2泊3日のハイキングツアーで尾瀬ヶ原を歩いた。

3日間とも晴天に恵まれ、1日は鳩待峠から見晴ました。湿原の中にどこまでも続く二本の木頭とニッコウキスゲの群落が印象的だった。

2日目は湿原の原生林と尾瀬の水を集めて流れる爽快な二架の滝と平野の滝巡り。夕飯後は星空の下、山小屋前広場にて日本旅館の野外コンサート。「夏の思い出」「四季の歌」「山男の歌」など。

3日目は尾瀬湖を廻り、遊味の水芭蕉にも出会えた。

全行程45キロを完歩でき、山岳写真家の花畑日高先生から直筆のサインもいただいた。

次回は季節を変えて、尾瀬の百

名山に登頂しようと思いついた。

(名古屋市長 森 訓様)

山行記録

7月8日 元辰谷  
元辰谷のナメ・湯・滝は心地よく、飛瀑を浴びて癒された。

7月15日 神崎川・茶屋川  
茶屋川の下流の渓流を、深き輪を廻って流れと共に、渓谷はシモツケソウにクガイソウ、藤下の岩にふわりと咲いて、神崎のてっかい海にエメラルド、浮き輪を抱いてゆらゆらりと。

7月20日 須谷川  
滑へつり滑を泳いで滝登り、岸の夏は焚火園で。

8月6日 フメカリ谷・白滝谷  
フメカリのすたれの滝に魅せられて、つわものどろろは水とわむる、崖海より吹き上げる風流しくて、一子の子の絶景に酔い。

8月14日 神崎川下り  
歩いたよ神崎川の山下り、深い渓谷にこぼる。

8月25日 法皇小倉  
山深く眼穴谷の近ヶ滝、白い瀑布が雄麗なり。

(近江八幡市 吉野 明)

7月20日 常山の大笠山に登った。今年はず方登山・白山の三ノ峰・立山へと、鈴鹿の山へ行ったが、大笠山が最もきつかった。前号の「せせせせ」に書いたが、小生の登りたい山の中で最も難しい「三友ヶ岳」の北側に位置するの大笠山である。

茨ヶ岳への道は無いが、大笠山へは道がある。これは一等三角点があるからだろう。

大笠山への麓道は登山口の桂湖から1270mだが、途ロアツブダワンがあって、実高1500m近い標高差だった。

秋には茨ヶ岳へ大笠山からチャレンジしてみたいと思っている。

(高橋市 山田 明)

7月下旬、北アルプスの槍ヶ岳へ登った。

年齢も体力から考えて、これまでは例の名山にすぎなかったのだから、昨年同様(槍ヶ岳)登った時、槍ヶ岳より厳しかったと思った。槍を耳にして、ひよっとすれば自分にも登れるだろうと思った。しかし、登り下りともに実に厳しいものだった。両腕がこぼれ、下り下り、山は静寂の上り降

りはもちろん、トイレすら手漕に頼らねばならないありさまで、そうした状態が二、三日も続いた。けれども、そうした苦労は十分に報いられた。登山中、梶尾河原や梶尾岩にて槍の穂先をほつきりと遊歩できたし、次の日も登山口時に大槍の姿が見え出してから、槍が、槍を眺めながら登り続けられた。そしてその日のうちに頂上へ立った。

翌日、近來にないすばらしさと山荘従業員もさういふほどの、御米光を浴びてから再登頂した。雲一つ浮かんでいない四天下に360度の大展望を堪能することができた。眼下の山荘からのびている縦走路の先に穂先連峰がくっきりと眺められ、終生忘れられない風景だ。

帰途、松本駅のホテルで、登山妻の女性と入館に出会った。彼女たちは同日同時刻に常盤館に登っていて槍ヶ岳を眺めていたと、奇しくも槍と記念の山頂に立つてお見合いをしていたわね、と、う彼女たちに、爽やかな印象を残しての幕切れだった。

(敦化市 東谷 忠)

ハイカーの宿・池の平温泉  
ナガサキロッジ  
百名山を二つ登れる小小屋  
黒沢池ヒュッヂ

〒919-1310 新潟県中  
頸城郡妙高町原町の平温泉  
0255-86-3261

林道屋敷入浴が歓迎  
10名以上マイクロボスで送迎  
箱根仙石原温泉  
箱根 島 館

〒250-0631 東京都足  
柄下郡箱根町仙石原1339  
0460-904-9041

四季織りなす無敵高原のハイク  
上高地・乗鞍岳へ。冬はスキー  
けやき道りと味の宿・日御草  
温泉旅館 けやき山荘

〒990-1500  
長野県上野原市乗鞍高原  
0263-93-2555

さわやか信州  
露天風呂 山吹の湯  
湯田中温泉(穂波)

日野 屋 旅館  
〒381-0400 長野県下  
高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波  
0269-33-3578

標高2000m以上の温泉  
湯の丸温泉 自然派森林  
ハイキングにXOスキー

高峰 温泉  
〒364-0000  
長野県小笠原市高峰温泉  
0267-25-2000

ハイキングに、スキーに、  
本谷温泉 石の湯ロッジ  
バス 湯の湯温泉バス  
0269-342242  
東京都本社・東京都新宿区新宿9  
-2015(新丸ビル2F)  
湯スポートサービス  
03-3334-0211

標高百八十七休「観音堂」  
ホテル  
白馬プランシエ  
〒399-9300  
長野県北安曇郡白馬村いわたけ  
0261-72-4332

8月2日、四年ぶりに真夏の伊吹山頂で、花を遊覧した。  
あたり一面に咲くシモツケソウ・クガイソウ・メタカラコウ等の花々は、やはりすごい。  
尾元に目を移すと、イワアカバナ・キヌタソウ・クルマバナ・クサフジ等々が咲いていて、興味は尽きない。

今回、初めて、キバナレンリソウを見つけたのも嬉しかった。ただ、残念だったのは、団体客のマナーの悪さで、洪音をつくってしまつたのがないとしても、目の前で年配の男性がゴミを捨てたのには驚いた。後に細く女性たちも拾おうとしないので拾って駐車場まで待っていたが、ほんとうに情なかつた。

もう一つ気になったのは、山頂駐車場での車のアイドリングで、特に大型バスの排気はひどい。窓を開ければ涼しいはずだが、山に来てまでエアコンを入れ続けたいと我慢できないのだろう。花には大満足だったが、人には大いに不満の山行だった。  
(松阪市 森木伸彦)

歩き」が深い意味を持っているということも教えられた。

たまたま、現在の私は健康面での心配はさほどないが、故郷に独り暮らしお母のことは気がかりで、近い将来、山歩きも中断せざるを得ない時が来るのかもしれない。その時にも、私の人生の中で「山歩き」の占める位置は、きつと変わらないと思う。

(各務原市 鷲見守應)

平成13年8月5日、大峰山系の釈迦ヶ岳に日帰り登山に出かけた。車で片道5時間、登り3時間、くだり2時間、総計10時間を要したが、前泊なしで釈迦ヶ岳に登れるのはありがたい。当日は天気もよく、すばらしい景色が満喫でき、シカにも出会えた。なほ、旭橋から奥古野登山所に向かうと、トイレのある休憩所があり、便利である。

市販のガイドブックには、この先の林道の墮落状況についての情報が無いので、「一般乗用車で大丈夫かどうか不安であった。実際に走ってみると、発車所を過ぎて、しばらくは舗装されているが、途中から未舗装となり、砂利・小石

久しぶりに、峰山山頂原野鳥保護総合センター跡へ出かける。跡地の入口にゲートがあり、ガードマンが常駐しているのに出会い、余りの変わりようにあせんとする。

40数年前、足繁く通った高原にレンクセンターが出現、とまどいながらも時代の流れとして受け入れ利用もした。その建物が一部を残し、金網で囲まれているのはいくつもない寂しさで、ゴーストタウンにも見えた。

関西でも数少ない標高1000m以上の高原で、スキが波打つ秋は特に魅力的であった。40年という時代が高原の姿を変えてしまった。周囲に植林が進み、草地やササ地に雑草が生え大きくなり、高原のイメージに欠けるようになったのである。建物を建てるのはいか、高原のイメージで若者やハイカーを山上へ誘うために、高原を放置してしまつたら来るはずがない。この跡地に、大河内町が建物をつくり再開すると聞く。立派な建物や遊歩道よりも、スキの原やササ地を再生し、高原を縦横に往来できる小道の「峰山高原」であってほしい。

新しい建物が出来て壊れるのではなく、地球でも峰山高原の再生を続けることが、再開が成功するか、再び泡と消えるかの分かれ道であろう。

(福徳市 須藤尚 謹)

例登山行のリーダーを始めて6年になる。この間、多くの方々との出会いがあったが、歳月を重ねるうちに、参加される方々の顔おれはすっかり変わってきた。例登山行のような集約的登山というものを「卒業」し、個人で新しい山歩きのスタイルへと進まれた方もあるだろう。

けれども、なかには様々な事情により山歩きを中断した方もおられるようだ。「事情」の多くは、「自身やご家族の「老い」であったり、「病い」であったり、人生の大きな起伏に直面してのことだと思われる。そして、コンスタントに山を歩いている方であっても、そのために入知れず様々な努力を続けておられるようだ。

「たかが山歩き、されど山歩き」。新ハイの山行で多くの方々とお出逢い、私は様々な生き方を教えられ、また、それぞれの人生の中で「山

だらけで、藤石が所どころに見られる悪路となった。平坦だからいいようなものの、溝状にえぐれた部分や盛り上がりがあったり、車体の低いマイカーの底を直撃しないかとひやひやもので、コースを選びながら、ゆっくり走らせた。再び、難区間が現れたので、ほっとするが、しほらくすると、またもや悪路、やや、あきつめ加減で走ると、何と、再び舗装されているではないか。しかも、今度はかなり急な登り坂である。ここから釈迦ヶ岳登山口までは完全舗装で、登石さえ注意すれば大丈夫であった。

結局、「二ヶ所の未舗装区間があった。彼前には手間がかかることだろうが、この二ヶ所が完全舗装されれば、釈迦ヶ岳登山はもっと便利になるだろう。

さて、話はがらりと変わるが、麻村八丁で有名な「ダンノ峠」が、国土地理院の地形図にはずつと「ダンノウ峠」となっていること、進利峠を管える人も多いだろう。書物によれば「段ノ峠」とあるもので、この「ノ」が、「ノウ」になっているのをおかしいと考えるはずである。実際、京北町役場で

きくと、「ダンノ峠」で間違いないという。近畿地方測量部で確認してみると、京北町の地名調査には「ダンノウ峠」と記載されているとのことである。今まで、この記載についての訂正が行われていないために、ずつと、地形図と、それを利用して編集された市販地図類には「ダンノウ峠」一方、ガイドブック類には、「ダンノ峠」が使われるという奇妙な状態が継続している。国土地理院では、いずれ「ダンノ峠」に訂正するものと思つたが、どうしていつまでも放置されているのか理解に苦しむ。

ニューエスト「滋賀県都市地図」(原文社)の山名の訂正については、本誌59号のせせらぎでもふれたが、第4版(2001年3月)に残っている山名の誤りについて紹介しよう。

それは、近江町の「八九端(やくはた)山」である。じつは、この山名は、近江町役場の担当者によると、「兜塚(かぶと)山」の別称で、付近の山の総称なのだという。従って、都市地図に記載された「八九端山」は削除することが望ましい。「兜塚山」について

八ヶ岳北峰主の中心地  
59年秋新築完成済全館個室  
木の香気新鮮な養生大浴場  
オーレン小屋  
1泊2食付き 6000円  
4月末11月末日迄  
〒391-0213  
長野市中央2-720 小寺勇夫  
0266-721-2279

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー  
J沢野野崎、北八ヶ岳登山口まで  
で送迎します  
資料取寄  
プチホテル カナール  
〒391-0301  
長野市北山新築別荘原丸平55  
13の1  
0266-67-2258

日本百名山の宿  
信州戸隠山  
森の宿めるへん  
高梨山・黒部山登山口まで送迎  
クロカン・コースに案内  
〒381-1410  
長野県戸隠村越水ヶ原  
0266-2554-2081

日本唯一の女人禁制の山「大  
峯山」(百名山)の登山口  
新築の活女人コースもあり  
温泉・名水の里  
旅館 紀の国屋甚八  
1泊2食付 7,000円から  
〒638-0431  
奈良県宇陀郡大宇陀川  
074761410309

九州の鉄砲峠・日本百名山  
宮之洞に一番近い宿  
屋久島安房亭正口  
〒891-4311  
鹿児島県鹿嶋郡久野安房  
099741613021

御在所登山に  
愛知山楽会が歩きた  
山好き仲間が集う宿  
朝明茶屋  
山小屋 朝明茶屋  
〒510-1255  
三重県三郡郡野野町千草  
05933-93-17889

那珂山山麓の湯近くに百名山の大山  
100名山の茅ノ山・上野野山あり  
二百名山 那岐山のみもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-11307  
岡山県備前郡倉敷町高田  
0866813514154

本誌46号でガイドしたことがあ  
るが、山名についての考査が不十分であった。  
「貝塚遺蹟第四編」(貝塚氏  
研究会、1988年)の庄司定三  
氏と辻新太郎氏の論文によると、  
兜塚山(カブト山)は、多和田山

ともい、櫻井朝からは向山、本郷側からは西山、地元の近江町多和田では八ヶ岳山と呼ばれているという。周辺に集落がある低山の呼称の確証がいかに困難であるかを示す典型的なモデルケースといえよう。出版社には資料を提示した上で、いずれ改訂されることだろう。

「一五」〔滋賀県市地図〕の山名は、「びわ湖観光ガイドブック」(サンライズ、2001年)やゼンリンの道路地図に継承されており、旧版が少なからず影響を与えている。ホームページには「田中山・相模原山」が詳しく紹介されており、この山を「甲山」「かおと山」と呼ぶことのないようにしたい。誤った呼称はいったん印刷物になると、とんとん修正引きされて地獄になってしまう。困ったものである(本誌誌名を参照)。

美山町と京北町の境に「掛橋谷山」がある。山頂の北東、美山町側に「掛橋谷」があることからこの呼称が用いられているが、かつて、今西篤司氏によって、「掛橋谷山」という呼称に誤義が与えられたことがあった。今西氏は「カヤンダ」という呼称を採集して

いる。山頂の南東、京北町側に「カヤン谷」があることに由来している。従って、採集地の違いによるものであるが、調べてみると、「掛橋谷」という谷名に疑問を呈していたようである。というのは、今西氏は該当の谷を「ミノ谷」と呼んでいたようだ(全集巻417頁)。「一五」京北山レポート①には「シノ谷」とある。これらの食い違いは何によるものなのか。本当に「掛橋谷」でよいのだろうか、という疑問が頭をもたげてきた。

そこで、美山町役場に問い合わせ、地元の人に確認してもらった。その結果、大変興味深い事実が判明したのである。すなわち、掛橋谷山の北方の源流部から東南東方向に道の記された本流の谷は、小さな支谷をいくつも刻んでいる。カヤン谷との合流点の498m地点の北北東の支谷を「一番谷」、西隣が「二番谷」、順に西へ三番谷、四番谷が本流の北側に並び、少し奥で西南西方向の支谷が掛橋谷山の三角点方向に刻まれ西北西に突き上げているが、これを一番谷と呼ぶ。これらの支谷と本流を総称して掛橋谷と呼んで

いるというのである。これは、私的な解釈かもしれないが、「ミノ谷」は三番谷(三ノ谷)のことかもしれないし、「シノ谷」は四番谷(四ノ谷)を指すのかもしれない。今となっては確認できないことかもしれないけれど、これらは地名採集記録における困難さがかかわる。

地形図には記載された標村八丁付近の山名は「大袋谷山・ハナノ木段山・鴨瀬谷山・ソトバ山・湯槽山」となっている。ハナノ谷段山とハナノ木段谷山は誤訳である。美山町発行の地図ではハナノ谷段山になっているが、2万5千分の1の地形図の初期の誤りをそのまま訂正せずに複製したもので、鶴巻谷山・夜櫻坂が残存していることが旧版地形図であることを証明している。従って、武内正「日本山名総覧」の照注にわざわざ記してあるが、訂正の必要はない。江崎山という一個人の造語は用いるべきではなく、ユブネ山は鴨瀬の初めから用いられてきた呼称である。現地では鴨瀬谷と芦谷が離れた位置にあることから、鴨瀬谷山が本来は正しいと思うが、地元の「京北町誌」(昭和50年)

に採用された「鴨瀬谷山」が一般に用いられている。ソトバは「卒塔婆(そとば)」のはずだが、ソトバ峰から採用されたものである。「京北町誌」には、本文に「卒止(山)」とあるが、地図には「ソトバ山」とある。卒塔婆山といった用字も散見する。漢字は用いずカタカナとするのが正解だろう。

最後に、本誌31号の「中津火山」についてふれておこう。「中津合山」が正しいとする文献があるが、「滋賀県市史(上)」(昭和51年)に中津火山とあり、角川地名辞典の滋賀市の小字に「津灰」があることから、内田氏の主張どおり、中津火山が妥当と考えられる。「日本分県地名総覧」(人文社、昭和38・50年版)の京都府全区は山名が詳細で、ハナノ木段山や中津火山も載っている。ただし、裏付けのとれない山名も散見する。いずれ、あらためて、山名の整理を試みたいと考えている。

(豊田川市 柴田昭彦)

## 山行計画 (11・12月)

ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」とは特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先にお断りください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「利用」のほかに参加者種別その他の資料代金等をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず事前に連絡してください。休日の悪い日、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の突発に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日増りの場合は200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上保険会社(契約))

死亡・後遺障害保険金 1,000万円  
入院保険金 50,000円  
通院保険金 25,000円

保険の対象は集合時から解散時までの事故が起きた場合は解散までには申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・木爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢・岩・氷登登山を目的とした山行。④宿泊場所内の事故。⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 山行申し込み書                     |  |
| 山行名 (正確に記入すること)             |  |
| 期日                          |  |
| 住所                          |  |
| 氏名                          |  |
| 会員番号<br>(会員でない方は会員外と記入)     |  |
| 電話番号                        |  |
| 生年月日                        |  |
| 緊急時の連絡先 TEL<br>(山行中の連絡先を記入) |  |

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」までを記入してください。

鈴鹿を歩く130

海池岳(飯沼向き)

期日 11月3日(日) 日帰り

集合 御池林道小文谷林道分岐

広場8時00分

コース 分岐広場(車)ゴロ谷山

合・伊勢院・御池の池・

丸池・風池・空助の池・

南津・奥ノ池・十字泉根

1ゴロ谷山合(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「霧仙・伊吹・

藤原」

係 昭野明 ○山田謙三

申込み 010-0121

城陽市幸田大野10の10

新ハイキング関西まで

\*マイカー山行

ゴロ谷山合から伊勢院様に取

つき、広大な御池岳をほぼ踏破。

そして下原根のブナの紅葉を愛し

むロングコース。雨天中止

鈴鹿百山23

冷川岳・土倉岳(飯沼向き)

期日 11月3日(日) 日帰り

集合 11時45分(原野8時25分)

三枝鉄道西野尻駅8時45

分

コース 各集合駅(車)コケル

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みをください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかわからないので、記載すべき事項はあきらなくご記入ください。

申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込みの方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、当日登山歩みに親しんでおられることを前提としています。

(初心者用) やさしいコース  
(初級用) どなたでも歩けます  
(一般用) ハイキングの標準コース  
(中級用) かなり経験者のコース  
(やや後編用) (後編用) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

谷登山口―長命水―カタクリ峠―冷川―古瀬峠―直の谷―土倉谷出合―土倉峠―御他所東の平―カタクリ峠―長命水―コダリミ谷登山口(※集合駅(解散17時頃))

費用 交通費各日・車代500円・10000円

地図 ①山田明男 ○高尾秀彦 〒5031-0535 海津郡海津町松山62の19 山田明男まで

申込み \*定員25名 \*マイカーの方はその旨記載ください \*集合駅を明記ください

期日 11月4日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下6時30分/②近鉄高野神宮駅10時25分

コース 吉野神宮駅(タクシー)―地蔵峠―鳳閣寺―百目岳―西行滝―青塚ヶ峰―高

谷登山口―長命水―カタクリ峠―冷川―古瀬峠―直の谷―土倉谷出合―土倉峠―御他所東の平―カタクリ峠―長命水―コダリミ谷登山口(※集合駅(解散17時頃))

費用 交通費各日・車代500円・10000円

地図 ①山田明男 ○高尾秀彦 〒5031-0535 海津郡海津町松山62の19 山田明男まで

申込み \*定員25名 \*マイカーの方はその旨記載ください \*集合駅を明記ください

期日 11月4日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下6時30分/②近鉄高野神宮駅10時25分

コース 吉野神宮駅(タクシー)―地蔵峠―鳳閣寺―百目岳―西行滝―青塚ヶ峰―高

城山―蔵王堂―吉野駅(解散16時頃)

費用 約2000円(名古屋から)

地図 ①方々―吉野山―初子―利川―中戸

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 11月8日(日) 日帰り

集合 京阪山崎駅乗換バス乗り場7時35分(7時45分) 伊藤新道―白澤山―長滝―鉄線道―社谷―クワトノハゲ―JR志賀駅(解散16時30分頃)

費用 約1600円(京都から)

地図 昭文社「比叡山系」

申込み ○手井恒夫 ○川上公望

城山―蔵王堂―吉野駅(解散16時頃)

費用 約2000円(名古屋から)

地図 ①方々―吉野山―初子―利川―中戸

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 11月8日(日) 日帰り

集合 京阪山崎駅乗換バス乗り場7時35分(7時45分) 伊藤新道―白澤山―長滝―鉄線道―社谷―クワトノハゲ―JR志賀駅(解散16時30分頃)

費用 約1600円(京都から)

地図 昭文社「比叡山系」

申込み ○手井恒夫 ○川上公望

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

吉野山は遊歩ありません。長池あたりは静かなたすまいで、紅葉が美しいでしょう。雨天中止

自然観察山行

期日 11月10日(日) 1泊2日

集合 ①10日 JR大垣駅8時40分

コース ①10日 大垣駅(バス) 杉谷林道終点登山口―高尾山―前野峠―小津権現山―前野峠―高尾山―林道登山口(バス) 小津権現山(泊)

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 ①10日 JR大垣駅8時40分

コース ①10日 大垣駅(バス) 杉谷林道終点登山口―高尾山―前野峠―小津権現山―前野峠―高尾山―林道登山口(バス) 小津権現山(泊)

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

吉野山は遊歩ありません。長池あたりは静かなたすまいで、紅葉が美しいでしょう。雨天中止

自然観察山行

期日 11月10日(日) 1泊2日

集合 ①10日 JR大垣駅8時40分

コース ①10日 大垣駅(バス) 杉谷林道終点登山口―高尾山―前野峠―小津権現山―前野峠―高尾山―林道登山口(バス) 小津権現山(泊)

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 ①10日 JR大垣駅8時40分

コース ①10日 大垣駅(バス) 杉谷林道終点登山口―高尾山―前野峠―小津権現山―前野峠―高尾山―林道登山口(バス) 小津権現山(泊)

申込み 〒504-0828 各務原市藤原村雨町1の19の5 鷺見守康まで \*定員25名(10月26日まで)

小津三山の二山を歩きます。両山とも急登の前山からやせ尾根を越えて本峰を仰ぎます。雨天法行(コース変更あり)

三重の山

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 「道の駅・奥伊勢おたのしみ」(多気郡大台町・国道42号線沿い) 8時00分 道の駅(車) 柴谷バス停

コース 林道終点―藤原口―古丸山―萩林小峠―林道終点―柴谷バス停(車) 道の駅(解散)

費用 1500円

地図 ①丸山―萩林小峠―林道終点―柴谷バス停(車) 道の駅(解散)

申込み 〒519-0311 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで

申込み 〒504-0828 各務原市藤原村雨町1の19の5 鷺見守康まで \*定員25名(10月26日まで)

小津三山の二山を歩きます。両山とも急登の前山からやせ尾根を越えて本峰を仰ぎます。雨天法行(コース変更あり)

三重の山

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 「道の駅・奥伊勢おたのしみ」(多気郡大台町・国道42号線沿い) 8時00分 道の駅(車) 柴谷バス停

コース 林道終点―藤原口―古丸山―萩林小峠―林道終点―柴谷バス停(車) 道の駅(解散)

費用 1500円

地図 ①丸山―萩林小峠―林道終点―柴谷バス停(車) 道の駅(解散)

申込み 〒519-0311 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで

★マイカー山行

都合によりコース変更があります。雨天法行

近畿自然歩道

山陽路コースを歩く

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 JR三ノ宮駅東口神姫バス待合所前8時20分

コース 三ノ宮駅(バス) 加那路口―小川大橋―細川町公民館―竹中半兵衛の墓―舟渡の足跡―神戸電鉄大物駅(解散16時頃)

費用 約2000円(大阪から)

申込み 〒671-1102 姫路市余部区上余部50の2の11 須藤隆 軒まで

雨天法行 秋の甲山を歩きます。

三重・経ヶ峰(一般向き)

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下7時45分/②近鉄海老名駅7時45分

コース 津新町駅(バス) 経ヶ峰―口―地蔵峠―経ヶ峰登山

近畿自然歩道

山陽路コースを歩く

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 JR三ノ宮駅東口神姫バス待合所前8時20分

コース 三ノ宮駅(バス) 加那路口―小川大橋―細川町公民館―竹中半兵衛の墓―舟渡の足跡―神戸電鉄大物駅(解散16時頃)

費用 約2000円(大阪から)

申込み 〒671-1102 姫路市余部区上余部50の2の11 須藤隆 軒まで

雨天法行 秋の甲山を歩きます。

三重・経ヶ峰(一般向き)

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下7時45分/②近鉄海老名駅7時45分

コース 津新町駅(バス) 経ヶ峰―口―地蔵峠―経ヶ峰登山

19日

口―反町峠―経ヶ峰―穴倉バス停(バス) 津新町駅(解散16時50分)

費用 約3000円(名古屋から)

地図 ①2方々―津田部・椋本・平松―佐田

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 11月14日(日) 日帰り

集合 大原寺バス停8時00分

コース 大原寺―山崎峠―町田家―山崎峠―町田家―山崎峠―町田家―山崎峠

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 11月14日(日) 日帰り

集合 大原寺バス停8時00分

コース 大原寺―山崎峠―町田家―山崎峠―町田家―山崎峠

口―反町峠―経ヶ峰―穴倉バス停(バス) 津新町駅(解散16時50分)

費用 約3000円(名古屋から)

地図 ①2方々―津田部・椋本・平松―佐田

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 11月14日(日) 日帰り

集合 大原寺バス停8時00分

コース 大原寺―山崎峠―町田家―山崎峠―町田家―山崎峠

申込み 〒610-0121 城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 11月14日(日) 日帰り

集合 大原寺バス停8時00分

コース 大原寺―山崎峠―町田家―山崎峠―町田家―山崎峠

自然観察山行

費用 約1200円(京都駅から)

期日 11月15日(日) 日帰り

集合 近鉄大和上市駅(奈良交通バスのりば) 8時50分

コース 上市駅(バス) 大滝―船の海―高尾山―西行滝―高尾山―近鉄高野駅

費用 約3000円(前掲野原)

期日 11月15日(日) 日帰り

集合 近鉄大和上市駅(奈良交通バスのりば) 8時50分

コース 上市駅(バス) 大滝―船の海―高尾山―西行滝―高尾山―近鉄高野駅

費用 約1200円(京都駅から)

期日 11月15日(日) 日帰り

集合 近鉄大和上市駅(奈良交通バスのりば) 8時50分

コース 上市駅(バス) 大滝―船の海―高尾山―西行滝―高尾山―近鉄高野駅

費用 約3000円(前掲野原)

期日 11月15日(日) 日帰り

集合 近鉄大和上市駅(奈良交通バスのりば) 8時50分

コース 上市駅(バス) 大滝―船の海―高尾山―西行滝―高尾山―近鉄高野駅

自然観察山行

期日 11月17日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分

コース 大垣駅(バス) 折越峠―送電鉄路―大木山―折越峠(バス) 大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅からバス、資料代等)

地図 ①2方々―下大須・能郷白山

申込み 〒504-0828 各務原市藤原村雨町1の19の5 鷺見守康まで \*定員25名

期日 11月18日(日) 日帰り

集合 JR西尾右衛門駅前出口

コース 西尾右衛門駅前出口(バス) 米子道久世インター(バス) ビジターセンター―山―山―ビジターセンター―真賀―回廊(バス)

期日 11月17日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分

コース 大垣駅(バス) 折越峠―送電鉄路―大木山―折越峠(バス) 大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅からバス、資料代等)

地図 ①2方々―下大須・能郷白山

申込み 〒504-0828 各務原市藤原村雨町1の19の5 鷺見守康まで \*定員25名

期日 11月18日(日) 日帰り

集合 JR西尾右衛門駅前出口

コース 西尾右衛門駅前出口(バス) 米子道久世インター(バス) ビジターセンター―山―山―ビジターセンター―真賀―回廊(バス)

湯島インター(バス)西

湯島インター(バス)西
明石駅(解散)
費用 約6000円(バス代等)
地図 2万5千 徳島・勝山
係 ①井上 保
申込み 〒677-40057
明石市大久保町高丘3の
1・20の1階 井上 保まで
\*定員2名(會員に限る)

土島を歩く

土島を歩く
村井から地蔵峠・蛇谷ヶ峰
(一般向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR徳島駅西口のりば8
時35分(8時44分発) 朽
木学校前(行車車または
タクシー)
コース 堅田駅(バスまたはタク
シー) 村井 広城林道か
ら分岐する林道入口 地
蔵峠(地蔵山行徳) ヨ
コタニ峠 波ノ岳 蛇
谷ヶ峰 猪ノ馬場 桑
野(バス) 勝山駅(解散)
費用 約5000円(バスの場
合)

合・京都から

合・京都から
地図 2万5千 北小松
系 聖文社「北良山系」
② 藤 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
本誌化号参照。雨天中止

御池の池を巡る

御池の池を巡る
自然探険山行14(中級向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時25分/
三岐鉄道西野尻駅8時45
分
コース 各集合駅(車)コグルミ
谷登山口ー長命水ーカク
クリ峠ー幻池ー丸山ーホ
タンブチー楽助の池ー池
池ー逆池ーカククリ峠ー
長命水ーコグルミ谷登山
口(車)各集合駅(解散)
費用 交通費(車) 車代500
円・1000円
地図 2万5千 藤立
係 ①山田明男 ②高原孝彦
申込み 〒503-0535
海津市南郷町松山6の19
山田明男まで
\*マイカーの方はその旨

記載ください

記載ください
\*集合駅を明記ください
晩秋の池を巡ります。サルナシ
が残っていれば美味しく食べられ
るでしょう。雨天中止
東条・高取山からハツ尾山
(一般向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口7時30分 ②JR高松
駅9時40分
コース 高取山ふれあい公園ー高
取山ーハツ尾山ー林道ー
滝の宮(バス) 河瀬駅
(解散15時40分)
費用 約3400円(名古屋か
ら)
地図 2万5千 高取山・大瀧
神社
係 ①小出良香
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
\*集合駅を明記ください
ハツ尾山は湖東平野の一角にあ
り、鈴鹿山脈がその背後にそびえ
ている。雨天中止

地図読み山行48

地図読み山行48
紀伊高野・星石山(一般向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 南海船作駅9時10分
コース 船作駅ー大内川ー星石
山ー大船山ー井関峠ー吉
年の森展望台ーJR紀伊
駅(解散)
費用 約1800円(大阪から)
地図 2万5千 渡船
係 ①塚元 彦 ②中村 登
申込み 〒536-0008
大阪市東区関白4の14
の9の301 塚元 彦まで
\*定員30名
新ハイランド支部合同。今年最後
の地形図とコンパスの勉強をかた
た山行で、紅葉を求めて紀伊高野
を歩きます。星石山は一等三角点
の山で、下山道の井関峠から青年
の森は好展望のコースです。
\*指定の地図とシルバード型コン
パスを持参ください。雨天中止

鈴鹿を歩く131

鈴鹿を歩く131
西之岳(健脚向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 国道477号線大杉原谷
出合広場8時00分
コース 出合広場(車) 武平峠ー

沢谷峠P967ーイイ
ナのコバー東南を岳一雨
乞岳ー雨乞岳P966ー
大船(只合)広場(解散)
費用 交通費(車)
地図 昭文社「即花所・鎌
ヶ
岳」
係 ①宮野 明 ②山田三
中込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
\*マイカー山行

武家峠の西、茨谷から取りつき、
郡境尾根を南に登り、南尾根
を大船谷にくぐる特別ルート
(40号引50ページ参照)。
雨天中止

吉野・竜門ヶ岳(一般向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上駅10時55分
コース 大和上駅(バス) 山口
神社ー竜門ヶ岳ー三津峠
ー大峠 針道ー不動滝
探検(解散16時45分)
費用 約2320円(阿倍野駅
から)
地図 2万5千 吉野山
係 ①西上利和 ②中村英雄
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
古人の足跡をたどり、深まりゆ
く秋の山旅にふさわしいのんびり
歩きが楽しめます。雨天中止

室生の山
系 ①住友 山見山
(一般向き)
期日 11月20日(日) 日帰り
集合 近鉄名張駅北口8時30分
コース 名張駅(バス) 宮前村長
野ー屏風岩ー住友山 國
見山ークマタワ峠ー落合
橋ー室野川口ー室生寺前
(バス) 近鉄室生口大野
駅(解散16時00分)
費用 約3000円(大和まで)
地図 2万5千 大和 大野
係 ①単水 治 ②川村 和佳子
申込み 〒510-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで

紅雲の美しい高野山を身近に
眺め、室生火山のつづくたけ伏
館産の屏風岩から室生寺へと歩き
ます。雨天中止

石田川ダム広場(園遊)
03号線南川口より北進
8時30分
コース 石田川ダム広場ー赤岩岳
ー武家ヶ岳ー赤岩岳
(往復コース) ー石田川
ダム広場(解散)
費用 交通費(車)
地図 2万5千 熊川
係 ①谷 昭 ②藤部 純
中込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
\*マイカー山行

登る人もほとんどいない忘れら
れた山です。山頂からは湖北の展
望よし。やぶ過ぎあります。
雨天中止
\*會員に限る

ひと足早い忘年会
播磨・笠杉山と段ヶ峰と一山
(一般向き)
期日 11月24日(土) 25日(日)
1泊2日
集合 ①24日 JR姫路駅南口
9時30分
②25日 飯塚駅(バス)
上干町ー笠杉山ー大北ー
段ヶ峰(バス) 福知沢谷

休養センター(夕食・入
浴) 一三方支所(泊)
(25日) 支所(バス) 阿
合和集落 一山一林道 一
阿合利集落(バス) 総路
駅(解散17時頃)
費用 約10000円(1泊3
食・会費・交通費等)
装備 シュラフ・会席・ジャン
パー・洗面セットなど
地図 2万5千 吉水湖・神十
川
係 ①須藤 樹
申込み 〒671-1262
播磨市余部区上余部50の
2の11 須藤 樹まで
\*定員24名

2日間で冬の気配の10000坪
峰を三座登ります。夜はワイワイ
ガヤガヤ言いながら一年を振り返
りましょう。雨天中止

高野・香澤溪から赤目四十八滝
(一般向き)
期日 11月25日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅7時25分
②近鉄大船場駅9時50分
コース 名古屋駅(バス) 落合ー小
巻峠ー出合広場ー吉野山
不動滝ー赤目滝口(バ

ス) 赤白川駅(解放15時20分頃)  
費用 約4400円(名古屋から)

地図 2万5千1大和野・俱留山

係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

紅葉を見ながら、滝の連続する赤白溪谷を歩く。雨天中止  
\*集合駅を明記ください

鈴鹿・御池岳(中級向き)  
期日 11月25日(日) 日帰り  
集合 御池林道プロ谷止合8時

コース プロ谷―御池岳―伊勢尾  
―プロ谷(解散)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千1藤立  
係 ◎山本久雄  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*マイカーの方はその旨記載ください  
宇賀溪の滝を巡って砂山へ登り、水田キャンプ場で焼き肉の忘年会を行います。会費は無料。差し入れ歓迎。雨天中止

行。状況によってコースを適当に変更して歩きます。地図とコンパス必携。雨天中止

北山ちよっと歩き27  
北沢・より沢から深山

期日 11月28日(日) 日帰り  
集合 JR山崎線園部駅8時45分

コース 園部駅(バス)より深―酒天湖―深山―通天湖―より沢(バス) 園部駅(解散16時30分頃)

費用 約3000円(京都から)  
地図 昭文社『北摂の山々』  
係 ◎山本繁二  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

晩秋のより沢遊歩道を歩き、すばらしい展望の深山に登る。5月中止になったコース。雨天中止

鈴鹿を歩く132  
黒尾山・藤戸山(健脚向き)  
期日 12月2日(日) 日帰り  
集合 園部421号線杉原尾のろせ酒店前8時00分

合点場―中河原―鳥帽子―岩尾根―黒尾山―藤戸山―杉原尾(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社『御在所岳・鎌ヶ岳』

係 ◎岩野 明 ○山田基三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

佐目小谷の中河原から鳥帽子の尾根に取りつき、黒尾山の南東のピークに突き上げ、黒尾山から藤戸山へくだる特別ルート。雨天中止

奈良、高円山から若草山(一般向き)  
期日 12月2日(日) 日帰り  
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時30分/②近鉄奈良駅東出口9時55分

コース 奈良駅(バス)高相町―「大」の火床―高円山―春日山(若草山)―若草山―奈良公園―近鉄奈良駅(解散15時40分頃)

地図 2万5千1奈良・柳生・大和郡山・大和白山  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

奈良大文字の火床や春日山の石仏などを見ながら散策コースです。雨天中止

鈴鹿百山24  
忘年山行・砂山(健脚向き)  
期日 12月2日(日) 日帰り  
集合 JR関西線園部駅8時25分/三城鉄道大塚駅9時00分

コース 各集合駅(車)宇賀溪社車庫―林道―五箇滝―長尾滝―砂山―水田キャンプ場(解散15時頃)

費用 交通費各自・車代5000円・10000円  
\*キャンプ場使用料は別途徴収  
地図 2万5千1電ヶ岳  
係 ◎山田明男 ○高尾孝彦  
申込み 〒503-0535  
海津郡南濃町松山624の19  
山田明男まで

自然観察山行

美濃・虎子山(一般向き)  
期日 12月2日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分  
コース 大垣駅(バス)国見峠―虎子山―国見峠―国見峠―教如上人岩窟―林道(バス)大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣からバス・資料代等)  
地図 2万5千1美濃

係 ◎鷲見孝康  
申込み 〒504-0828  
各務原市藤原村能町1の19の5 鷲見孝康まで

伊吹北尾根の北に続く山。以前は道のないやぶ山でした。国見岳まで北尾根も歩きます。小雨決行(コース変更あり)

平日水曜ハイク47  
京都トレイル・京見峠から滝渡

期日 12月5日(日) 日帰り  
集合 地下鉄北大阪駅バスターミナル(地下2階)「E」のりばを左向き7時50分

コース 北大阪バスターミナル(バス)源光庵―京見峠

上ノ水峠―沢の池―高峯―滝金鈴橋(解散15時30分頃・約13+)

費用 約1000円(会費含む)  
地図 昭文社『京都北山』

係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
申込み 〒569-1133  
高槻市川西町1の18の20  
湯浅次男まで

今回で京トレ北山コースは終わります。清滝で解散後、希望者だけ忘年会を繰り行います。雨天決行

近畿百名山に登る(第33回) 南濃・養老山(一般向き)  
期日 12月8日(日) 日帰り  
集合 京都駅八条口近鉄改札口付近8時10分

コース 京都駅(バス)関ヶ原インター(バス)養老公園駐車場―養老の滝―三方山―小倉山展望台―養老山(往時)養老公園(バス)京都駅(解散18時30分頃)

費用 約5000円(バス代)  
地図 2万5千1養老  
係 ◎村田智哉  
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10 村田智哉まで

\*マイカーの方は10時までに養老公園へ。ハガキに明記ください

展望のよい小倉山展望台を経由して養老山に登ります。小雨決行

週末ハイク37 京都西山 大岡道からボンボン山(一般向き)  
期日 12月8日(日) 日帰り  
集合 阪急高槻市駅東口8時50分

コース 高槻市駅―藤手橋―大岡道―尺代―キロボチ峠―釈迦岳―ボンボン山―善峰寺―小塚―光明寺(解散)―阪急高槻市駅(バス便あり) JR高槻駅(バス便あり)

費用 1000円(保険代)  
地図 昭文社『京都西山』  
係 ◎許野東彦 ○加藤元彦  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

淀川の西に連なる初冬の甲山歩き。大岡道から「おおさか環状自然歩道」を通ります。JR長岡京

駅前まで半年会を計画していますので有志の方は参加ください。\*参加予定の方は申込みハガキに必ず「定例会参加希望」と記入ください。小雨決行

奈良・額丹岳と戒壇山

期日 12月11日(日) 日帰り  
集合 近鉄奈良駅南口9時20分  
コース 換原駅(バス)天満台-赤瀬-額丹岳-反対坂-戒壇峰-戒壇山-戒壇寺-山部赤人の墓-大満谷-バス等(バス)換原駅(解散15時頃)

費用 約2000円(大阪から)  
地図 2万5千:初瀬  
係 ①根本慶治 ②西川和佳子  
申込み 610-0121  
戒壇寺-山部赤人の墓-大満谷-バス等(バス)換原駅(解散15時頃)

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く(一般向き)

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行

給座を歩く133 定例会山行  
期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 国道421号線神崎橋広場8時30分  
コース 広野(車)神崎川林道終点-原野山-西園寺林道終点(昼食3年会解散)

費用 交通費各目  
\*忘年会の料理・飲み物は各自持ち  
食をとり、ゆるやかな二ノ瀬ユリコースを歩きます。雨天中止

自然観察山行  
期日 12月21日(土) 23日(日)  
集合 前夜祭1泊2日  
コース ①21日 使良駅(バス) ②22日 天城峠-八丁池-万三郎岳-万三郎岳-天城山頂ゴルフ場(バス) ③23日 伊豆長岡温泉-伊豆長岡温泉(車)

費用 約24000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 昭文社「伊豆」  
申込み 504-10828  
各務原市藤原村南町の19の5 昭文社まで

北山ちよつと歩き28  
期日 12月20日(日) 日帰り  
集合 京阪出町柳駅京阪バスのりば7時20分  
コース 出町柳駅(バス)出合橋-渡谷峠-貴船山-ノボリ-夜泣峠-観音堂-神楽(解散15時頃)

昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行

給座を歩く133 定例会山行  
期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 国道421号線神崎橋広場8時30分  
コース 広野(車)神崎川林道終点-原野山-西園寺林道終点(昼食3年会解散)

費用 交通費各目  
\*忘年会の料理・飲み物は各自持ち  
食をとり、ゆるやかな二ノ瀬ユリコースを歩きます。雨天中止

自然観察山行  
期日 12月21日(土) 23日(日)  
集合 前夜祭1泊2日  
コース ①21日 使良駅(バス) ②22日 天城峠-八丁池-万三郎岳-万三郎岳-天城山頂ゴルフ場(バス) ③23日 伊豆長岡温泉-伊豆長岡温泉(車)

費用 約24000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 昭文社「伊豆」  
申込み 504-10828  
各務原市藤原村南町の19の5 昭文社まで

北山ちよつと歩き28  
期日 12月20日(日) 日帰り  
集合 京阪出町柳駅京阪バスのりば7時20分  
コース 出町柳駅(バス)出合橋-渡谷峠-貴船山-ノボリ-夜泣峠-観音堂-神楽(解散15時頃)

費用 約10000円(京都から)  
地図 昭文社「京都北山」  
申込み 610-0121  
戒壇寺-山部赤人の墓-大満谷-バス等(バス)換原駅(解散15時頃)

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く(一般向き)

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行

昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行

給座を歩く133 定例会山行  
期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 国道421号線神崎橋広場8時30分  
コース 広野(車)神崎川林道終点-原野山-西園寺林道終点(昼食3年会解散)

費用 交通費各目  
\*忘年会の料理・飲み物は各自持ち  
食をとり、ゆるやかな二ノ瀬ユリコースを歩きます。雨天中止

自然観察山行  
期日 12月21日(土) 23日(日)  
集合 前夜祭1泊2日  
コース ①21日 使良駅(バス) ②22日 天城峠-八丁池-万三郎岳-万三郎岳-天城山頂ゴルフ場(バス) ③23日 伊豆長岡温泉-伊豆長岡温泉(車)

費用 約24000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 昭文社「伊豆」  
申込み 504-10828  
各務原市藤原村南町の19の5 昭文社まで

北山ちよつと歩き28  
期日 12月20日(日) 日帰り  
集合 京阪出町柳駅京阪バスのりば7時20分  
コース 出町柳駅(バス)出合橋-渡谷峠-貴船山-ノボリ-夜泣峠-観音堂-神楽(解散15時頃)

費用 約10000円(京都から)  
地図 昭文社「京都北山」  
申込み 610-0121  
戒壇寺-山部赤人の墓-大満谷-バス等(バス)換原駅(解散15時頃)

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く(一般向き)

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行

昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行

給座を歩く133 定例会山行  
期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 国道421号線神崎橋広場8時30分  
コース 広野(車)神崎川林道終点-原野山-西園寺林道終点(昼食3年会解散)

費用 交通費各目  
\*忘年会の料理・飲み物は各自持ち  
食をとり、ゆるやかな二ノ瀬ユリコースを歩きます。雨天中止

自然観察山行  
期日 12月21日(土) 23日(日)  
集合 前夜祭1泊2日  
コース ①21日 使良駅(バス) ②22日 天城峠-八丁池-万三郎岳-万三郎岳-天城山頂ゴルフ場(バス) ③23日 伊豆長岡温泉-伊豆長岡温泉(車)

費用 約24000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 昭文社「伊豆」  
申込み 504-10828  
各務原市藤原村南町の19の5 昭文社まで

北山ちよつと歩き28  
期日 12月20日(日) 日帰り  
集合 京阪出町柳駅京阪バスのりば7時20分  
コース 出町柳駅(バス)出合橋-渡谷峠-貴船山-ノボリ-夜泣峠-観音堂-神楽(解散15時頃)

費用 約10000円(京都から)  
地図 昭文社「京都北山」  
申込み 610-0121  
戒壇寺-山部赤人の墓-大満谷-バス等(バス)換原駅(解散15時頃)

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く(一般向き)

期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 JR奈良古市駅加生山線ホーム9時20分  
コース 加古川駅(電車)厄神駅-加古川ウオーキングセンター-鴨池-櫻井池-安楽寺-北山山一乗寺-北山山口バス停(解散16時頃)

費用 3000円(大阪から)  
係 ①須藤 剛  
申込み 671-1262  
姫路市会館区上条部50の2の11 須藤 剛まで  
初冬の山甲と湖畔を歩き、紅葉の残る西園33番札所一乗寺をゴールにします。小雨決行



城陽市寺田大群10の10  
村田智哉まで

初冬の一日、里山風景を見ながら  
遠くから登壇まで寒風を  
歩いて歩きました。林道が多  
いので、登山杖が便利でした。ウー  
キングシューズで参加ください。  
\* 灯籠必携、雨天中止

奈良・矢田兵隊 (一般向き)  
期日 12月29日(日) 日曜日  
集合 ①JR名古原駅中央改札  
口6時35分 ②JR法隆寺  
駅9時55分

コース 法隆寺駅→法隆寺→松尾  
寺→松尾山→矢田山→松  
ノ木峠→近鉄南生駒駅  
(解散15時30分)

費用 約2,000円(食費別)  
お使用  
地図 2万5千→信濃山  
係 ①小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 集合駅を明記ください  
法隆寺の五重塔や夢殿、中宮寺  
を見て、松尾寺から矢田丘陵を縦  
走します。雨天中止

山行報告  
(7・8月号)  
新ハイキング倶楽部

打見山から扇谷山・南比良峠  
(比良を歩く)

7月1日(日) くもり時々晴れ  
I 比良山行集合8・40→50→林道  
出合9・25→30→天狗杉10・27→  
クロトノハゲ10・47→11・10→木  
戸峠11・26→比良峠12・30(昼食)  
12・30→扇谷峠12・45→扇谷山13・  
00→荒川峠13・30→南比良峠13・  
45→深谷小塚14・35→J 比良駅  
15・45(解散)

コンドラで打見山まで行く予定  
が、連休のため志賀駅から歩いて  
登った。健脚前だったので、コ  
ンドラ利用の場合同じあまり変わ  
らないタイムでおられることができ  
た。

(参加者) 若林文夫 亀本廣治  
亀本秀子 中島 隆 妹尾公代  
川中 保 武部 剛 武部美美子  
青木一雄 木下照子 国見富美江  
入江武史 熊川 精 辻 一行子  
白根清子 伊合社司 ○宮下孝一

○南 別荘 ◎ 森 康夫 (計19名)

奈良・日振山  
7月1日(日) 晴れ  
近鉄橿原駅集合9・10→15(バス)  
字賀志9・50→青連寺10・45→55  
→日振山11・15→20→一合峠12・  
25(昼食) 13・00→上野野13・30  
→水分峠13・40→栗田野神社前  
14・45(バス) 扇原駅15・25(解  
散)

宇賀志でバスを降り、「ひばり  
山登壇」の石標を見て青連寺に行  
く。中樽越の石標等は隠された。  
寺からは山道になり、日振山  
を登って上野野まではいいコース  
だった。

(参加者) 亀本秀子 岸 すみ子  
大平 漸 大平敦子 東 美智子  
上田久子 三上 勇 森 美智子  
真田明子 宇野弘幸 小原さゆ子  
多賀久子 福井清之 岡本美子  
石丸宏子 美村孝治 中尾美智子  
山根弘美 中島弘子 名倉マサ子  
渡辺美代子 四ノ宮陽子  
市野博文 前川和佳子 他々名  
○中村英雄 ◎ 小出良春 (計22名)  
朽木 百里ヶ岳  
7月1日(日) 晴れ

小入谷登山口集合9・00→05→  
シチケ峠10・22→主権峠10・32  
→百里ヶ岳11・00(昼食) 12・05  
→根菜坂峠12・53→13時13分  
00→28→根菜坂峠13・35→焼尾地  
蔵14・02→15→大倉谷林道14・41  
→小入谷15・00(解散)

出発時は小雨のなか、やがてカ  
スにおおわれた雑木林の幻想的な  
歩きとなった。871号峠のナナ  
カマドにおくられて根菜坂をくだ  
る。夏到来を告げるクモキリソウ  
にも会えた嬉しい一日だった。

(参加者) 小松志信 藤部 純  
緒方山子 小林 隆 加納正樹子  
山田明男 湯浅康夫 松上美代子  
岩本健一 岩本彰子 先古田文子  
夏山孝子 谷 守 ◎ 山本久雄  
(計14名)

三本杉から知世路山  
(京都北山歩き97)  
7月1日(日) くもりのち晴れ  
京阪出町柳駅集合8・30→40(バ  
ス) 大慈山口10・00→峰定寺10・  
35→45→三本杉11・10→15→林道  
小ナメラ峠12・13→知世路登山台  
12・15(昼食) 13・00→8771峠  
山頂13・10→知世路山三角点14・  
00→チセロ林道14・40→花巻交流

の森センター15・00(入浴) 16・  
00(バス) 出町柳駅17・40(解散)

見事な花背の三本杉を見上げ、  
最上層前された左支尾根を知世路山  
道へ登った。腰筋に堪えはきや  
かな風があり、涼しかった。古道  
をのんびり歩いて、交流の森セン  
ターで汗を流してバスに乗った。

(参加者) 國安紀彦 辻村幸裕  
松尾一郎 片山克博 片山智恵子  
藤村雅子 村野東彦 宮本真幸  
宮本悠子 村井寿和 川田洋子  
川西敬泰 藤野重治 渡辺通郎  
大谷宏子 藤野重治 渡辺通郎  
中野博香 木寺直子 中島日出男  
村上昭子 松本忠雄 柳川隆雄  
八江四子 酒井徳子 中村佳代子  
高橋正敏 藤野 幸 宮本智知代子  
高橋隆子 法田健男 小原さゆり  
藤野 幸 中川正敏 山田幸子  
荒木光雄 北川繁子 中西日大  
中西 昭 中西和子 中西大  
松原香穂 竹田英英 中西規彦  
中川光郎 ○ 尾花悠実  
◎ 村田智哉 (計47名)

集合9・10→15(バス) 観音峰登  
山口10・10→20→観音早11・05→  
10→鹿堂寺11・30(昼食) 12・25  
→観音峰12・55→13・05→三ツ塚  
13・30→45→法方峠14・25→種村  
ヶ岳登山口15・20→海川「紀の国  
屋敷」(バス)

①(8日) 晴れ時々くもり 洞川・  
旅館6・50→法方峠8・05→10→  
山上9・15→35→種村ヶ岳10・  
05→20→大日山10・40→50→山  
上11・15(昼食) 11・55→レンゲ  
辻12・30→35→遺跡大塚14・00→  
10→洞川・紀の国屋敷14・45  
(入浴) 16・25(タクシー) 下市  
口駅17・05(解散)

②(7日) 時々晴れ間ののぞく天  
気に、屋敷台の大日山から種村  
ヶ岳南面の展望を期待した  
が、残念ながら雲のなかつた。  
③(8日) 曇り時々晴れしたが、  
ギンパインツが咲き始めた種村ヶ  
岳やナ林のなかは涼しかった。種  
村ヶ岳山頂は雲のなかで展望はな  
かったが、大日山からは種村ヶ岳  
を見ることができた。オオヤマレ  
ンゲは鹿の食害のため花はわずか  
しか確認できなかった。

(参加者) 宮本真幸 中村野香  
小松志信 船越明 船越さよ子

秋田補師 岩根健司 小林 佳  
原 幸子 藤原忠男 森 美香子  
原 文子 木下照子 中尾美智子  
山縣隆美 三井敏一 瓜野利明  
山本野子 青木一雄 ○加藤元彦  
◎ 野野東彦 (計21名)

7月7日(日) 晴れのちくもり  
J 大垣駅集合8・40(バス) 池  
ノ又林道終点10・20→夜叉ヶ池12・  
00(昼食) 12・45→夜叉池山13・  
00→夜叉池ヶ岳13・20→国前14・  
10→20(バス) 大垣駅19・00(解  
散)

登山道から見える夜叉池とフ  
ナ林の景観は何世見てもすばらし  
い。ニコワキスゲ・キノコウカ・  
イブキトラノオなどの高山性の花  
も咲いていた。二国岳(尾をのほ  
してササの海に沈没。雄者が時  
間も遅れてしまい、大垣で反省し  
ました。

(参加者) 岩城聖子 狩野美穂恵  
幸田正英 渡辺靖子 赤川久江  
夏山登子 布原清美 砂原美美子  
深沢 寛 深坂昌子 若松朝子  
堀田輝子 松尾麗子 松上美子

村井寿和 ○藤原 邦  
◎ 鷺見守康 (計17名)

元越谷(鈴鹿を歩く1226)  
7月8日(日) 晴れ  
元越谷手前広場集合8・25→谷取  
村8・55→砂防ダム上河原9・10  
→大滝10・05→仏谷山合10・30→  
仏谷右横山合11・00→砂防11・40  
→大岩12・10(昼食) 13・00→  
水沢峠13・35→水沢所津峠14・10  
→元越谷鉄道14・45→比叡16・00  
(解散)

集合場所に着くとスイカの朝市  
が開かれていた。でっかいスイカ  
一個千円。元越谷に入ると大滝の  
下は危険水位を突破。濡れっいで  
に泳ぐ人もいた。但回か下半身水  
に浸かりながらの進行と滝のクラ  
イミングを楽しんだ。大岩での食  
後はスイカのデザート。予定外の  
水泳大会も盛り、楽しい山行とな  
った。

(参加者) 湯浅康夫 後藤康幸  
古川 昭 太右衛門 関野太一郎  
谷 守 久雄 雨 智恵子  
池田隆一 神野孝元 加藤国計  
堀田隆利 編 長江 石川由美英  
森本 勝 森本洋子 桑谷 昭  
水谷隆之 赤川秋治 嶋本美恵子

吉岡 仁 関野 明 武村千鶴  
田尻 華 ○山田京三  
◎岩野 明 (計26名)

近畿自然歩道

山陽路コースを歩く5  
7月8日(日) 晴れ  
JR三ノ宮駅東口8・40(バス)  
新原9・15(サイクリングロード)  
9・30(どんとダム)10・20(徳飯)  
神社11・00(千体地蔵)12・50(伽)  
院)12・25(昼食)15・10(伽耶)  
院)バス停15・30(バス)三ノ宮  
駅16・15(解散)

緑豊かな巨額伽耶院の境内で第  
5回記念パーティー。そのめんと  
参加者持ちよりの心づくしのご馳  
走。情報交換などして有意義な一  
日であった。

〔参加者〕野間耕夫 入江武史  
三輪浩子 岩城豊子 眞田久子  
加来昌子 小山 輝 大和 絃  
平政英子 河崎妙子 兼田幸子  
岩田育士 住田源隆 大前千代子  
宮下淳一 小林博子 大前博子  
佐野信江 前田幸子 岩本いすゞ  
今村 眞 岡田昇 岡田恵美子  
松本小遊 松本洋子 田中三恵子  
美村幸治 北川良子  
◎須藤高 順 (計29名)

◎平井恒夫

(計18名)

京都西山・ポンボン山

(平日水曜ハイク42)

7月11日(日) 晴れ  
JR高槻駅9・20(バス) 西京都  
駅西前所10・14(大原野森林公園  
(森の家四所)10・50(あまっ  
の巨分岐)10・00(山伏分岐)11・  
35(りょうぶの丘)11・50(昼食)  
12・50(ポンボン山)13・07(20  
分岐分岐)13・36(駅通)13・48  
(京西の森)14・25(立石橋)15・17  
(奥山印寺)バス停15・30(阪急長岡  
天神)16・04(解散)

ポンボン山へは自然が一番豊か  
な登山道で、樹木が多く涼しくつ  
つ、入口には駐車場をつくらず、  
また登山道も手を入れないこと  
と、いつまでも里山の雰囲気を残  
してほしいものだ。奥山印寺から  
は炎熱のアスファルト道で、希望  
者はバスを利用した。

〔参加者〕本間隆 本間 隆  
小西啓雄 近藤 恭 兼田幸子  
松尾昭子 中谷幸子 森本幹雄  
小野典子 平政英子 由尾恵美子  
由尾光治 山上和代 田中幸子  
谷 守 中村幸子 千原千枝子  
橋本時久 妹尾正二 井上由紀晴

和泉・紀見峠から若湯山

7月8日(日) 晴れ  
南海紀見峠駅集合9・50(根王谷  
三合目)11・10(五ツ辻)尾根広  
場12・05(昼食)12・40(若湯山  
13・00(横尾江)三石山登山口分  
岐)高山林道(紀見峠)16・10  
(解散)

梅雨の季節なのに、晴天に恵ま  
れ、三合目までは蒸し暑く汗だく  
になった。尾根歩きは時折樹間か  
ら爽やかな風が吹き抜けて疲れを癒  
してくれた。朋友にサポートされ  
ながら無事に初の例登山行を終え  
た。

〔参加者〕石林文夫 高岡富美子  
磯部 純 家人敬光 中川正敏  
妹尾公代 熊木秀雄 中田 恵美子  
長沢佑美 岡本英倫 中島日出男  
茨木良雄 磯 翠子 石井恵美子  
○中村英雄 ◎西上利和 (計16名)

三河・明神山

7月8日(日) 晴れ  
JR豊橋駅8・12(電車) JR東  
栄駅9・43(50(タクシ))三ツ  
瀬山登山口10・15(尾根出合)10・  
50(乳岩海分岐)11・45(明神山)12・  
27(昼食)13・00(三ツ瀬山分岐)  
13・25(岩倉)14・25(乳岩海入口

角江朝子 速水 保 中上紀代子  
長尾節子 今川芳子 宮澤知代子  
岡田春美 栗山登夫 光川二美子  
眞田久子 ○青木一雄  
◎湯浅次男 (計22名)

海山・高丸山(三重の山57)

7月11日(日) 晴れ  
滝原自転車場集合8・00(車) 道  
の駅海山9・20(車) 使ノ山(車)  
林道・登山口12・05(鉄塔)鉄塔  
一分岐尾根(大鉄塔)25(高丸  
山)11・50(昼食)12・40(大鉄塔  
林道方面分岐)小笠原14・40(一  
間道)12号(相賀)尾根(ライプニ  
ン)14・55(かき水休憩)15・20  
(車) 使ノ山・林道・登山口15・  
35(車)尾根(ライプニン)16・00  
(解散)

林間コースで直射日光は避けら  
れたが、一升越えり本分くら  
いのが出た。大鉄塔と頂上からの  
展望はベリーグッド。海山町はま  
さに海と山とさながら川の町でもあ  
ることを感ずる。

〔参加者〕小畑昌男 平 幸子  
平 龍一 汐崎 光 石田健由美  
水谷鉄治 新町幸夫 藤井みつと  
○船尾逸夫 ◎尾崎英五 (計10名)

15・00(三河川合流)15・38(解散)

タクシで三ツ瀬山登山口へ行く。  
尾根に取りついてからは、岩場を  
登ったり下りたりつかまつり鉄塔子  
に登ったりと、遊び心をもって歩  
くことも楽しいコースだった。  
尾根では岩の訓練をしている。明  
神山は岩峰と岩稜の山であること  
感ずる。

〔参加者〕緒方由子 穴戸善久仁  
前川久枝 砂原恵美子  
岡本美千子 ◎小田良春 (計6名)

奈良

電在峠・芋ヶ峠・高取城址  
7月9日(日) くもり時々晴れ  
近鉄桜井駅南口集合8・50(バス)  
多武峯淡山神社駐車場9・50(冬  
野湯)水場9・55(冬野)10・00  
電在峠10・55(流川分岐)11・05  
滝川4等三角点11・50(広場)11・  
55(昼食)12・30(芋ヶ峠)13・05  
高取城址13・50(14・10(第石  
14・20(相の森分岐)14・40(大根  
15・00(飛鳥)16・00(解散)  
冬野の向かいの湧き水で喉を潤  
し山道に向かう。夏草生い茂るな  
か足元に気をつけ、人工林のなか  
を歩みながら歩く。高取城址・  
磐石・檜隈寺跡等の遺蹟を見て帰

室生・尼ヶ岳から大洞山

7月15日(日) 晴れ  
近鉄名張駅集合9・45(バス)  
下太郎生10・40(富士見峠)11・42  
一尼ヶ岳12・15(昼食)13・00(一  
倉骨峠)13・27(大洞山)14・25  
30(雄岳)14・50(雄王堂)15・30  
一太郎生15・55(バス)名張駅  
16・55(解散)

尼ヶ岳への階段道の登りはかな  
り厳しかったが、全足はしっか  
りしていた。尼ヶ岳が終わってか  
ら、大洞山の階段道がありワン  
ザリした。コース上から見た室生  
の山々の展望はすばらしかった。

〔参加者〕小林 稔 木村 豊  
飯田良子 柳川常雄 六戸善久江  
岩本健二 岩本彰子 前田喜久子  
松尾止敏 福間 章 中尾美穂子  
入江武史 松田和恵 川北恵美子  
川中 保 宇野弘幸 渡辺美佐子  
廣瀬 邦 岡田朝子 岩本いすゞ  
中川光郎 徳田暢子 小坂さゆり  
山田幸子 奥山登夫  
黒河内英洋明 ◎市野浩文  
○中村英雄 ◎小山良春(計16名)

須谷川(鈴鹿を歩く123)  
7月20日(日) 晴れ  
ひろせ酒店前集合9・00(須谷川

路に着いた。

〔参加者〕森本幹雄 岩本彰子  
並木壽子 森本幹雄 上田久子  
北川武司 北川公孝 石井恵美子  
森本 勝 森本寿子 高木 晋  
山本京子 美村幸治 南 ミヤ子  
越井洋子 ○前川和博子  
◎塩本廣治 (計17名)

北山・菅子山

(平日ふれあいハイク27)  
7月10日(日) 晴れ  
JR堅田駅集合8・35(44(バス)  
下坂下9・20(25(小さな滝左岸  
へ)10・40(菅子山)への分岐)11・05  
一菅子山)11・50(昼食)12・45(一  
菅大谷)安曇川出合)15・30(一  
平)15・15(59(バス)堅田駅16・  
35(解散)

ツボクリ谷から皆大谷。安曇川  
沿いを平へと、一日中杖筋ばかり  
で涼しい風があった。谷を左に右  
にと何度も渡り、皆大谷は急坂で、  
小さな要領を楽しんだ。

〔参加者〕尾根一令 本間 隆  
松村雅子 渡辺節子 中野眞理子  
山根弘美 森 晴代 加藤浩一  
仲谷和司 菅生幸子 江坂英樹子  
岩本彰子 諏訪純子 大橋延道  
谷 守 酒井悦子 ○田中善雄

9・10(岩の洞門)1・30(昼食)

12・30(源流登山道)13・50(42  
1号線)15・25(ひろせ酒店)15・50  
(解散)

連日の猛暑(炎)にちと生えまっ  
た。湯や淵を泳ぎ、飛沫を浴びて  
滝を登ると岩の洞門。焚火を囲ん  
で腹をとりながらの昼食。暑さ知  
らすの楽しい山行となった。

〔参加者〕小林 桂 渡辺由美子  
谷 守 湯浅恒夫 森合ひろ子  
神野孝允 加藤和計 南 智恵子  
原 光一 高原秀彦 寺井恒夫  
○山田京三 ◎岩野 明 (計16名)

西アルプス

滝見岳・関ノ岳・北岳  
(自然観察山行88)  
7月20日(日) 23日(月) 3日(4日)  
(20日) 晴れのちくもり) JR岐阜  
駅集合8・50(9・00(バス)  
鳥谷林道車止地点)14・40(登山口)  
15・10(三伏峠)16・50(山)  
(21日) 晴れのちくもり(一時曇)  
三伏峠小屋)20(本谷山)見小  
屋)8・15(25(出立)35(10・  
00(北岳山)掛鐘小屋)11・45(昼  
食)12・30(熊ノ平)小屋)15・10  
(山)

22日) 晴れ時々くもり) 熊ノ平





し、湖底の滝と水潭の落ち水音が  
多く涼風を吹き出していた。

○(参加者) 櫻田勝利 奥野太一郎  
永谷鉄治 堀 芳江 石田真由美  
森本 隆 森本洋子 武藤由美子  
奥田昌雄 谷 守 神野孝允  
加藤園計 小林 桂 小林 英  
○山田豊三 ◎若野 明(計16名)

比良・蛇谷ヶ峰

8月26日(雨)

JR近江高島駅集合9・55〜10・  
10(タクシ) 湖10・25ヨコタ  
ニ峠11・20一ボボフツ峠11・50一  
蛇谷ヶ峰12・45(食堂) 13・20一  
猪の馬場14・17一桑野橋15・03  
(六) 野田駅16・45(観音)

煙から雨音をきき始めて歩き始める  
が、すぐに樹林帯のなかななる。  
暑いので雨具を脱いで歩く。山頂  
では小雨になり、琵琶湖や武奈ヶ  
岳・稲船山が見えた。秋がすぐそ  
こに来ているように感じた。

○(参加者) 馬場勇 小坂さゆり  
宮下洋一 大和 絃 前田啓久子  
朽名生石 橋坂栄二 藤野美穂恵  
村井芳和 藤野重治 中尾美穂子  
市野博文 ○中村英雄  
○福澤 章 ◎小山良春(計16名)

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊、年6号発行)の  
定期購読者を中心としたハイキン  
グの集まりです。

この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなどで、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、情報豊かで健康  
な身体をつくり、自然のなかを歩  
く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に50年  
間も好評のうちに活動してきてま  
した。関西は平成3年発足で10年目  
に入りますが、すでにたくさんの方  
が活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて正しい山歩きを、楽しい山  
仲間たちと味わいましょう。  
リーダー(会費)はすべて無償の  
奉仕で、各自で山行を買い茶代を  
払い、宿泊料もすべてワリカンで

会員には毎月「新ハイキング関  
西の山」をお送りします。  
四季の自然に触れながら歩き

北山・焼杉山から金尾羅山  
(北山ちょっと歩き24)

8月29日(雨) 晴れ

京都地下鉄北大路駅集合7・50〜  
59(バス) 小出谷8・40〜51シャ  
クナゲ尾根10・10 焼杉山11・55  
(休息) 12・55一翠嵐山14・00一  
金尾羅山14・30〜50一江文神社15・  
20(解散) 戸寺バス停へ  
シャクナゲ尾根道のゆるやかな  
登りから樹林歩きで日差しを浴び  
ることもなく、足元のイガグリや  
心地よく吹き抜ける風に「足早い  
秋を感じた。金尾羅山のくつろ  
ぎタイムでは京都の歴史と展望を  
堪能した。

○(参加者) 長尾一介 前尾健治  
本澤志夫 本間 隆 木間繁子  
山岸隆雄 細野敏也 波多野恵子  
南 寛子 安良陽子 酒井悦子  
中村 保 田中幸子 岩本いすゞ  
緒方昭子 島田京子 荻村幸治  
竹田善英 ○西條孝次  
◎奥山豊三 (計20名)

紀泉・横尾山  
(ファミリーハイイク3)

8月30日(天) 晴れ

和泉中央駅集合9・30(バス) 側  
川10・00一清水の滝11・30(休息)

12・30一睡蓮寺13・40〜14・00一  
寝台14・20一横尾山頂14・30一横  
尾山バス停15・20(バス) 和泉中  
央駅16・20(解散)

側川溪は和泉系とつておきの  
良い谷であった。清水の流の谷底  
からロープウェイの急登をがんばっ  
た。寝台の岩場からの眺めに喚声  
があがる。山頂の下りは地味な参  
道を過ぎずに樹林帯を歩いた。

○(参加者) 松村雅子 岩本彩子  
飯田昌子 中村英雄 山口あさみ  
岩城豊子 清水 保 中尾美穂子  
眞田久子 長沢佑美 千葉千枝子  
妹尾一正 前尾健治 成川みさお  
盛 敏子 中谷豊多 中澤ちず子  
本間昭恵 高田和子 青木一雄  
○中村友昭 ◎木村太郎(計20名)

キャンプ&ハイク  
比良・八潮の滝から武奈ヶ岳

9月1日(天) 2日(雨)

1日 晴れ 近江高島駅集合15・  
30(バス・マイカー) ガリバー旅  
行村15・55(自炊・施設テント泊  
へ行く) くもり 旅行村8・05一  
滝子の滝8・35一大樽峠8・50一  
9・00一貫船の滝9・05一20一オ  
ガサカ滝分岐9・55一八雲ヶ原10・

30〜40一武奈ヶ岳11・50(食堂)  
12・40一細川越13・00一イブルク  
ノコバ分岐13・30〜40一太鼓峠14・  
35〜50一ガリバー旅行村15・05一  
45(休憩・解散)

1日目は、焼酎と冷酒の食前酒  
で焼肉パーティーが始まり、恒例  
の釜こねも加えて満足ゆくまで食  
べかつ呑んで夏バテ解消に努めた。  
2日目は、比較的適しやすいう  
温で、八潮の滝を過行した。滝子  
の滝と貫船の滝の高橋きのルート  
ヤマトは来るたびに変化があっ  
て毎回楽しめる。釜の切れ目から  
湖北を眺めながら息食をとり、広  
谷から旅行村へ戻った。

○(参加者) 小林 聡 長尾昭子  
秋田桐師 中川光昭 森藤貞義  
占慶信廣 古澤 清 石野賢一  
岩田貴子 中村静香 角田一江  
福岡 章 塩尻香織 藤野美穂恵  
古本泰之 龜本廣治 宮本真尋  
宮本悦子 小林 桂 ○加藤元彦  
◎持野東彦 (計21名)

綿向山の日  
11月10日(山) 雨天中止  
日野町観光協会  
0748(52) 1211

若々しい心と健康をいつまでも持  
続するのは素晴らしいことです。  
これから始めてみたい人も、すで  
にベテランの人もみなさんご入会  
いただけます。

入会金 5000円(バッグ代)  
年会費 3000円(送料共)  
入会の申し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の返信用紙をご利用可  
ださいます。氏名(ふりがな)及び第  
一回号からの送本かを忘れずにご記  
入ください。

なお、定期購読をご希望される  
方も会員になっていただきますと、  
毎号送付にお手元に届きますので  
便利です。  
切手500円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」見  
本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集  
リーダーは2ヶ月に1〜2回程  
度の山行例会を計画・実施してい  
ただきます。  
無償の奉仕ですが、やりがいも  
あり、楽しいものです。経験のある  
方や、やってみたいと思われる  
方は、新ハイキング関西まで送  
絡ください。マニュアル「リーダー  
の必携」を送ります。

○新入会員紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号4551番から4590  
番まで

- 【愛知】 伊藤 直 小島由利子  
大倉隆行 大金龍雄 吉岡美津香
- 【岐阜】 渡谷義光
- 【三重】 池田 茂 杉前明司  
松岡昭昭
- 【滋賀】 針谷貞夫 針谷静子  
平山雅美 鈴木雅雄 服部 亮  
佐藤隆一 佐藤万理子
- 【京都】 村野筋子 山上和代  
吉岡義枝 池田公憲 廣田敏子  
山本匠浩 中島金一郎
- 【大阪】 田尾 肇 金藤千恵子  
大田勝子 高田和子 本間昭恵  
村上勝子 山村茂樹 中澤ちず子  
後藤慶子
- 【奈良】 竹中 武
- 【兵庫】 斎藤百合子  
渡辺サキ 古田廣隆二 足立泰隆  
足立利枝 上村美保 (40名)

訂正とお詫び

80号(初秋) 43ページ三原東中  
部ルート地図図上「鼻山」とある  
のは「鼻山」が正しい。  
90号(初秋) 74ページ表題の  
「新ハイキング」の読み方は「こうやっ

じ」が正しい。(編集者)

リーダー会のお知らせ

期日 12月9日(日)  
集合 京都地下鉄烏丸線「北大  
路駅」(京都駅から15分)  
下車、滋賀線旅行村10時  
会場 京都北山「天孫サンパレ」  
(北大路駅から往復共送  
迎バス、片道1時間)  
予定 ①集合 11時〜13時(約2時間)  
②忘年会(恒例)  
13時〜16時(約3時間)  
会費 5000円  
右記の通り行います。なお、リー  
ダー・サブリーダー以外でも、今  
後活動してみたいと思われる方は  
いっしょにご参加ください(11月  
20日までに本村村出まで連絡を)

毎月お求めになりたい方へ  
前もって書店に予約はし  
て「購読予約」をされますと、  
とこの書店でもお買い求めい  
ただけます。購読月の20日(土)  
(毎月)の発売です。